

2020年度

授業科目別シラバス

－ 基本教育科目 －

佐久大学看護学部

【基本教育科目】

授業科目名	授業科目コード	配当年次時期	履修方法	単位数 時間数	授業形態	開講曜日 時限
人間存在と道徳意識	101	1前	選	2単位 30時間	講義	月3
担当教員（○印＝科目責任教員）						
○宮入宗乗（MIYAIRI, Shujo） 増田友厚（MASUDA, Yuko） 塩入とも子（SHIOIRI, Tomoko）						
オフィスアワー／連絡先と連絡方法						
授業終了後に教室でアクションカードにより質問を受け付け、回答・所感などを次回またはそれ以後の授業にて公開し、学びを共有する。（質問者の氏名は原則公表しない。）						
授業の概要						
<p>主として「すべての生命の尊厳」と「自己存在の意味」を学び、社会的存在としての人間の義務や責任、共存のための規範や意義について考える。その際、特に日本人の日常生活や精神文化に深く影響を及ぼしてきた、仏教の死生観・身心観を通して、「生命の尊さ」や「自己と他者との関係性」への気づきや社会に生きるために必要な規範、道徳の本質について考察し、道徳的行動をとれる人間としての規範意識を涵養する。</p> <p>また、人間観や世界観について、さまざまな考えがあることについて学ぶ。とりわけ、現代社会における「いのちの尊厳」への軽視傾向に向きあい、すべての生命の尊重・人間社会や自然環境との調和・共生への自らの関わり方について学ぶ。</p>						
到達目標						
<ol style="list-style-type: none"> 人間や人生に関わるさまざまなことに想いを深め、思考しようとする姿勢が醸成される。 倫理学の対象と方法について、日常底に活かすことができる。 歴史的に日本人の精神性に影響を与えた仏教の生命観・死生観から学び、いのちの尊さと不思議に気づくことができる。 「自分」と「他者」との垣根を越えた思考や行動について考え、その関係性を大切に思う心が養われる。 他者の思いや言葉を能く聞くことができ、自分の思いや行動を相手に伝える姿勢が養われる。 						
卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連						
「命の大切さを深く理解し、擁護する能力」を身につけ、他者へのさまざまな気づきにより、「社会貢献への喜び」を感じることでできる人格の形成を目指す授業科目である。						
授業計画						
回数	授業内容	授業方法	担当教員			
1	○学習テーマについてのオリエンテーション（授業の方向付けとこの授業で学ぶことを示す。） 『今、いのちを考える』…「生命とは何か？」～その定義と実像について～なぜ「今」なのか。そして「いのち」とは？ この授業をとおして、「人の生命の現場」に真向いながら、人生の中で使命感を持って生きようとする「看護」の道を目指す学生と、日ごろ日本人の生死（しょうじ）の現場に深く関わってきた宗教者である講師とともに『人類普遍の生命観・死生観』に加えて、とりわけ『仏教の生命観・死生観』（釈尊のおしえ）に視点を置きながら学びを深めていく。	講義	宮入			
2	「諸行無常」と云うこと（釈尊の生涯・世界観・死生観の根底にあるもの）	講義	宮入			
3	「四苦」と云うこと…この世に生まれた限りは背負うもの	講義	宮入			
4	「四苦（生病老死）」の素顔（社会現場におけるさまざまな具体的現れ）を見る	講義	宮入			
5	今あらためて「生命は何故大切か？」（1）	講義	宮入			
6	「生命は何故大切か？」（2）	講義	宮入			
7	いのちの実像① 生まれるいのち、今を生きるいのち、そして支えるいのち	講義	宮入			
8	いのちの実像② 去り行くいのち、やがて死すべきいのち	講義	宮入			

9	『道元』に見る「いのちの視点」(1) ①道元禅師の生涯と足跡 ②「典座教訓」(その1)	講義	宮入
10	『道元』に見る「いのちの視点」(2) ①「典座教訓」(その2) ②「赴粥飯法」	講義	宮入
11	「いのち」を行ずる「四摂法」について (1) ①四摂法」とは ②布施・愛語	講義	宮入
12	「いのち」を行ずる「四摂法」について (2) ①利行 ②同事 ③まとめ	講義	宮入
13・14	『坐禅』体験(実習)をとおして「自分と向き合う」ことを学ぶ (佐久市内蕃松院にて)	講義 演習	宮入 増田
15	まとめ ・坐禅体験をとおしての感想・補足等 ・今までに提起された疑問・質問への回答のうち未回答のもの ・看護を目指す上で、あらためて『なぜ今「いのち」なのか?』を考察する。 ・講師より「贈る言葉」…今後の人生において活かせる、先人の残したさまざまなかつ珠玉の「ことば」たちを贈る。	講義	宮入
授業時間外学修(準備学習を含む)の具体的な内容及びそれに必要な時間			
毎回授業時に授業内容に応じた重点項目・箇所などを提示し、資料の読み直しなどによる理解の向上について指示する。1回の授業について、1時間程度予習・復習(資料の熟読)を行うこと。			
テキスト及び参考書、参考文献・参考URL等			
指定しない。 講師作成の教材・資料集を配布する。			
成績評価の方法・基準			
レポート(60%) 授業参加状況(40%)			
課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法			
授業時に説明する。			
担当教員からのメッセージ			
いのちの不思議に目覚め、人として生きる意味を確かめ、他のために役立つ、誰かに必要とされる「自分」と出会おう!			
実務経験のある教員等による授業科目(実務経験と当該授業科目との関連)			
元住職である教員が、その実務経験を活かした授業を行います。(宮入宗乗)			

【基本教育科目】

授業科目名	授業科目コード	配当年次時期	履修方法	単位数 時間数	授業 形態	開講曜日 時限
人間心理と人間行動	102	1前	選	2単位 30時間	講義	火4
担当教員（○印＝科目責任教員）						
○倉田郁也（KURATA, Ikuya）						
オフィスアワー／連絡先と連絡方法						
授業日の13時から14時30分まで、授業終了後から18時までの間 カウンセリングルーム（1号館1F）へお越しください。						
授業の概要						
人は物理的（物質的）存在であるとともに、心理的・論理的存在である。人の行動（言動）・反応は、内面の心理（認知構造等）を通して行われる。従って、人の行動を理解するためには、人の心の理（心理）を知る必要がある。また、人の心理を理解するためには人の行動を読み解く必要がある。当授業では、人の心の働きについて理解を深め、人が見せる様々な行動の意味、行動化の原因としての心の働きやメカニズムについて理解を深め、人の行動と心の働きの関連を理解していく。学習を通して、多様な人間の多様な心と行動の理解を深めていく。						
到達目標						
1. “こころ”を科学的に理解しようとする態度を身につける。 2. “無意識”の存在と働きを知り、行動に及ぼす影響を知る。 3. “こころ”についての幾つかのとらえ方・理解の仕方を学び、イメージできるようになる。						
卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連						
「豊かな人間性と幅広い教養」を身につける授業科目である。						
授業計画						
回数	授業内容	授業方法	担当教員			
1	ガイダンス	講義	倉田			
2	人を見る（見る・観る・覧る・視る・診る・看る）とは、人を理解するとは	講義				
3	科学的視座・科学の要件、人間学とは、心理学の立場・研究方法・分野	講義				
4	類型論（C.G.ユング、クレッチマー、シェルドンの類型論）	講義				
5	特性論（オルポート、ギルフォード等の特性論）	講義				
6	精神分析学（S.フロイト等）と分析的心理学（C.G.ユング等）	講義				
7	アドラー心理学〔個人心理学〕（A.アドラーによる人間理解とその方法）	講義				
8	人間性心理学〔成長モデル心理学〕（C.ロジャースによる人間理解とその方法）	講義				
9	行動科学としての心理学、臨床心理学、健康心理学、社会心理学	講義				
10	ストレスと認知構造（ストレッサー、認知構造、ストレス反応）、ストレスと付き合う	講義				
11	行動変容と心理療法（心理療法の考え方・立場、いくつかの心理療法紹介）	講義				
12	医療・保健・福祉分野における心理学的支援（心理相談業務と福祉相談業務の類似点と差異）	講義				
13	認知療法、論理療法、行動療法、認知行動療法 概説	講義				
14	発達と発達課題（ピアジェ、フロイト、エリクソン、ハヴィガースト等の発達段階区分と発達課題）	講義				
15	高齢者を理解し、支援するということについて 認知症、介護ストレス等について 総括	講義				
授業時間外学修（準備学習を含む）の具体的な内容及びそれに必要な時間						
授業の復習を30分確保して下さい。小テストを行います。 図書館等を利用し、広く心理学に関する読書をして、30分予習をしください。						

テキスト及び参考書、参考文献・参考URL等
テキスト：榎本博明著『はじめてふれる人間関係の心理学』サイエンス社 2018年 参考文献：適宜資料を配布する。
成績評価の方法・基準
筆記試験（60%） 小テスト（30%） 授業参加状況（10%）
課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
採点とコメントを付して返却する。
担当教員からのメッセージ
積極的な授業参加を求めます。
実務経験のある教員等による授業科目（実務経験と当該授業科目との関連）
該当なし

【基本教育科目】

授業科目名	授業科目コード	配当年次時期	履修方法	単位数 時間数	授業形態	開講曜日 時限
人間関係とコミュニケーション	(A) 103 (B) 104	1前	必	2単位 30時間	講義	(A) 金1 (B) 金2
担当教員（○印＝科目責任教員）						
○宮内克代（MIYAUCHI, Katsuyo）						
オフィスアワー／連絡先と連絡方法						
授業終了後に教室で質問を受け付ける。						
授業の概要						
コミュニケーションの様々な形について理解し、自己と他者との関係、他者相互間の関係等について理解を深める。対人コミュニケーションの基本的な理論や先人の知恵を学習し、学んだ理論を実感し体得すべく、演習を行う。						
到達目標						
コミュニケーションの意味と仕組みが理解できるようになる。 社会人として、また看護専門職としての対人コミュニケーションスキルを磨くことを目標にする。						
卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連						
「豊かな人間性と幅広い教養」を身につける授業科目である。						
授業計画						
回数	授業内容	授業方法	担当教員			
1	医療コミュニケーションとは何か	講義と演習を 有機的に組み 合わせる	宮内			
2	コミュニケーションの種類と構成要素					
3	言語的コミュニケーションと非言語的コミュニケーション					
4	看護におけるコミュニケーション					
5	質問技法					
6	積極的傾聴と共感					
7	関係構築技法					
8	面接の技法					
9	面接トレーニング					
10	事例研究①					
11	事例研究②					
12	多職種連携とコミュニケーション					
13	アサーティブ・コミュニケーション					
14	患者家族とのコミュニケーション					
15	まとめ					
授業時間外学修（準備学習を含む）の具体的な内容及びそれに必要な時間						
コミュニケーション演習の一環として、インタビューやレポートなどの課題がある。 1回の授業について、2時間程度予習復習を行うこと。						
テキスト及び参考書、参考文献・参考URL等						
テキスト：篠崎恵美子他『看護コミュニケーション』医学書院 参考文献：プリント配布						

<p>成績評価の方法・基準</p> <p>筆記試験（50%） 課題（25%） 授業参加状況（25%）</p>
<p>課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法</p> <p>授業中に個別に発表し、講師が講評を行う。 詳細は授業時に説明する。</p>
<p>担当教員からのメッセージ</p> <p>「自分の意見を相手に伝わる形にして、述べる」という体験と「さまざまな事例にどのように対処するか、考える」という考察をしていく。理論や事例などのすべてを「自分自身の問題」と考えて、積極的に授業に取り組むこと。</p>
<p>実務経験のある教員等による授業科目（実務経験と当該授業科目との関連）</p> <p>該当なし</p>

【基本教育科目】

授業科目名	授業科目コード	配当年次時期	履修方法	単位数 時間数	授業形態	開講曜日 時限
健康管理と生活習慣	105	1後	選	2単位 30時間	講義	木1
担当教員（○印＝科目責任教員）						
○朴 相俊 PARK, sangjun s-park●saku.ac.jp 研究室 1号館3階319						
オフィスアワー／連絡先と連絡方法						
原則、授業終了後に教室で質問を受け付ける。 質問は、メールでもよい（常時）。オフィスアワー以外の面談の予約はメールで可能である。						
授業の概要						
人間が健康的に暮らし、快適に寿命を全うする上で、暮らしを取巻く環境と生活習慣、自律的健康管理の積み重ねは重要な影響因子となる。健康の回復・維持・増進や自己管理のための基礎的な知識を深め、心身の健康維持に必要とされる運動や思考、生活習慣などについて、科学的根拠に基づく対策の仕組みの理解と行動変容につながる介入のあり方を理解する。						
到達目標						
1. 学生が自己の生活習慣を見つめ、健康とのつながりを理解する。 2. 心身の健康管理のあり方を考え、また、支援者としての役割を自覚する。 3. 人の多様性を理解し、上手な対人関係のための知識を深める。						
卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連						
「命の大切さを深く理解し、擁護する能力」を身につける授業科目である。						
授業計画						
回数	授業内容	授業方法	担当教員			
1	健康とは WHOの健康の定義・公衆衛生と予防の概念・健康づくりと影響因子	講義	朴			
2	命の大切さについて 自殺問題・心の健康問題	講義				
3	働き盛り世代の健康問題について 生活習慣病・職場における自律的健康支援対策	講義				
4	ゲートキーパーについて① 自殺問題とゲートキーパーの役割	講義・演習				
5	ゲートキーパーについて② 自殺する人の心理とゲートキーパーとしての心得	講義・演習				
6	自殺に関する偏見について 自殺は合理的な選択なのか	講義				
7	認知行動療法を知る	講義				
8	認知行動療法の実践	演習				
9	精神分析の概要	講義				
10	ストレス科学分野の研究	講義				
11	支援者として自己管理	講義				
12	人の多様性の理解① 男女の違い	講義				
13	人の多様性の理解② 人の5つの言語の違い	講義				
14	コミュニケーションスキル ところに届く言葉の伝え方	講義				
15	まとめ 授業のポイントの振りかえり	講義・演習				

授業時間外学修（準備学習を含む）の具体的な内容及びそれに必要な時間
授業時間内のグループワークが必要になります。
テキスト及び参考書、参考文献・参考URL等
テキスト：指定しない。 参考文献：講義の中で提示する。
成績評価の方法・基準
授業参加状況（30%） 授業終了時のミニレポート（20%） 課題レポート（50%）
課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
授業時に指示する。
担当教員からのメッセージ
成績評価の方法・基準の「課題レポート（50%）」とは、授業時に出される自分の心身の振りかえり記録資料を指します。授業時間内の「グループワーク」も本科目において重要なポイントですので、積極的にグループワークに参加するようにしてください。
実務経験のある教員等による授業科目（実務経験と当該授業科目との関連）
該当なし

【基本教育科目】

授業科目名	授業科目コード	配当年次時期	履修方法	単位数 時間数	授業形態	開講曜日 時限
人間環境と生物科学	106	1後	選 (保) 必	2単位 30時間	講義	水2
担当教員 (○印=科目責任教員)						
○片野 修 (KATANO, Osamu)						
オフィスアワー／連絡先と連絡方法						
授業終了後に教室で質問を受け付ける。 また、授業以外の時には電子メールで受け付ける (メールアドレスは別に知らせる)。						
授業の概要						
我々人類を取り巻く環境について、地球規模で理解し、環境問題や地球環境保全に関する理解を深める。環境汚染や環境破壊が人間を含め生物や自然に与える影響について理解する。						
到達目標						
<ol style="list-style-type: none"> 1. 環境とは何かをグローバルな視点で理解し、説明ができる。 2. 様々な地球環境の問題について説明ができ、その関連性についても理解ができています。 3. 水と生命、水環境と保全などについて、現状を理解し、その問題点についても言及できる。 4. 化学物質のリスク評価について説明ができる。 5. 化学物質が私達の健康に与える影響について説明ができ、関連内容についても理解ができています。 						
卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連						
「豊かな人間性と幅広い教養」を身につける授業科目である。						
授業計画						
回数	授業内容	授業方法	担当教員			
1	環境とは、環境問題とは何かについて学ぶ。(第1章 人間と環境)	講義	片野			
2	公害とは 公害の定義：日本の公害、世界の公害などについて学ぶ。(第2章 公害発生と法規制)					
3	水と生命(1) 水質の決まる仕組みについて学ぶ。(第3章 水と生活環境)					
4	水と生命(2) 日本の水の水質の特徴について学ぶ。(第3章 水と生活環境)					
5	水と健康(上下水道)について学ぶ。(第3章 水と生活環境)					
6	水系感染症、食中毒などについて学ぶ。(第4章 都市環境と自然)					
7	水質を計測する指標、水の循環について学ぶ。(第5章 酸性雨と大気環境)					
8	化学物質の生体内での蓄積(1) 生物濃縮、濃縮係数などについて学ぶ。					
9	化学物質の生体内での蓄積(2) 単位、吸収と代謝などについて学ぶ。					
10	化学物質の生体内での代謝経路などについて学ぶ。					
11	化学物質とその健康影響について学ぶ。例:PCB、ダイオキシン類など(第6章 化学物質と環境)					
12	化学物質の毒性評価：毒の概念、毒の評価法などについて学ぶ。(第6章 化学物質と環境)					
13						
14	発がん性化学物質について(1) 発見の歴史などについて学ぶ。					
15	発がん性化学物質について(2) 発がんのメカニズムなどについて学ぶ。がんの疫学などについて学ぶ。					

授業時間外学修（準備学習を含む）の具体的な内容及びそれに必要な時間
次回の授業範囲を予習し（指定したテキストは事前に読んでおく）、用語の意味を理解しておくこと。 授業内容を毎回復習しておくこと。 1回の授業について2時間程度予習復習を行うこと。
テキスト及び参考書、参考文献・参考URL等
テキスト：鈴木孝弘著『新しい環境科学』改訂2版 駿河台出版社 参考文献：必要に応じて授業内で紹介する。
成績評価の方法・基準
筆記試験（80%） レポート・ノート提出（20%）
課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
授業時に説明する。
担当教員からのメッセージ
板書をするので、ノートをしっかりと、とってください。目で見、耳で聞いて、頭で理解し、手を動かし、要領よくポイントをまとめる訓練です。講義では重要視しています。
実務経験のある教員等による授業科目（実務経験と当該授業科目との関連）
該当なし

【基本教育科目】

授業科目名	授業科目コード	配当年次時期	履修方法	単位数 時間数	授業 形態	開講曜日 時限
社会生活と法律問題	151	1後	選 (養) 必	2単位 30時間	講義	水1
担当教員 (○印=科目責任教員)						
○関 良徳 (SEKI, Yoshinori)						
オフィスアワー／連絡先と連絡方法						
随時、メールで質問を受け付ける。 yosseki●shinshu-u. ac. jp						
授業の概要						
この授業では、①私たちの日常世界で生じている法律問題とその背景について概説する。②それぞれの問題について、法律上、いかなる取り組みがなされているかを説明する。③現在の法制度や法的対応が抱えている問題点を指摘し、改善策を検討する。④身近な法律問題に自分なりの解決を示すとともに、他の受講生との討論からより公正な判断を導き出すための問題解決型学習を行う。						
到達目標						
私たちの身のまわりの法律について理解を深めると同時に、法律的な考え方の基礎を身につけ、法的な思考にもとづいて具体的な法律問題を解決できるようになる。						
卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連						
「豊かな人間性と幅広い教養」を身につける授業科目である。						
授業計画						
回数	授業内容	授業方法	担当教員			
1	自己決定と法：法律的な考え方の基礎にある「自己決定権」について学ぶ。	講義	関			
2	消費生活と法（1）：消費生活における契約と約款の問題を様々な事例から学ぶ。	講義				
3	消費生活と法（2）：消費者契約法等にかかわる事例から消費者問題を考える。	講義				
4	事例検討[1]：自己決定権に関わる事例を裁判形式で検討し、その問題点を探る。	演習・討論				
5	家族と法：家族をめぐる法的問題（夫婦別姓など）について説明する。	講義				
6	子どもと法（1）：児童虐待の問題について、その原因や法的対応について学ぶ。	講義				
7	子どもと法（2）：現在の少年法がかかえる諸問題について概説する。	講義				
8	事例検討[2]：家族に関する事例を裁判形式で検討し、各論点について考える。	演習・討論				
9	犯罪と法：犯罪と刑罰に関する法律や今日の治安問題について解説する。	講義				
10	裁判員制度：裁判員制度の意義と問題点について考える。	講義				
11	医療と法（1）：インフォームド・コンセントと安楽死・尊厳死について考える。	講義				
12	事例検討[3]：刑事事件を裁判形式で検討し、その仕組みを学ぶ。	演習・討論				
13	医療と法（2）：代理出産、臓器移植、医療事故・医療訴訟について解説する。	講義				
14	労働と法（1）：採用と退職・解雇に関わる労働法について検討する。	講義				
15	労働と法（2）：就業時間、賃金、職場環境に関する労働法について概説する。	講義				

授業時間外学修（準備学習を含む）の具体的な内容及びそれに必要な時間
授業時間内にミニレポートを課す場合があるので、講義内容の復習を行っておくこと。 事例検討の授業では、予習レポートが課される。 1回の授業について、2時間程度予習復習を行うこと。
テキスト及び参考書、参考文献・参考URL等
テキスト：講義時に指示する。 参考文献：適宜紹介する。
成績評価の方法・基準
筆記試験（50%） レポート（30%） 授業参加状況（20%）
課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
授業時に説明する。
担当教員からのメッセージ
法律学は難しいというイメージを抱かれがちですが、この授業では身近な問題を扱うことで将来必ず必要になる知識を学びます。また、日常生活や医療にかかわる法律問題についての事例検討では、討論に積極的に参加する学生を評価します。質問・相談はできるだけ授業時間内に行うようにしてください。
実務経験のある教員等による授業科目（実務経験と当該授業科目との関連）
該当なし

【基本教育科目】

授業科目名	授業科目コード	配当年次時期	履修方法	単位数 時間数	授業 形態	開講曜日 時限
現代社会と家族関係	152	1後	選	2単位 30時間	講義	火1
担当教員（○印＝科目責任教員）						
○金高茂昭（KANETAKA, Shigeaki）						
オフィスアワー／連絡先と連絡方法						
授業終了後に教室で質問を受け付ける。						
授業の概要						
社会を形成する単位としての家族、その形成・形態や機能、構成員の役割などについて再認識し、核家族や高齢者家族など、家族関係を巡る現代社会が抱える諸問題について考える。また、携帯電話やパソコンが普及した今日のよう高度科学技術・インターネット社会・AI参入社会における多様な家族・家族関係のあり方やその変容を巡る問題、介護・健康問題など家族の抱える諸問題についての理解を深めていく。						
到達目標						
<ol style="list-style-type: none"> 1. 家族関係図をもとに、家族構成、家族・親族関係などを理解できるようになる。 2. 個人・家族関係・社会にもたらす高度情報化ネットワークやAI参入の影響について考察する。 3. 核家族の問題や、高齢社会における介護の問題について考察し、高齢者看護・介護について理解を深める。 						
卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連						
「豊かな人間性と幅広い教養」を身につける授業科目である。						
授業計画						
回数	授業内容	授業方法	担当教員			
1	家族とは、人間社会の変化と家族の変化	講義	金高			
2	家族の類型と分類（形態による類型、構成員による類型等）					
3	家族の諸機能					
4	家族を巡る今日の問題（家族構成員の個人化・個性化等）					
5	高度科学技術・情報社会と家族（パーソナルネットワークの広がりやと家族関係の変化）					
6	現代社会の将来予測（医療・福祉・保健・教育の立場から）と家族・家族関係の変化					
7	現代家族の子育て・養育問題					
8	家族の課題と危機、家族内コミュニケーションの問題					
9	家族のストレス（虐待やDV問題、摂食障害の問題等）					
10	上手く機能する家族、家族員の感情表出等					
11	エンゲル係数					
12	ジニ係数とローレンツ曲線					
13	介護問題、認知症を巡る諸問題					
14	介護保険制度利用による家族介護					
15	総括					

<p>授業時間外学修（準備学習を含む）の具体的な内容及びそれに必要な時間</p> <p>授業の復習をしてください。時々、小テストを行います。 図書館等を利用し、広く社会問題や家族関係についての読書をしてください。</p>
<p>テキスト及び参考書、参考文献・参考URL等</p> <p>テキスト：望月雅和編『子育てとケアの原理』北樹出版 2018年 参考文献：榎本博明著『はじめてふれる人間関係の心理学』サイエンス社 2018年 その他必要に応じ、適宜資料を配布する。</p>
<p>成績評価の方法・基準</p> <p>筆記試験（60%） 小テスト（30%） 授業参加状況（10%）</p>
<p>課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法</p> <p>授業時に説明する。</p>
<p>担当教員からのメッセージ</p> <p>積極的な授業参加を求めます。</p>
<p>実務経験のある教員等による授業科目（実務経験と当該授業科目との関連）</p> <p>該当なし</p>

【基本教育科目】

授業科目名	授業科目コード	配当年次時期	履修方法	単位数 時間数	授業形態	開講曜日 時限
国際社会と国際貢献	153	1前	選	2単位 30時間	講義	月2
担当教員（○印＝科目責任教員）						
○駒村 哲（KOMAMURA, Satoshi） 東田吉子（TSUKADA, Yoshiko）						
オフィスアワー／連絡先と連絡方法						
駒村：授業終了後に教室で質問を受け付ける。 東田：研究室（5号館2階201）在室時、またはメール（y-tsukada@saku.ac.jp）で事前に連絡してください。						
授業の概要						
現代の国際事情や国際社会に生じている諸問題について、発展途上国に限らず、発達した国々が持つ諸問題についても理解を深める。国の状況に応じた多様な考え方や価値観、慣習があること等を理解して、国際社会における我が国の果たす役割と貢献のあり方について考え、国際的視野を養う。						
到達目標						
（駒村） 1. 戦争と平和について基本的な事実を再確認し、論証することができる。 2. 現代国際社会の諸問題を多角的・総合的に捉える視野をもつことができる。 3. 他国に生きる人々への理解を深め、コミュニケーション能力を高めることができる。 （東田） 1. 日本と世界とのつながりを日々の暮らしを通して具体的に理解できる。 2. 保健・医療の発展と社会・経済活動について、日本と世界の国々とのつながりを理解できる。 3. 異文化について理解を深める。 4. 日本の看護の国際協力について理解できる。						
卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連						
「国内外の地域特性と文化的多様性を理解し、健康課題を捉える能力」を身につける授業科目である。						
授業計画						
回数	授業内容	授業方法	担当教員			
1	国際関係論とは何か	講義	駒村			
2	国民国家とは何か	〃	〃			
3	国際社会とは何か	〃	〃			
4	第1次世界大戦と第2次世界大戦について学ぶ	〃	〃			
5	冷戦とは何か	〃	〃			
6	国際的地域紛争について学ぶ	〃	〃			
7	現代国家の変容について学ぶ	〃	〃			
8	日本の国際貢献について学ぶ	〃	〃			
9	グローバル化の行方について考える	〃	〃			
10	21世紀の国際社会と国際貢献について考える	〃	〃			
11	国際保健・看護学の概要を理解する	講義/GW	東田			
12	持続可能な開発目標（SDGs）を基本に海外とのつながりを考える	〃	〃			
	開発途上国の健康問題と社会・経済の背景を理解する	講義/GW	〃			
	国の社会状況・保健システムの違い、プライマリ・ヘルスケアの状況を知る （日本、タイ、バングラデシュ）	〃	〃			

13	ジェンダーの平等、女性のエンパワーメントについて戦後から現代に至るあゆみを理解し、他の国の状況についても考える機会とする（例：イスラムの国）	講義/GW	東田
14	日本の看護の国際協力と国際貢献について知る（サウジアラビア、ナイジェリア、タイ等）	講義	〃
15	国内における国際活動、経済連携協定（EPA）による看護職の国内への受け入れ状況を理解し、国内の国際化について知る	講義/GW	〃
授業時間外学修（準備学習を含む）の具体的な内容及びそれに必要な時間			
指定したテキストを事前に読んでおくこと。教員が提示する課題について調べておくこと。 テキスト、講義資料を用いて学習したことを整理し、必ず復習すること。 1回の授業について、2時間程度予習復習を行うこと。			
テキスト及び参考書、参考文献・参考URL等			
テキスト：国際紛争－理論と歴史 原書第10版、有斐閣 国際看護学（看護の実践と統合3）、メヂカルフレンド社 参考文献：授業内で適宜紹介する			
成績評価の方法・基準			
教員2名による総合評価とする。 駒村：筆記試験（60%）、レポート（30%）、授業参加状況（10%） 東田：筆記試験（70%）、授業参加状況（30%）			
課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法			
駒村：授業時に説明する。 東田：次回の講義時に説明する。			
担当教員からのメッセージ			
主体的かつ積極的に取り組むこと。他国の事情を知ることは、同時に自国についても学習することであり、視野を広げることができます。			
実務経験のある教員等による授業科目（実務経験と当該授業科目との関連）			
該当なし			

【基本教育科目】

授業科目名	授業科目コード	配当年次時期	履修方法	単位数 時間数	授業形態	開講曜日 時限
地域社会と生活文化	154	1前	選	2単位 30時間	講義	金3
担当教員（○印＝科目責任教員）						
○小林 収（KOBAYASHI, Osamu） 篠崎一栄（SINOZAKI, Kazue）						
オフィスアワー／連絡先と連絡方法						
授業終了後に教室で質問を受け付ける。						
授業の概要						
信濃地方とりわけ地元佐久地方における地域特性や歴史文化について理解させることを目的とし、佐久地方の伝統的な郷土文化と生活文化の諸相について考究するとともに、地域自治の仕組みと地方行政の現状や課題について理解を深める。						
到達目標						
私たちが生活している地域が、どのように形成されてきたか、その歴史や文化を習得するばかりでなく、自らも地域の一員であることを自覚し、これからの地域社会をより良くつくり上げていく気持ちを持つ。						
卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連						
「豊かな人間性と幅広い教養」を身につける授業科目である。						
授業計画						
回数	授業内容	授業方法	担当教員			
1	佐久の山河と気候	講義	小林			
2	東山道による東西文化の流入					
3	武田氏による佐久侵攻と人々の苦しみ					
4	中山道・北国街道の整備と宿場町・城下町の発展					
5	五郎兵衛用水の開削と佐久の新田集落					
6	天明の浅間焼けと水戸浪士の通過					
7	明治維新と社会・文化の西欧化					
8	交通の発達と産業の近代化					
9	軽井沢の別荘づくりと避暑地の形成					
10	千曲川の電源開発と生活への影響					
11	第二次世界大戦と佐久地域					
12	戦後の経済成長と大量消費時代					
13	佐久の工業・商業の特色と地域経済の拡大					
14	高速交通時代と佐久の変貌					
15	佐久地域の特色と発展への視点					
授業時間外学修（準備学習を含む）の具体的な内容及びそれに必要な時間						
五万分の1の地形図や佐久地域の地図を学習に生かし（特に佐久以外の出身者）、学習した事象を休日などに訪れて、現地で考えを深めて欲しい。なお、1回の授業について、2時間程度復習を行うこと。						
テキスト及び参考書、参考文献・参考URL等						
テキスト：講義用レジュメと資料 参考文献：小林 収『信州佐久の変貌』櫛出版 佐久大学図書館、佐久市・小諸市・軽井沢町・佐久穂町・長野県立図書館にあります。						

成績評価の方法・基準
レポート (60%) 授業参加状況 (40%)
課題 (試験やレポート等) に対するフィードバックの方法
授業時に説明する。
担当教員からのメッセージ
<ol style="list-style-type: none"> 1. 社会的事象は情報を有機的に関連させて考えることによって理解が深まる。 2. より確かな資料によって考えること、出典のはっきりしない不確かなものは疑ってかかることが大切です。 3. 授業中に話を聞いたり、資料を見た時に疑問を持つこと。それを聞いたり、確かめようとする気持ちを持つこと。
実務経験のある教員等による授業科目 (実務経験と当該授業科目との関連)
該当なし

【基本教育科目】

授業科目名	授業科目コード	配当年次時期	履修方法	単位数 時間数	授業形態	開講曜日 時限
地域支援と地域活動	155	1後	選	2単位 30時間	講義	金2
担当教員（○印＝科目責任教員）						
○宮内克代（MIYAUCHI, Katsuyo）						
オフィスアワー／連絡先と連絡方法						
授業終了後に教室で受け付ける。						
授業の概要						
地域社会における保健・医療・福祉に関する地域特性の現状と課題について認識するとともに、地域支援活動の基本的意義と社会的役割についての理解を深める。実際のボランティア活動を通して体験的に学ぶことにより、地域社会に対する理解を深め、地域貢献活動への参画意識を高める。						
到達目標						
自らの地域の強みと弱みを分析することにより、地域支援の方法が考察できるようになる。地域支援としてのボランティアのあり方を学び、それを踏まえて実際に活動することにより、地域貢献を実感することができる。						
卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連						
「豊かな人間性と幅広い教養」を身につける授業科目である。						
授業計画						
回数	授業内容	授業方法	担当教員			
1	オリエンテーション	講義・演習	宮内			
2	ボランティア活動：活動の理念・法・関係機関					
3	ボランティア活動：地域での活動、福祉教育、災害支援など					
4	ボランティア活動：身近なボランティア活動を探そう					
5	地域の強みと弱み：自分の地域を分析する					
6	地域の強みと弱み：自分の地域を分析する					
7	地域の強みと弱み：発表					
8	地域の強みと弱み：発表					
9	地域の強みと弱み：発表					
10	地域で活躍する人：地域貢献をした先人を知る					
11	地域で活躍する人：地域貢献をした先人を知る					
12	地域で活躍する人：発表					
13	地域で活躍する人：発表					
14	地域で活躍する人：発表					
15	ボランティア体験					
授業時間外学修（準備学習を含む）の具体的な内容及びそれに必要な時間						
毎回授業時に授業内容に応じた予習復習について指示するので、1回の授業について、2時間程度予習復習を行うこと。少なくとも1回はボランティア活動に参加し、その内容やそこでの学び、気づきなどをレポートにまとめて提出する。						

<p>テキスト及び参考書、参考文献・参考URL等</p> <p>テキスト及び参考文献：授業中に配布する</p>
<p>成績評価の方法・基準</p> <p>レポート (50%) 授業参加状況 (50%)</p>
<p>課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法</p> <p>グループワークを通じてレポートや発表原稿を作成し、グループごとにグループごとに発表する。講師及び他の学生が講評する。詳細は授業時に説明する。</p>
<p>担当教員からのメッセージ</p> <p>地域でのボランティア活動は、単に「参加する」だけでなく、授業中に指示された視点に基づいて分析・考察し、レポートにまとめて提出すること。レポートと授業中の発表で成績評価をする。</p>
<p>実務経験のある教員等による授業科目（実務経験と当該授業科目との関連）</p> <p>該当なし</p>

【基本教育科目】

授業科目名	授業科目コード	配当年次時期	履修方法	単位数 時間数	授業 形態	開講曜日 時限
基礎英語 I	(A) 201 (B) 202 (C) 203	1前	必	1単位 30時間	演習	(A) 月1 (B) 火2 (C) 火3
担当教員 (○印=科目責任教員)						
○Mark Cox						
オフィスアワー／連絡先と連絡方法						
授業終了後に教室で質問を受け付ける。						
授業の概要						
In this class, you will practice speaking, listening, writing and reading. The class will focus on being able to explain about several common health problems, being able to talk about a patient, using English to study English, increasing medical vocabulary and learning communication skills and valuable information for nursing.						
到達目標						
1. 患者の日常生活と病状についての説明を英語で読み取り、学習した基本的な英語表現を使って他者に伝達できる。 2. 英語を使い、自分の意見を英語で伝えることができる。						
卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連						
「豊かな人間性と幅広い教養」を身につける授業科目である。						
授業計画						
回数	授業内容	授業方法	担当教員			
1	- Class introduction. Unit 1 Risk for Injury	演習	Mark			
2	- Unit 1 practice, activation, completion					
3	- Unit 2: Self Care Deficit					
4	- Unit 2 practice, activation, completion					
5	- Unit 3: Respiratory Disorders					
6	- Unit 3 practice, activation, completion					
7	- Review and Practice					
8	- Mid-Term Examination					
9	- Unit 4: Fluid Volume Deficit					
10	- Unit 4 practice, activation, completion					
11	- Unit 5: Insomnia					
12	- Unit 5 practice, activation, completion					
13	- Unit 6: Chronic Pain					
14	- Unit 6 practice, activation, completion					
15	- Review and Practice					
授業時間外学修 (準備学習を含む) の具体的な内容及びそれに必要な時間						
Read the patient case studies and try to repeat the information as best you can out loud in English. Make sentences using the vocabulary from the unit. Practice explaining about each medical problem. Work with the story builders to create better and fuller stories. Do preparation review for about 1 hour once for each session.						

テキスト及び参考書、参考文献・参考URL等
テキスト：杉田由仁他『Nursing Case Studies』成美堂
成績評価の方法・基準
written examination (50%) homework (20%) attendance and class participation (30%)
課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
各学生の課題または試験解答用紙に直接コメントをし、その他については授業時に伝えます。 質問がある場合、またはもっと詳しく説明してほしい場合は、個々に対応する。
担当教員からのメッセージ
This class is designed to improve your understanding and production of English. You must practice, you must actively participate, and you will improve! This class will challenge your ideas about what it means to study English and what the goals of English study should be.
実務経験のある教員等による授業科目（実務経験と当該授業科目との関連）
該当なし

【基本教育科目】

授業科目名	授業科目コード	配当年次時期	履修方法	単位数 時間数	授業形態	開講曜日 時限
基礎英語Ⅱ	(A) 204 (B) 205 (C) 206	1後	必	1単位 30時間	演習	(A) 月1 (B) 火2 (C) 火3
担当教員（○印＝科目責任教員）						
○Mark Cox						
オフィスアワー／連絡先と連絡方法						
授業終了後に教室で質問を受け付ける。						
授業の概要						
In this class, you will practice speaking, listening, writing and reading. The class will focus on being able to explain about several common health problems, being able to talk about a patient, using English to study English, increasing medical vocabulary and learning communication skills and valuable information for nursing.						
到達目標						
1. 患者の日常生活と病状についての説明を英語で読み取り、学習した基本的な英語表現を使って他者に伝達できる。 2. 英語を使い、自分の意見を英語で伝えることができる。						
卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連						
「豊かな人間性と幅広い教養」を身につける授業科目である。						
授業計画						
回数	授業内容	授業方法	担当教員			
1	- Unit 7: Dietary Practice	演習	Mark			
2	- Unit 7 practice, activation, completion					
3	- Unit 8: Urinary Retention					
4	- Unit 8 practice, activation, completion					
5	- Unit 9: Constipation					
6	- Unit 9 practice, activation, completion					
7	- Review and Practice					
8	- Mid-Term Examination					
9	- Unit 11: Impaired Skin Integrity					
10	- Unit 11 practice, activation, completion					
11	- Unit 12: Visual Alterations					
12	- Unit 12 practice, activation, completion					
13	- Unit 14: Memory Impairment					
14	- Unit 14 practice, activation, completion					
15	- Review and Practice					
授業時間外学修（準備学習を含む）の具体的な内容及びそれに必要な時間						
Read the patient case studies and try to repeat the information as best you can out loud in English. Make sentences using the vocabulary from the unit. Practice explaining about each medical problem. Work with the story builders to create better and fuller stories. Do preparation review for about 1 hour once for each session.						

テキスト及び参考書、参考文献・参考URL等
テキスト：Text1 杉田由仁他『Nursing Case Studies』成美堂
成績評価の方法・基準
written examination (50%) homework (20%) attendance and class participation (30%)
課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
各学生の課題または試験解答用紙に直接コメントをし、その他については授業時に伝えます。 質問がある場合、またはもっと詳しく説明してほしい場合は、個々に対応する。
担当教員からのメッセージ
This class is designed to improve your understanding and production of English. You must practice, you must actively participate, and you will improve! This class will challenge your ideas about what it means to study English and what the goals of English study should be.
実務経験のある教員等による授業科目（実務経験と当該授業科目との関連）
該当なし

【基本教育科目】

授業科目名	授業科目コード	配当年次時期	履修方法	単位数 時間数	授業形態	開講曜日 時限
表現技法 I	(A) 221 (B) 222 (C) 223	1前	必	1単位 30時間	演習	(A) 火2 (B) 火3 (C) 月1
担当教員 (○印=科目責任教員)						
○金子光代 (KANEKO, Mitsuyo)						
オフィスアワー／連絡先と連絡方法						
授業終了後に教室で質問を受ける。また、随時対応する。 メールアドレス maryrose9241●yahoo.co.jp						
授業の概要						
日本語の多様な表現技法の習得を目的とし、「話す・聞く・書く」ための基本的な技能をテキストやその他の事例から学んでいく。トレーニングシートの課題で「話す・聞く・書く」の表現技法を自ら考え、グループの中で実践しながら確認する。後期の表現技法Ⅱを深めていくための導入として、表現における基礎的な知識と技法を広く身につける。						
到達目標						
<ol style="list-style-type: none"> 日本語の多様な表現技法に関する知識を養い、自ら「考え」、大学生として適切に「話す・聞く・書く」ことができるようになる。 日常生活や大学での他の授業、また将来の実習・看護の場面で、積極的に日本語の多様な表現技法を応用し、コミュニケーションの中で実践できるようになる。 						
卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連						
「豊かな人間性と幅広い教養」を身につける授業科目である。						
授業計画						
回数	授業内容	授業方法	担当教員			
1	オリエンテーション 挨拶をする、自己紹介をする——場面に合ったふさわしい自己開示の表現を学ぶ。 質問のし方・伝え方・オープンクエッション・あいづちなどを学ぶ。「私」を主語にした表現を学ぶ。	演習	金子			
2	大学でのノートのとり方——「自発的な学び」の必要性を知り、「授業を再現できるノート作り」の工夫を学ぶ。					
3	敬語の基礎——敬語の分類と働き、美化語を知る。相手を尊重する気持ちを伝えるさまざまな表現を学ぶ。差別用語などを知る。話し言葉の表現（若者言葉・ことわざ・故事成語など）を知る。書き言葉の表現（口語表現の排除・ら抜き言葉の現状）を学ぶ。					
4	確実な連絡メモ——大学生生活のさまざまな場面で、必要な情報を適切なタイミングで連絡する方法を学ぶ。仮名遣い・漢字と送り仮名の基礎知識を知る。					
5	メールの書き方——メールの機能とメール特有の書き方の注意点を学ぶ。依頼メールの基本を知る。電話の役割と電話での伝え方を知る。					
6	手紙の書き方——手紙の基本的な書式とマナーを習得する。慶事の基礎知識を習得する。					
7	説明のコツ——聞き手の立場を考え、説明の順序を守って説明するコツを習得する。看護の場面で相手の手に合わせた説明を知る。					
8	アンケートのとり方——アンケート用紙の基本的な要素を知り、条件に合った書き方をさまざまに考えることを学ぶ。					

9	資料の読み取り——表・グラフ・図から情報を読みとる時のポイントを学び、練習する。		
10	効果的なプレゼンテーション——レジュメの書き方や視覚資料について学び、効果的なプレゼンテーションの基本を知る。		
11	堅実なレポートの書き方1——大学でレポートを書く理由や堅実なレポートとは何かを知り、具体的な手順を学ぶ。		
12	堅実なレポートの書き方2——作成要領をよく見て、その分野の体裁を守ることを知る。引用のパターンを調べ、文章例の2通りの引用法を学ぶ。引用文献・参考文献の書き方を知る。二義的な文章や悪文の直し方を練習する。		
13	履歴書の作成——公式書類である履歴書の書き方を知り、「志望動機」や「自己アピール」等を具体的に一貫性をもたせて書くことを学ぶ。		
14	面接の受け方——前置き言葉・別の表現を考えることを学ぶ。		
15	小論文の書き方——資格試験・就職活動等での「出された課題に合わせて、指定された時間内に、指定字数で文章を書く」練習をする。原稿用紙の使い方・校正記号を知る。		
授業時間外学修（準備学習を含む）の具体的な内容及びそれに必要な時間			
復習として、大学での授業や生活のさまざまな事象で、言語の面からの表現技法を意識してほしい。「話す・聞く・書く」で必要なときには、テキストを開いて見直したり付け足したり、さらに豊かな日本語の表現を追求してください。なお、1回の授業について1時間程度復習を行うこと。			
テキスト及び参考書、参考文献・参考URL等			
テキスト：橋本修／阿部朋世／福嶋健伸 編著『大学生のための日本語表現トレーニング スキルアップ編』三省堂 2008 参考文献：授業内で適宜紹介する。			
成績評価の方法・基準			
筆記試験（50%） 授業参加状況（ワーク・提出物50%）			
課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法			
試験は、授業時に学んだテキスト・トレーニングシートの内容や話し合いで得られた解決策を中心に、基礎的な問題または応用問題として出題する。定期試験は返却しないが、試験前に内容を提示し、質問等に応じる。			
担当教員からのメッセージ			
コミュニケーションは相手がいればこそ成り立つものでもあります。授業では、学生として大切なさまざまな表現技法を学んだ上で、周りの人達とともに考え実践してみましょ。授業の場は学び(真似る)、間違える場だとも言われます。そして生活のあらゆる場面で、適切な「話す・聞く・書く」の表現を使ってコミュニケーションできるように表現の知識を深めていきましょう。			
実務経験のある教員等による授業科目（実務経験と当該授業科目との関連）			
該当なし			

【基本教育科目】

授業科目名	授業科目コード	配当年次時期	履修方法	単位数 時間数	授業形態	開講曜日 時限
表現技法Ⅱ	(A) 224 (B) 225 (C) 226	1後	必	1単位 30時間	演習	(A) 火2 (B) 火3 (C) 月1
担当教員（○印＝科目責任教員）						
○金子光代（KANeko, Mitsuyo）						
オフィスアワー／連絡先と連絡方法						
授業終了後に教室で質問を受ける。また、随時対応する。 メールアドレス maryrose9241●yahoo.co.jp						
授業の概要						
前期の表現技法Ⅰでは多様な日本語の表現を場面に合わせて広く学習した。その中から後期の表現技法Ⅱでは特に、大学生として必要な「レポート・論文の書き方」について学んでいく。レポート・論文を書くための基本的な知識を、文章例を参考にしながら、実際のレポート・論文作成過程にしたがって解説する。必要に応じてテキスト中のトレーニング問題を考え、実際に「書き・直す」ことによって実践能力を身につけていく。文章例や資料を正確に読むことで、同時に、自分の意見を書くために必要となる、他者の論文や文献を正確に「読む」力の基礎を養う。						
到達目標						
1. 基本的なレポート・論文の書き方の概要を理解し、適切な表現技法で書くことができる。 2. レポート・論文の書き方の知識を基に、自分の意見を書く能力を培うことができる。 3. レポート・論文での情報探査が適切にできる。 4. レポート・論文を書くために必要な、他の論文や文献等の要約ができる。						
卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連						
「豊かな人間性と幅広い教養」を身につける授業科目である。						
授業計画						
回数	授業内容	授業方法	担当教員			
1	オリエンテーション レポート・論文の構成要素とパラグラフについて学ぶ（ワーク1①③④）。レポート・論文の種類を学ぶ（ワーク4ワーク10①）。	演習	金子			
2	レポート・論文の基本ルールと剽窃等について知る（ワーク1②ワーク2①ワーク3③）。T⑨で引用文の確認を学ぶ。					
3	課題図書等の主張のつかみ方、要約文の書き方を学ぶ（ワーク7・p48T）。新聞記事の書き方のしくみを知る（資料③）。ブックレポート・論文・報告レポートの書き方の例を知る（文章例①②③）。					
4	課題図書等をじっくりと読む方法を学ぶ（ワーク6①②③）。2種類のメモの取り方を学ぶ（トレーニング6の抜き書き①・p45の抜き書きより）。					
5	課題図書等に対して批判的思考（クリティカルシンキング）をすることを学ぶ。p48Tやワーク8②の文章例から疑問の持ち方を知る（ワーク8①②）。批評から意見構築の流れの例を学ぶ（ワーク8①2）。					
6	テーマに関する下調べに適した資料を知る（ワーク10チェックシート）。問いを膨らます方法を学ぶ（ワーク11②）。「問い」から「予想する答え（仮説）」を立てることを知る（ワーク12②①）。					
7	情報検索の基本的な方法を知る（ワーク13）。文献の入手、大学図書館のさまざまな活用法を学ぶ（ワーク14）。					

8	集めた文献の取捨選択の方法として、「拾い読み」「探し読み」を知り、「目次」「はじめに」「おわりに」「奥付」等の読み方を学ぶ(ワーク15)。「索引」「謝辞」について知る。		
9	入手した文献のリストとメモや現物の整理を知る(ワーク16)。論点をしぼり、自分の主張を導くことを学ぶ(ワーク17)。論文の骨子、仮タイトルを考える(ワーク18)。		
10	根拠をもとにアウトラインをつくり、序論を書くことを学ぶ(ワーク19)。参考:「論文を構成する動詞」、「接続詞」や「副詞」の使い方、案内文		
11	引用の種類と書き方を学ぶ(ワーク2)。事実と意見を区別し、論理的な文章を書くことを学ぶ(ワーク9)。参考:「伝達の動詞」、「自発」と「可能」の表現		
12	さまざまな参考文献リストのスタイルを知り、APAスタイルの書き方を学ぶ(ワーク3①②)。		
13	資料(グラフや図)の引用のし方を学ぶ(トレーニング⑧)。体験談の引用を適切に書くことを学ぶ(トレーニング②)。		
14	わかりやすく伝える、一文を簡潔に書く(トレーニング③)、平仮名と漢字の表記について学ぶ。参考:「長い修飾語」とあいまい文、「名詞」と「動詞をつかった表現」、漢字の割合、一文一意		
15	文章の推敲、提出前の再確認を学ぶ(ワーク20)。結論を書くときの注意点を知る。参考:能動態と受動態、口語的な表現など		

授業時間外学修(準備学習を含む)の具体的な内容及びそれに必要な時間

大学での他の授業のレポート・課題・提出物の学習に、表現技法で学んだことを積極的に活かして欲しいと思います。「読む・書く・話す」とともに「考える」スキルを常に磨いてください。なお、1回の授業について1時間程度復習を行うこと。

テキスト及び参考書、参考文献・参考URL等

テキスト: 桑田てるみ 編『学生のレポート・論文作成トレーニング』実教出版 2015
 参考文献: 木下是雄『理科系の作文技術』中央公論新社 1981
 小笠原喜康『新版 大学生のためのレポート・論文術』講談社 2009
 石井一成『ゼロからわかる 大学生のためのレポート・論文の書き方』ナツメ社 2011
 石黒圭『論文・レポートの基本』日本実業出版社 2012
 その他 授業内で適宜紹介する。

成績評価の方法・基準

筆記試験(50%)
 授業参加状況(ワーク・提出物50%)

課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

試験は、授業時に学んだテキスト・トレーニング問題の内容や話し合いで得られた解答例を中心に、基礎的な問題または応用問題として出題する。定期試験は返却しないが、試験前に内容を提示し、質問等に応じる。

担当教員からのメッセージ

大学の授業での課題レポートで、困ったりあれこれ悩んだりすることが最初はあるかもしれません。「レポート・論文の書き方」の基礎知識を学ぶことによって、課題に積極的に取り組み、考える姿勢を身につけてほしいと思います。そして、客観的な根拠に基づいて自分の考えをわかりやすく伝える・書くという表現技法を、これからの大学の学びの中でさらに深めていってください。

実務経験のある教員等による授業科目(実務経験と当該授業科目との関連)

該当なし

【基本教育科目】

授業科目名	授業科目コード	配当年次時期	履修方法	単位数 時間数	授業形態	開講曜日 時限
情報処理法	(A) 241 (B) 242	1前	必	1単位 30時間	演習	(A) 金2 (B) 金1
担当教員（○印＝科目責任教員）						
○松本成司（MATSUMOTO, Seiji） 関本真奈美（SEKIMOTO, Manami） 阿藤幸子（ATO, Sachiko） 石坂俊也（ISHIZAKA, Toshiya） 井坂 恵（ISAKA, Megumi）						
オフィスアワー／連絡先と連絡方法						
授業終了後に教室で質問を受け付ける。						
授業の概要						
1. パソコンの基本的な活用方法を学ぶ。 2. 情報収集・活用の基礎能力を身に付け、パソコンやインターネットとの関わり方、捉え方を学ぶ。						
到達目標						
パソコンやインターネットとの関わり方を学び、情報に対して客観的に考える力を養う。また、本学での大学生活に必要とされるパソコンの基本的な操作方法を身につける。						
卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連						
「豊かな人間性と幅広い教養」を身につける授業科目である。						
授業計画						
回数	授業内容	授業方法	担当教員			
1	学内ネットワークの使用方法和大学メールの使い方	講義・演習	松本 他			
2	情報のデジタル化とインターネット	演習				
3	ワープロソフトを使った電子文書作成 基礎編	講義・演習				
4	ワープロソフトを使った電子文書作成 基礎編の演習 1 課題作成(1)	演習				
5	ワープロソフトを使った電子文書作成 応用編	講義・演習				
6	ワープロソフトを使った電子文書作成 応用編の演習 2 課題作成(2)	演習				
7	表計算ソフトを使った統計処理 基礎編	講義・演習				
8	表計算ソフトを使った統計処理 基礎編の演習 1 課題作成(3)	演習				
9	表計算ソフトを使った統計処理 応用編	講義・演習				
10	表計算ソフトを使った統計処理 応用編の演習 2 課題作成(4)	演習				
11	パソコンを使ったプレゼンテーション 基礎編	講義・演習				
12	パソコンを使ったプレゼンテーション 基礎編の演習 1 課題作成(5)	演習				
13	パソコンを使ったプレゼンテーション 応用編	講義・演習				
14	パソコンを使ったプレゼンテーション 応用編の演習 2 課題作成(6)	演習				
15	情報セキュリティと情報倫理	講義				
授業時間外学修（準備学習を含む）の具体的な内容及びそれに必要な時間						
予習：テキストの次回授業に関連するところを熟読し、何が分からないか明らかにしておくこと。 復習：テキスト、講義資料を用いて学習したことを整理し、理解を深め、活用できるようにすること。 なお、1回の授業について、1時間程度予習復習を行うこと。						

テキスト及び参考書、参考文献・参考URL等
テキスト：奥村晴彦，森本尚之著『[改訂第3版 ver.2] 基礎からわかる情報リテラシー』技術評論社
成績評価の方法・基準
授業参加状況（30%） 課題作成（60%） 発表（10%）
課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
授業時に説明する。
担当教員からのメッセージ
より良い文書を作成したり、より良いプレゼンをするためには、各ソフトのどのような機能を使うべきか、あるいは使わないべきかを常に考えながら作業しましょう。
実務経験のある教員等による授業科目（実務経験と当該授業科目との関連）
該当なし

【基本教育科目】

授業科目名	授業科目コード	配当年次時期	履修方法	単位数 時間数	授業形態	開講曜日 時限
統計分析法	243	1後	必	1単位 30時間	演習	月4, 月5
担当教員（○印＝科目責任教員）						
○朴 相俊	Park sangjun	s-park●saku.ac.jp	研究室	1号館3階 319		
中嶋智子	Nakajima tomoko	t-nakajima●saku.ac.jp	研究室	5号館2階 208		
柴田香菜子	Shibata kanako	k-shibata●saku.ac.jp	研究室	5号館2階 助手室		
森本 彩	Morimoto aya	a-morimoto●saku.ac.jp	研究室	5号館2階 助手室		
オフィスアワー／連絡先と連絡方法						
原則、授業終了後に教室で質問を受け付ける。 質問はメールでもよい（常時）。オフィスアワー以外の面談の予約はメールで可能である。						
授業の概要						
統計学の初歩を学ぶことにより、看護におけるアセスメントや問題解決に応用できるようなデータの収集・整理・処理・判断の仕方の基本を修得する。						
到達目標						
統計分析の基本概念を難解な数式を使わずに、Microsoft Excel2010を活用することで身に付けていく。また各自でアンケート調査を行い、回答のデータ化、分析、判断の過程を経ることで、統計分析の意義・必要性を実感する。						
卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連						
「学問を深め真理を探究していく態度・能力」を身につける授業科目である。						
授業計画						
回数	授業内容	授業方法	担当教員			
1	オリエンテーション：講師紹介、講義の進め方、成績評価方法、その他 統計解析の基礎：医療・看護における統計学の役割や活用方法などについて学ぶ	講義	朴 他			
2～3	「疫学的研究デザインと統計」「データの種類」「代表値、散布度、分布など」 統計量の算出と表現：各種データの基本的な解析方法について学ぶ	講義・演習	朴 他			
4～5	「書式や数式、関数」「度数分布表とヒストグラム」「クロス集計」 統計的検定①：2変数の関連を検討する基礎的方法を学ぶⅠ	講義・演習	朴 他			
6～7	「推測統計の基礎」「散布図/相関分析と回帰分析」「平均値の差の検定(t検定)」 統計的検定②：2変数の関連を検討する基礎的方法を学ぶⅡ 「ピボットテーブルによるクロス集計表の作成」「クロス集計表、X ² 検定」	講義・演習	朴 他			
8～9	調査・研究の概要：アンケート調査の方法について学ぶ	講義・演習	朴 他			
10～11	「研究について（科学的とは/量的研究・質的研究）」「研究計画立案」「調査票の作成例」「データの加工/分析/評価方法/その他」	講義・演習	朴 他			
12～13	調査・研究の演習：グループワークによる演習の実施 「研究計画と調査票の作成」「調査の実施（調査票の配布と回収）/分析」「発表資料の作成（パワーポイント使用）」	講義・演習	朴 他			
14～15	調査結果発表会	講義・演習	朴 他			

授業時間外学修（準備学習を含む）の具体的な内容及びそれに必要な時間
予習：テキスト及び参考文献を事前に読んでおくこと。後半は授業時間外のグループワークが必要になります。 復習：当授業内容と前期「情報処理法」の該当分野を含め復習しておくこと。 *1回の授業について、1時間程度予習復習を行うこと。
テキスト及び参考書、参考文献・参考URL等
テキスト：このとおりやればすぐできる ナースのためのデータ処理，技術評論社 参考資料：講義の中で提示する
成績評価の方法・基準
授業参加状況（30%） 課題プレゼンテーション（70%）
課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
授業時に指示する。
担当教員からのメッセージ
成績評価の方法・基準の「課題プレゼンテーション（70%）」とは、グループワークによる調査結果発表の発表資料を指します。発表資料が成績評価の中心となりますので、積極的にグループワークに参加するようにしてください。
実務経験のある教員等による授業科目（実務経験と当該授業科目との関連）
該当なし

【基本教育科目】

授業科目名	授業科目コード	配当年次時期	履修方法	単位数 時間数	授業 形態	開講曜日 時限
導入基礎演習	291	1前	必	2単位 60時間	演習	木3～5
担当教員（○印＝科目責任教員）						
○吉田文子 YOSHIDA, Fumiko fy200●saku.ac.jp (5号館3階306) 小林睦 KOBAYASHI, Mutsumi m-kobayashi●saku.ac.jp (5号館2階207) 中嶋智子 NAKAJIMA, Tomoko t-nakajima●saku.ac.jp (5号館2階208) 柴田香菜子 SHIBATA, Kanako k-shibata●saku.ac.jp (5号館2階助手室)						
オフィスアワー／連絡先と連絡方法						
木曜日17時～18時（予約順で行いますので、まずfy200●saku.ac.jpメールをください。その内容に合わせて、他の教員から連絡をします。）						
授業の概要						
高等学校から大学教育への円滑な接続を図ることを目的として、学修活動に必要となる基本的な学修技術の習得を図るとともに、専門教育における学修目標を設定するための動機づけ学修を行う。具体的には、新聞講読などを通じて、保健・医療・福祉に関する社会的に重要な特定の主題や現代社会が直面する基本的な諸課題に関するテーマを取り上げて考察することにより、専門教育への興味と関心を高める。						
到達目標						
本科目は、プロジェクトチームと個人での活動を並行します。プロジェクトではPBLs（Project-Based Learning, Problem-Based Learning）に則ってチーム学修をします。個人学修では「アカデミックポートフォリオ」の作成・更新を行います。集大成として、学内外公開のプレゼンテーション大会を実施します。 この授業を経て、主体的な学修スキルと生涯にわたって学び続ける力を獲得しましょう。 1. 各自が年間計画を立案でき、その“ふりかえり”ができる。 2. アカデミックポートフォリオを作成することができる。 3. 保健・医療・福祉への関心が持てる。 4. 意見や考えをもつことができる。 5. 意見や考えを他者に表現することができる。 6. 効果的なプレゼンテーションをすることができる。 7. VTR視聴、講義内容をノートテイキングできる。						
卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連						
教育目標7つのうちの「Ⅱ群 学問を深め真理を探究していく態度・能力」を培うための初年次教育科目に該当する。						
授業計画						
回数	授業内容	授業方法	担当教員			
1	科目の概要と進め方の説明、チーム編成、プロジェクトの立ち上げ	講義・演習	全教員			
2	看護学教育を履修する上で大切なこと、VTR視聴ノートテイキング、アカデミックポートフォリオの作成					
3-4	チームワーク（図書館ガイダンス1回含む）					
5	チームプロジェクトの進め方、プロジェクト課題の決定・課題解決の手段					
6/7	ビジュアルマインドマッピング					
8	プロジェクトテーマの決定、プレゼンテーション評価票配付と説明					
9	引用文献について					
10-14	プロジェクトワーク（チーム）					
15-16	アカデミックポートフォリオの作成（ふりかえりシートの記載） プロジェクトの中間報告会					
17-18	プロジェクト発表方法等の説明					
19-24	チームワーク （19回はプレゼンテーションについて学びます） チームワーク・発表準備（発表順の決定、プロジェクト課題名一覧表の作成）					

25 - 28 29 - 30	プロジェクトプレゼンテーションと評価（学内外への授業公開） アカデミックポートフォリオの作成（ふりかえりシートの記載）		
授業時間外学修（準備学習を含む）の具体的な内容及びそれに必要な時間			
本科目は、講義演習科目であり、1単位30時間として計算すると、総自己学修時間は22.5時間となります。 ★ポートフォリオ作成は個人で計画的に進めてください。 全ての授業終了後に作成するのではなく、毎回授業で使用したシート類に記述、追加していきます。 自己学修は約10時間以上を要します。 ★プロジェクトテーマに沿った学修時間を各自確保し、チーム学習を進めてください。 チーム活動を円滑に行うための文献検索、発表準備に時間を要します。約12.5時間 なお、効果的な学修の進め方は、授業内で説明します。			
テキスト及び参考書、参考文献・参考URL等			
テキスト： アメリカ心理学会（2010）/前田樹海，江藤裕之，田中建彦（2011）．APA論文作成マニュアル．医学書院． 世界思想社編集部（2018）．大学生 学びのハンドブック[第4版]．世界思想社．			
成績評価の方法・基準			
科目終了時には、以下規準についての点数を個別返却します。 ■授業進度に応じた課題提出状況（30%） 各項目の配点は、初回授業でお知らせします。 ■アカデミックポートフォリオ作成（40%） 科目独自のルーブリックを提示しますので、受講生全員の合意のもと最終決定とし、使用していきます。 ■チームプロジェクトの発表（30%） 科目独自の評価票を使用し、相互評価を行います。			
課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法			
提出されたアカデミックポートフォリオ返却時に、成績一覧を添えて個別返却します。			
担当教員からのメッセージ			
授業初回時に、必ず、次の2つを持参してください。 ① A4サイズのDリング2穴ファイル（厚さ3～4cm程度、色は各自の好みで構いません。） ② A4サイズのルーズリーフ用紙（毎回の授業で使用します。B5サイズのルーズリーフは使用不可。）			
実務経験のある教員等による授業科目（実務経験と当該授業科目との関連）			
該当なし			

【基本教育科目】

授業科目名	授業科目コード	配当年次時期	履修方法	単位数 時間数	授業 形態	開講曜日 時限
実践英語 I	211	2前	自	1単位 30時間	演習	月2
担当教員（○印＝科目責任教員）						
○Mark Cox						
オフィスアワー／連絡先と連絡方法						
授業終了後に教室で質問を受け付ける。						
授業の概要						
<p>The class will be filled with speaking and speaking activities. You will learn different strategies to build and continue conversations, to express yourself better, and to communicate even when you need help or don't understand. The goal of the course is to review English you have studied and use that to build conversation skills. We will use many pair and group activities, story building exercises, short worksheets and fun activities to practice and solidify understanding.</p>						
到達目標						
<ol style="list-style-type: none"> 1. 英語を話すことに自信を持つことができる。 2. 自分の意見を英語で表現できるようになる。 3. 英語での会話に積極的になる。 						
卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連						
「豊かな人間性と幅広い教養」を身につける授業科目である。						
授業計画						
回数	授業内容	授業方法	担当教員			
1	Responding and Pronunciation	演習	Mark			
2	Follow-up questions					
3	Keeping or killing the conversation					
4	Getting a response					
5	Describing and Item					
6	Responding with Details					
7	Soliciting details					
8	Story Building					
9	Story Building					
10	Clarification with questions					
11	Reported Speech					
12	Making a group decision					
13	Discussion connectors					
14	Short discussion exercise					
15	Talking about movies and music					
授業時間外学修（準備学習を含む）の具体的な内容及びそれに必要な時間						
<p>毎回の授業で習った会話対策を模擬会話でできるまで練習しておくこと。 1回の授業について、1時間程度復習を行うこと。</p>						

<p>テキスト及び参考書、参考文献・参考URL等</p> <p>no text class materials will be provided with each lesson</p>
<p>成績評価の方法・基準</p> <p>attendance and class participation (30%) short discussion exercise (30%) final exam (40%)</p>
<p>課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法</p> <p>授業時に説明する。</p>
<p>担当教員からのメッセージ</p> <p>I will work hard to make this class fun and effective. I' m looking forward to speaking English with you, seeing you improve, and helping you grow over the course.</p>
<p>実務経験のある教員等による授業科目（実務経験と当該授業科目との関連）</p> <p>該当なし</p>

【基本教育科目】

授業科目名	授業科目コード	配当年次時期	履修方法	単位数 時間数	授業形態	開講曜日 時限
実践英語Ⅱ	212	2後	自	1単位 30時間	演習	月3
担当教員（○印＝科目責任教員）						
○Mark Cox						
オフィスアワー／連絡先と連絡方法						
授業終了後に教室で質問を受け付ける。						
授業の概要						
<p>We will apply the conversation strategies from the first semester to different medical situations. You will learn some useful medical vocabulary and practice them in role-play scenarios and fun speaking activities.</p> <p>The goal is to be able to communicate to your patients important medical information, but also be able to talk to your patients casually and naturally as well.</p>						
到達目標						
<ol style="list-style-type: none"> 1. 看護の場において英語で話すことに自信を持つこと。 2. 医療行為を英語で行えるようになること。 3. 健康状態や治療などについて英語で説明できるようになること。 						
卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連						
「国内外の地域特性と文化的多様性を理解し、健康課題を捉える能力」を身につける授業科目である。						
授業計画						
回数	授業内容	授業方法	担当教員			
1	Hospital introduction ; In a patient' s room	演習	Mark			
2	Talking about hospital departments					
3	Health problems					
4	Getting a patient' s information					
5	Taking a patient' s temperature, pulse, and blood pressure					
6	Taking a patient' s temperature, pulse, and blood pressure					
7	Taking a patient' s blood sample					
8	Taking a patient' s blood sample					
9	Giving a patient a shot					
10	Giving a patient a shot					
11	Medications					
12	Giving a patient medication					
13	Giving a patient medication					
14	Presenting a patient					
15	Presenting a patient					
授業時間外学修（準備学習を含む）の具体的な内容及びそれに必要な時間						
<p>毎回の授業で習った単語を復習して、医療場面の会話ができるまで練習しておくこと。</p> <p>1回の授業について、1時間程度復習を行うこと。</p>						

テキスト及び参考書、参考文献・参考URL等
no text class materials will be provided with each lesson
成績評価の方法・基準
attendance and class participation (30%) speaking activity (30%) final exam (40%)
課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
授業時に説明する。
担当教員からのメッセージ
実務経験のある教員等による授業科目（実務経験と当該授業科目との関連）
該当なし

【基本教育科目】

授業科目名	授業科目コード	配当年次時期	履修方法	単位数 時間数	授業 形態	開講曜日 時限
情報管理法	251	2前	自	1単位 30時間	演習	木1
担当教員（○印＝科目責任教員）						
○朴 相俊 PARK, SANGJUN s-park●saku.ac.jp 研究室 1号館3階319						
オフィスアワー／連絡先と連絡方法						
原則、授業終了後に教室で質問を受け付ける。 質問はメールでもよい（常時）。オフィスアワー以外の面談の予約はメールで可能である。						
授業の概要						
情報の収集、加工、蓄積、検索、利用、廃棄などの情報管理の手法について学習する。特に収集した情報を整理、加工する二次情報の作成とデータベース検索による情報検索の手法についての基礎的な知識を習得する。また、データ分析ソフトSPSSの使い方を習得する。						
到達目標						
1. 情報やデータに関する知識を学び、適切な管理方法を習得する。 2. 統計について学び、適切なデータのまとめ方ができるようになる。						
卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連						
「学問を深め真理を探究していく態度・能力」を身につける授業科目である。						
授業計画						
回数	授業内容	授業方法	担当教員			
1	オリエンテーション、データの管理について	講義	朴			
2	SPSS（統計ソフト）の使い方、代表値（平均・分散・中央値・パーセントタイル）	講義・演習				
3	検定の意味、代表値の推定（信頼区間）	演習				
4	2群間の比較（対応のないt検定）	演習				
5	2群間の比較（対応のあるt検定）	演習				
6	2群間の比較（順位和検定）	演習				
7	2群の関連分析（カイ2乗検定）	演習				
8	2群の関連分析（リスク比・オッズ比）	演習				
9	2群間の関連分析（散布図・相関分析）	演習				
10	3群以上の関連分析（偏相関分析）	演習				
11	2群の関連の推定（回帰分析）	演習				

12	3 群間以上の比較 (分散分析)	演習	
13	課題分析①	演習	
14	課題分析②	演習	
15	まとめ	講義・演習	
授業時間外学修 (準備学習を含む) の具体的な内容及びそれに必要な時間			
授業した内容については、よく復習をしておくこと。 なお、1回の授業について1時間程度復習を行うこと。			
テキスト及び参考書、参考文献・参考URL等			
テキスト：指定しない。 参考文献：講義の中で提示する。			
成績評価の方法・基準			
授業参加状況 (30%) 課題 (70%)			
課題 (試験やレポート等) に対するフィードバックの方法			
授業時に指示する。			
担当教員からのメッセージ			
成績評価の方法・基準の「課題 (70%)」とは、グループワークによる課題への分析結果の提出資料を指します。提出資料が成績評価の中心となりますので、積極的にグループワークに参加するようにしてください。			
実務経験のある教員等による授業科目 (実務経験と当該授業科目との関連)			
該当なし			

2020年度

授業科目別シラバス

－ 専門教育科目 －
(講義 ・ 演習)

佐久大学看護学部

【専門教育科目】

授業科目名	授業科目コード	配当年次時期	履修方法	単位数 時間数	授業 形態	開講曜日 時限
形態機能学Ⅰ（細胞・組織学）	301	1前	必	2単位 60時間	講義	水3, 水4
担当教員（○印＝科目責任教員）						
○小山智史（KOYAMA, Tomonori） 川野道宏（KAWANO, Michihiro）						
オフィスアワー／連絡先と連絡方法						
講義終了後30分間、教室または研究室で質問を受けます。研究室：1号館2階1221 それ以外をご希望の方は、t-koyama●saku.ac.jpまでメールをください。						
授業の概要						
人間の体がどのような構造で成り立っているかを骨格、筋肉、神経系等を基盤にして理解し、それぞれの構造が、相互にどのように連携して機能しているかを学習する。人間の日常生活の活動がこうした構造の連携と協働によって作動している仕組み、機能状況を学習する。						
到達目標						
1. 細胞、組織、皮膚、膜、筋系、骨格系、神経系、特殊感覚の基本的形態・機能について理解する 2. 細胞、組織、皮膚、膜、筋系、骨格系、神経系、特殊感覚の基本的形態・機能について図示できる 3. 細胞、組織、皮膚、膜、筋系、骨格系、神経系、特殊感覚の基本的形態・機能について自分の言葉で説明できる 4. 自律機能を調節する神経性調節機構、生体の内部環境が安定に保たれる機序について理解する 5. 自律機能を調節する神経性調節機構、生体の内部環境が安定に保たれる機序について図示できる 6. 自律機能を調節する神経性調節機構、生体の内部環境が安定に保たれる機序について自分の言葉で説明できる						
卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連						
専門職として必要な「命の大切さを深く理解し、擁護する能力」を身につける授業科目であり、他の「命の大切さを深く理解し、擁護する能力」の科目、「看護実践能力の基盤」の科目、「多様な健康レベルと個別性に対応できる看護実践能力」等の科目にも関連します。						
授業計画						
回数	授業内容	授業方法	担当教員			
1-2	人体のオリエンテーション（テキストp1～61）	講義	小山			
3-4	細胞と組織について学ぶ（テキストp63～110）	講義	小山			
5-6	皮膚と膜について学ぶ（テキストp111～132）	講義	小山			
7-8	骨の概観、体幹の骨格について学ぶ（テキストp133～154）	講義	小山			
9-10	体肢の骨格、関節について学ぶ（テキストp154～176）	講義	小山			
11-12	骨格模型作成①（グループワーク）	演習	小山			
13-14	骨格模型作成②（グループワーク）	演習	小山			
15-16	筋の概観、構造、肉眼的解剖学について学ぶ（テキストp177～181, p191～210）	講義	小山			
17-18	筋の運動、活動性について学ぶ（テキストp181～191, p211～216）	講義	小山			
19-20	神経系のしくみ、構造と機能について学ぶ（テキストp217～232）	講義	川野			
21-24	中枢神経(脳)の構造と機能について学ぶ（テキストp232～243）	講義	川野			
25-26	中枢神経(脊髄)、末梢神経について学ぶ（テキストp243～266）	講義	川野			
27-28	特殊感覚の構造について学ぶ（テキストp283～285）	講義	小山			
29-30	特殊感覚の機能について学ぶ（テキストp267～282, p285～294, 触覚含む）	講義	小山			
授業時間外学修（準備学習を含む）の具体的な内容及びそれに必要な時間						
予習 （最低30分は必要です） テキストの次回授業に関連する部分を熟読、器官そのもの、器官と器官のつながりを図示してみましょう。また、何が分からないかを明らかにし、講義を集中して聴けるよう準備しましょう。						
復習 （最低30分は必要です） テキスト、講義資料、参考文献などを用いて、講義で学習したことを自分の言葉でまとめてみましょう。また、予習で描いた図に、講義でわかったこと、足りないところを描き足し、間違っていたところを修正しましょう。						
図示に関して テキストのような、きれいな図を描く必要はありません。自分が分るように描いてみてください。また、その図が体のどちら側から見たものなのかを意識して描くと、より理解が進みます。						

<p>解剖模型の貸借</p> <p>授業中、解剖模型を使用しながら講義をします。テキストや参考文献の絵と見比べながら学修すると、より理解が深まります。積極的に触って立体構造を理解しましょう。自己学修に必要な場合は、講義時間外でも貸し出します。学内ならどこで使用しても構いません。使用後は速やかに返却してください。破損には十分注意してください。</p>
<p>テキスト及び参考書、参考文献・参考URL等</p> <p>テキスト：エレイン.N.マリーブ著，人体の構造と機能 第4版, 医学書院 参考文献：トートラ人体の構造と機能 第4版, 丸善出版 坂井建雄 監訳, プロメテウス解剖学コア アトラス, 第1版, 医学書院 (図書館にあります) 塩田浩平 訳, グレイ解剖学, 原著第2版, ELSEVIER JAPAN (図書館にあります) 岡田泰伸 監訳, ギャノン生理学, 原書23版, 丸善出版 (原著22版が図書館にあります) 岡田忠 監訳, コスタンゾ明解生理学, 第1版(原著第3版), ELSEVIER JAPAN (図書館にあります)</p>
<p>成績評価の方法・基準</p> <p>授業参加状況 (5%)</p> <p>遅刻は講義開始後20分までとします。20分を超えた遅刻は欠席とします。遅刻は3回で1回の欠席とみなします。出席確認はmanabaのresponを使用し確認します。講義では学習状況を確認するため、質問をします。質問に答えられるよう準備しましょう。質問に答えられない学生がいた場合、近くに着座している学生は、答えられるようにサポートしましょう。</p> <p>小テスト (20%)</p> <p>manabaの小テスト機能を用いて、抜き打ちで4回実施します。スマートフォン、タブレットなどを持っていない学生は、教務課あるいは、図書館から借りうけてください(25点満点/回、4回の合計点に0.2を掛けた点数を最終評価とします)。</p> <p>骨格模型作成 (グループワーク, 10%)</p> <p>1グループ3名程度で、骨格模型を作成。骨格模型は他の授業がない空き時間、放課後も利用して作る。評価基準は「指定期間内に作成」「指定内容が骨格模型に記載されている」の2点。出来栄は評価対象としません。</p> <p>定期試験 (65%)</p> <p>前期で学んだ内容全部を範囲とした筆記試験を実施します(200点満点、0.325を掛けた点数を最終評価とします)。</p> <p>最終評価</p> <p>授業参加状況 + 小テスト + 骨格模型作成 + 定期試験 の合計点で評価されます(100点満点に換算します)。</p>
<p>課題 (試験やレポート等) に対するフィードバックの方法</p> <p>小テストはテスト終了後に模範解答を示します。質問がある場合、オフィスアワー等を利用して質問に来てください(講義の間の休み時間でも結構です)。</p> <p>骨格模型は完成後、渡り廊下に全グループの作品を展示します。また、一部の骨格模型はオープンキャンパスや学園祭で展示されることがあります。</p> <p>定期試験は成績判定終了後、希望があれば研究室にて答案を開示します。その際、コピーや写真等を撮ることは認めません。メモについては制限しません。質問があれば、その場で対応します。</p>
<p>担当教員からのメッセージ</p> <p>この科目は、単位を取得するために、ただ暗記するだけでは何の意味もありません。前述しましたが、今後学んでいく多くの科目を理解し看護に活用するため、基礎知識として必要です。また在学中だけでなく、看護師として病院などの臨床現場で働くようになって、看護や医療が進歩していく中、何度も学び直すのがこの科目の特徴です。</p> <p>人の命を看護する看護師が、人体の構造と機能を知らないのは、自動車を運転するのにアクセルとブレーキを知らないようなものです。まずは看護学生として「人体がどのような構造からなり、どのように機能しているのか」を形態機能学で学修し、看護を考える基礎を身に付ける必要があります。何度も振り返り、自分なりに人体の構造と機能を図示できるようになる、自分の言葉で人体の構造と機能を説明できるようになることが必要です。</p> <p>以下の点に注意すること</p> <ul style="list-style-type: none"> この講義を録音したい場合、小山智史に許可を得ること。許可なく録音しないでください(録画は認めません)。 この講義に関することをインターネット上(SNS等)に公開しないこと。 講義中に質問があるときは、挙手して質問するか、休み時間に小山智史のところまで来てください。
<p>実務経験のある教員等による授業科目 (実務経験と当該授業科目との関連)</p> <p>該当なし</p>

【専門教育科目】

授業科目名	授業科目コード	配当年次時期	履修方法	単位数 時間数	授業 形態	開講曜日 時限
形態機能学Ⅱ（器官系）	302	1後	必	2単位 60時間	講義	木3, 木4
担当教員（○印＝科目責任教員）						
○小山智史（KOYAMA, Tomonori） 川野道宏（KAWANO, Michihiro）						
オフィスアワー／連絡先と連絡方法						
講義終了後30分間、教室または研究室で質問を受けます。 研究室：1号館2階1221 それ以外をご希望の方は、t-koyama●saku.ac.jpまでメールをください。						
授業の概要						
身体各臓器、器官の構造と機能を学習すると共に、各器官の相互連携、協働作用を統合して学ぶ。また、人体の構造や機能の作動状態と人間の健康障害との関連を学習し、健康障害時に見られる徴候や症状と身体構造や機能の障害との関連を理解するための基礎的知識を習得する。						
到達目標						
1. 呼吸器系、心臓血管系、リンパ系、消化器系、内分泌系、泌尿器系、生殖器系の基本的形態・機能について理解する 2. 呼吸器系、心臓血管系、リンパ系、消化器系、内分泌系、泌尿器系、生殖器系の基本的形態・機能について図示できる 3. 呼吸器系、心臓血管系、リンパ系、消化器系、内分泌系、泌尿器系、生殖器系の基本的形態・機能について自分の言葉で説明できる 4. 健康障害時に見られる徴候や症状と身体構造や機能障害との関連を理解するための基礎的知識を習得する 5. 形態機能学Ⅰで学んだ知識との関連を図示し、自分の言葉で説明ができる						
卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連						
専門職として必要な「命の大切さを深く理解し、擁護する能力」を身につける授業科目であり、他の「命の大切さを深く理解し、擁護する能力」の科目、「看護実践能力の基盤」の科目、「多様な健康レベルと個別性に対応できる看護実践能力」等の科目にも関連します。						
授業計画						
回数	授業内容	授業方法	担当教員			
1-2	心臓血管系の構造について学ぶ(テキスト p343～350)	講義	小山			
3-4	心臓血管系の機能について学ぶ(テキスト p350～353, p364～369)	講義	小山			
5-6	心臓血管系と血液について学ぶ(テキスト p323～339, p353～380)	講義	小山			
7-8	リンパ系と生体防御機構について学ぶ(テキスト p381～416)	講義	小山			
9-10	呼吸器系の構造について学ぶ(テキスト p417～426)	講義	小山			
11-12	呼吸器系の機能について学ぶ(テキスト p426～435)	講義	小山			
13-14	消化器系の構造について学ぶ(テキスト p447～450, p458～459)	講義	川野			
15-16	消化器系の機能①について学ぶ(テキスト p450～458, p459～460)	講義	川野			
17-18	消化器系の機能②について学ぶ(テキスト p460～469)	講義	川野			
19-20	消化器系の機能③について学ぶ(テキスト p469～492)	講義	川野			
21-22	泌尿器系の構造について学ぶ(テキスト p493～497, p502～504)	講義	小山			
23-24	泌尿器系の機能について学ぶ(テキスト p497～502, p504～516)	講義	小山			
25-26	内分泌系の構造について学ぶ(テキスト p295～306)	講義	小山			
27-28	内分泌系の機能について学ぶ(テキスト p306～321)	講義	小山			
29-30	生殖器系の構造・機能について学ぶ(テキスト p517～552)	講義	小山			
授業時間外学修（準備学習を含む）の具体的な内容及びそれに必要な時間						
予習 （最低30分は必要です） テキストの次回授業に関連する部分を熟読、器官そのもの、器官と器官のつながりを図示してみましょう。また、何が分からないかを明らかにし、講義を集中して聴けるよう準備しましょう。						
復習 （最低30分は必要です） テキスト、講義資料、参考文献などを用いて、講義で学習したことを自分の言葉でまとめてみましょう。また、予習で描いた図に、講義でわかったこと、足りないところを描き足し、間違っていたところを修正しましょう。						

<p>図示に関して</p> <p>テキストのような、きれいな図を描く必要はありません。自分が分るように描いてみてください。また、その図が体のどちら側から見たものなのかを意識して描くと、より理解が進みます。</p> <p>解剖模型の貸借</p> <p>授業中、解剖模型を使用しながら講義をします。テキストや参考文献の絵と見比べながら学修すると、より理解が深まります。積極的に触って立体構造を理解しましょう。自己学修に必要な場合は、講義時間外でも貸し出します。学内ならどこで使用しても構いません。使用後は速やかに返却してください。破損には十分注意してください</p>
<p>テキスト及び参考書、参考文献・参考URL等</p> <p>テキスト：エレイン・N. マリーブ著，人体の構造と機能 第4版，医学書院 参考文献：トートラ人体の構造と機能 第4版，丸善出版 坂井建雄 監訳，プロメテウス解剖学コア アトラス，第1版，医学書院（図書館にあります） 塩田浩平 訳，グレイ解剖学，原著第2版，ELSEVIER JAPAN（図書館にあります） 岡田泰伸 監訳，ギャノン生理学，原書23版，丸善出版（原著22版が図書館にあります） 岡田忠 監訳，コスタンゾ明解生理学，第1版（原著第3版），ELSEVIER JAPAN（図書館にあります）</p>
<p>成績評価の方法・基準</p> <p>授業参加状況（5%）</p> <p>遅刻は講義開始後20分までとします。20分を超えた遅刻は欠席とします。遅刻は3回で1回の欠席とみなします。出席確認はmanabaのresponを使用し確認します。 講義では学習状況を確認するため、質問をします。質問に答えられるよう準備しましょう。 質問に答えられない学生がいた場合、近くに着座している学生は、答えられるようにサポートしましょう。</p> <p>小テスト（30%）</p> <p>manabaの小テスト機能を用いて、抜き打ちで4回実施します。スマートフォン、タブレットなどを持っていない学生は、教務課あるいは、図書館から借りうけてください(25点満点/回、4回の合計点に0.3を掛けた点数を最終評価とします)。</p> <p>定期試験（65%）</p> <p>後期で学んだ内容全部を範囲とした筆記試験を実施します(200点満点、0.325を掛けた点数を最終評価とします)。なお、形態機能学Ⅰで学んだ知識を使って解答する問題を含みます。</p> <p>最終評価</p> <p>授業参加状況 + 小テスト + 定期試験 の合計点で評価されます(100点満点に換算します)。</p>
<p>課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法</p> <p>小テストはテスト終了後に模範解答を示します。質問がある場合、オフィスアワー等を利用して質問に来てください(講義の間の休み時間でも結構です)。 定期試験は成績判定終了後、希望があれば研究室にて答案を開示します。その際、コピーや写真等を撮ることは認めません。メモについては制限しません。質問があれば、その場で対応します。</p>
<p>担当教員からのメッセージ</p> <p>この科目は、単位を取得するために、ただ暗記するだけでは何の意味もありません。前述しましたが、今後学んでいく多くの科目を理解し看護に活用するため、基礎知識として必要です。また在学中だけでなく、看護師として病院などの臨床現場で働くようになって、看護や医療が進歩していく中、何度も学び直すのがこの科目の特徴です。 人の命を看護する看護師が、人体の構造と機能を知らないのは、自動車を運転するのにアクセルとブレーキを知らないようなものです。まずは看護学生として「人体がどのような構造からなり、どのように機能しているのか」を形態機能学で学修し、看護を考える基礎を身に付ける必要があります。何度も振り返り、自分なりに人体の構造と機能を図示できるようになる、自分の言葉で人体の構造と機能を説明できるようになることが必要です。</p> <p>以下の点に注意すること</p> <ul style="list-style-type: none"> ・この講義を録音したい場合、小山智史に許可を得ること。許可なく録音しないでください(録画は認めません)。 ・この講義に関することをインターネット上(SNS等)に公開しないこと。 ・講義中に質問があるときは、挙手して質問するか、休み時間に小山智史のところまで来てください。
<p>実務経験のある教員等による授業科目（実務経験と当該授業科目との関連）</p> <p>該当なし</p>

【専門教育科目】

授業科目名	授業科目コード	配当年次時期	履修方法	単位数 時間数	授業形態	開講曜日 時限
感染・免疫学	303	1後	必	2単位 30時間	講義	火4
担当教員（○印＝科目責任教員）						
○今福裕司（IMAFUKU, Yuji）						
オフィスアワー／連絡先と連絡方法						
授業終了後に教室で質問を受け付ける。						
授業の概要						
人体における感染の原理、微生物に対する生体の免疫・防御システム、感染性微生物の種類・特徴と感染性疾患発症のメカニズムについて、感染拡大の原理や防御方法、院内感染対策、さらに近年の国際的感染症とその管理・予防についての知識を学ぶ。						
到達目標						
感染症の原因となる病原体の構造、機能、発育環境、伝搬経路を理解したうえで、臨床上重要な感染症の病態と治療、予防策を学ぶことにより、自信を持って自分を守りながら感染症患者に寄り添うケアができるようになる。						
卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連						
「命の大切さを深く理解し、擁護する能力」を身につける授業科目である。						
授業計画						
回数	授業内容	授業方法	担当教員			
1	微生物と微生物学	講義	今福			
2	細菌の性質					
3	真菌・原虫・ウイルスの性質					
4	微生物感染の成立メカニズム					
5	感染に対する免疫・防御機構					
6	感染源・感染経路と感染症の予防					
7	感染症の診断と治療・感染症治療の現状と対策					
8	細菌感染症					
9	細菌感染症					
10	細菌感染症・真菌・原虫感染症					
11	ウイルス感染症					
12	ウイルス感染症					
13	ウイルスとプリオン病					
14	院内感染対策と職業感染対策					
15	主な国際感染症とその対策					
授業時間外学修（準備学習を含む）の具体的な内容及びそれに必要な時間						
毎回授業時に授業内容に応じた予習復習について指示します。 1回の授業について、2時間程度予習復習を行うこと。						

テキスト及び参考書、参考文献・参考URL等
テキスト：『系統看護学講座 微生物学』医学書院
成績評価の方法・基準
筆記試験（90%） 授業参加状況（10%）
課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
授業時に説明する。
担当教員からのメッセージ
実務経験のある教員等による授業科目（実務経験と当該授業科目との関連）
臨床検査専門医である教員が、その実務経験を活かした授業を行います。（今福裕司）

【専門教育科目】

授業科目名	授業科目コード	配当年次時期	履修方法	単位数 時間数	授業形態	開講曜日 時限
生命倫理	304	1前	必	2単位 30時間	講義	水2
担当教員（○印＝科目責任教員）						
○盛岡正博（MORIOKA, Masahiro）						
オフィスアワー／連絡先と連絡方法						
講義終了後に随時、教室で質問等を受ける。 執務室（5号館1階理事長室）の扉が開いている時、随時相談を受けます。						
授業の概要						
生命の尊厳と人間尊重の精神を共に理解する。生命の倫理原則を具体的な例を検討しながら学ぶ。文化背景や社会環境の違いによる多様な価値観についても理解することを学ぶ。医療に携わる専門職としての自らの行動規範と患者や家族に対する基本的な倫理観を築く機会とする。						
到達目標						
1. 直面した個々の事例に誠実に対応することの大切さを知る。 2. 病気や障害により医療や福祉の支援を必要とする者に具体的な対応を考える。 3. 専門職として学ぶ自覚と他者との関係性構築の大切さを理解する。						
卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連						
看護倫理や生命哲学、或いは宗教学などと共通する「人間学」であり、修士（看護学専攻）の基盤である。						
授業計画						
回数	授業内容	授業方法	担当教員			
1	はじめに～生命倫理学の歴史的背景	講義	盛岡			
2	生命誕生と医学の介入① ～人工授精、体外受精など	〃	〃			
3	生命誕生と医学の介入② ～再生医療、iPS細胞の可能性と課題	〃	〃			
4	生を絶つことへの医学の介入① ～人工妊娠中絶、女性の自己決定権	〃	〃			
5	生を絶つことへの医学の介入② ～選別出産、減数手術など	〃	〃			
6	死への医学の介入① ～死とは、脳死と臓器移植問題	〃	〃			
7	生と死のケア① ～訪問看護、在宅診療の現場から	〃	特別講師			
8	死への医学の介入② ～自死、殺人、安楽死について	〃	盛岡			
9	死への医学の介入③ ～安楽死、尊厳死、医療と宗教	〃	〃			
10	生と死のケア② ～ターミナル・ケアについて	〃	〃			
11	生と死のケア③ ～死の受容について	〃	〃			
12	インフォームド・コンセント～医師の裁量権とパターナリズム	〃	〃			
13	がんを生きるということ	〃	〃			
14	認知症における生命倫理の視点	〃	〃			
15	まとめ ～生命が平等足りうる社会か	〃	〃			
授業時間外学修（準備学習を含む）の具体的な内容及びそれに必要な時間						
テーマに従って、講義資料を用意するので、事前にテキストを読むか、受講後に復習すること。 講義時に見聞するニュースなどを資料として用いることもあるので、社会的話題にも関心をもつこと。						

テキスト及び参考書、参考文献・参考URL等
テキスト：塩野寛・清水恵子『生命倫理への招待』南山堂 参考書や参考論文は、講義進行に合わせて提示します。
成績評価の方法・基準
1. 授業参加状況 60% 講義終了後にリアクション・ペーパーの記述内容を評価する。 2. レポート課題 40% 課題を提起して、生命倫理的考察のレポート作成による評価を行う。
課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
提出されたレポートやリアクション・ペーパーは、前期終了後に本人に返却する。
担当教員からのメッセージ
・覚える学問でなく、思索を楽しんでください。 ・自分探しの時間にしてください。
実務経験のある教員等による授業科目（実務経験と当該授業科目との関連）
該当なし

【専門教育科目】

授業科目名	授業科目コード	配当年次時期	履修方法	単位数 時間数	授業形態	開講曜日 時限		
病態生理学	321	1後	必	2単位 30時間	講義	月3		
担当教員（○印＝科目責任教員）								
○小山正道（KOYAMA, Masamichi）								
オフィスアワー／連絡先と連絡方法								
授業終了後に教室で質問を受け付ける。								
授業の概要								
種々の疾病の原因と発生の機序、それに対する生体の反応、疾病の経過・転帰などについて、全身の各臓器の組織、細胞の一般的な形態学的変化を学び、疾病に対する理解を深める。								
到達目標								
疾病における形態と機能及び代謝の変化を理解し、病気や症状の機序について理解する。								
卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連								
「命の大切さを深く理解し、擁護する能力」を身につける授業科目である。								
授業計画								
回数	授業内容	授業方法	担当教員					
1	病理学とは、病理検査とは	講義	小山					
2	細胞障害							
3・4	物理・化学的障害							
5	老化と代謝異常							
6	先天異常							
7・8	循環障害							
9	炎症							
10	免疫異常とアレルギー							
11・12	感染症							
13・14	腫瘍							
15	まとめ							
授業時間外学修（準備学習を含む）の具体的な内容及びそれに必要な時間								
テキスト、講義資料を用いて学習したことを整理し、必ず復習しておくこと。 1回の授業について1時間程度復習を行うこと。								
テキスト及び参考書、参考文献・参考URL等								
テキスト：クイックマスター『病理学』サイオ出版								

成績評価の方法・基準
筆記試験（90%） 授業参加状況（10%）
課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
授業時に説明する。
担当教員からのメッセージ
他の科目の内容を踏まえながら疾病という概念を理解しましょう。
実務経験のある教員等による授業科目（実務経験と当該授業科目との関連）
病理専門医である教員が、その実務経験を活かした授業を行います。（小山正道）

【専門教育科目】

授業科目名	授業科目コード	配当年次時期	履修方法	単位数 時間数	授業 形態	開講曜日 時限
食と健康	326	1後	選 (保) 必	2単位 30時間	講義	金1
担当教員 (○印=科目責任教員)						
○宮本由香 (MIYAMOTO, Yuka)						
オフィスアワー／連絡先と連絡方法						
授業終了後に教室で質問を受け付ける。 また、受講票を持って質問を受け付け、これに返答する。						
授業の概要						
人体に必要な栄養素と代謝経路について理解した上で、健康の保持増進、疾病の治癒・回復に必要な栄養や食物の働きについて理解する。食事療法やその原理について理解し、疾病を予防し、健康な食習慣の形成に役立つ知識を習得する。近年の栄養問題を明らかにし、解決方法を理解する。						
到達目標						
<ol style="list-style-type: none"> 1. 人体に必要な栄養素とその体内での代謝経路について説明できる。 2. 健康の保持増進、疾病の治癒・回復に必要な栄養素の作用機序について理解し、その給源の食物が分かる。 3. 近年の栄養にまつわる問題を理解し、その解決方法について説明でき、健康な食習慣の形成について説明できる。自らの健康的な食生活が実践できる。 						
卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連						
「命の大切さを深く理解し、擁護する能力」を身につける授業科目である。 食を通じ、人、地域、社会が心身ともに健康で自分らしく生きる力を養う科目である。						
授業計画						
回数	授業内容	授業方法	担当教員			
1	栄養とは (人間栄養学と看護)	講義ならび に演習	宮本			
2	健康づくりと食品・食事・食生活					
3	栄養素の種類と働き①：三大栄養素					
4	栄養素の種類と働き②：無機質、ビタミン					
5	日本人の食事摂取基準とエネルギー代謝					
6	栄養ケアマネジメントと栄養状態の評価・判定					
7	栄養素の消化・吸収 (臨床栄養も含む)					
8	栄養素の体内代謝 (臨床栄養も含む)					
9	ライフステージと栄養①：乳幼児～成人					
10	ライフステージと栄養②：更年期、高齢期					
11	臨床栄養①：消化器疾患を中心に					
12	臨床栄養②：循環器疾患を中心に					
13	臨床栄養③：生活習慣病					
14	現代の食生活の課題、生活習慣病の予防と食事					
15	健康的な食生活の実践にむけて					

授業時間外学修（準備学習を含む）の具体的な内容及びそれに必要な時間
テキスト該当箇所を必ず読んでおくこと。 おおよそ单元ごとに授業内容について小テストを実施するので、よく復習しておくこと。 1回の授業について、2時間程度予習復習を行うこと。
テキスト及び参考書、参考文献・参考URL等
テキスト：小野章史他『系統看護学講座 栄養学』医学書院 参考文献：授業内にて適宜紹介する
成績評価の方法・基準
筆記試験（70%） 授業参加状況（10%） 小テスト（10%） レポート課題（10%）
課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
個々に評価し返却する。また、必要な内容は授業時に扱い共有する。
担当教員からのメッセージ
授業で習得した知識に基づき、健全な食生活や健康管理を実践してください。
実務経験のある教員等による授業科目（実務経験と当該授業科目との関連）
該当なし

【専門教育科目】

授業科目名	授業科目コード	配当年次時期	履修方法	単位数 時間数	授業形態	開講曜日 時限
保健衛生学	341	1後	必	2単位 30時間	講義	月2
担当教員（○印＝科目責任教員）						
○芳賀 博(HAGA, Hiroshi)、小林良清(KOBAYASHI, Yoshikiyo)、小池 渉(KOIKE, Wataru)、細谷たき子(HOSOYA, Takiko)、佐藤紀子(SATO, Noriko)						
オフィスアワー／連絡先と連絡方法						
火曜日12:30～13:00 細谷：t-hosoya●saku.ac.jp 佐藤：n-sato●saku.ac.jp						
授業の概要						
集団、つまり社会全体の健康についての意味を理解する。私たちの生活の中で健康に影響を及ぼす物事について学習し、健康を保持・増進するための知識を整理して身につける。そして、私たちの生命の安全と健康を守るための国の対策や制度の基礎となる考え方、社会の仕組みを理解する。将来、医療関係者として、地域の健康リーダーの立場から、社会の様々な健康問題について関心をもって考えられるようになる。						
到達目標						
1. 健康と生活、それを取り巻く環境について理解できる。 2. 公衆衛生に関連した制度、施策、その基盤になる考え方が理解できる。 3. 現在、社会で注目されている健康問題について考えられる。						
卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連						
「命の大切さを深く理解し、擁護する能力」を身につける授業科目である。						
授業計画						
回数	授業内容	授業方法	担当教員			
1	序章 公衆衛生を学ぶにあたって、第1章 公衆衛生のエッセンス	講義	芳賀			
2	第2章 公衆衛生の活動対象	講義	芳賀			
3	第3章 公衆衛生のしくみ	講義	芳賀			
4	第4章 集団の健康をとらえるための手法—疫学・保健統計	講義	芳賀			
5	第5章 環境と健康	講義	芳賀			
6	第6章 感染症とその予防対策	講義	小林			
7	第7章 国際保健	講義	細谷			
8	第8章 地域における公衆衛生の実践 母子保健	講義	芳賀			
9	第8章 地域における公衆衛生の実践 成人保健	講義	芳賀			
10	第8章 地域における公衆衛生の実践 高齢者保健	講義	芳賀			

11	第8章 地域における公衆衛生の実践 精神保健	講義	芳賀
12	第8章 地域における公衆衛生の実践 歯科保健、障害者保健・難病保健	講義	芳賀
13	第9章 学校と健康	講義	芳賀
14	第10章 職場と健康	講義	小池
15	第11章 健康危機管理・災害保健	講義	小林
授業時間外学修（準備学習を含む）の具体的な内容及びそれに必要な時間			
1回の授業について2時間程度予習復習を行うこと。			
テキスト及び参考書、参考文献・参考URL等			
『系統看護学講座 専門基礎 公衆衛生』医学書院 『国民衛生の動向』厚生労働統計協会			
成績評価の方法・基準			
筆記試験（80%） 授業参加状況（20%）			
課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法			
授業時に説明する			
担当教員からのメッセージ			
社会で起こっている健康問題に関心を持ってください。ニュースや広報などを意識するとよく理解できて面白くなります。耳なれない言葉が出てきますが、中身は私たちの日常生活そのものです。日常のことを少々専門的に整理しなおす科目と思ってください。健康な生活と医療をつなぐ基礎になります。			
実務経験のある教員等による授業科目（実務経験と当該授業科目との関連）			
該当なし			

【専門教育科目】

授業科目名	授業科目コード	配当年次時期	履修方法	単位数 時間数	授業形態	開講曜日 時限
看護基礎理論	401	1前	必	2単位 30時間	講義	木2
担当教員（○印＝科目責任教員）						
○ 八尋道子	YAHIRO, Michiko	m-yahiro@saku.ac.jp	研究室	5号館2階 R205		
吉田文子	YOSHIDA, Fumiko	fy200@saku.ac.jp	研究室	5号館3階 306		
鶴岡章子	TSURUOKA, Shoko	s-tsuruoka@saku.ac.jp	研究室	5号館3階 305		
武田貴美子	TAKEDA, Kimiko	k-takeda@saku.ac.jp	研究室	5号館3階 310		
オフィスアワー／連絡先と連絡方法						
授業終了後～13時まで（直接各教員への訪問可）						
○ 八尋道子 毎週火曜日5時限						
*質問は、メールやmanabaでもお待ちしております（随時）。オフィスアワー以外の面談予約もメールで可能です。						
授業の概要						
この授業では、看護の科学を支える理論的基盤として、人間、環境、健康、看護の捉え方・考え方を学ぶ。また、健康と保健行動、環境や文化と健康との関わり、専門職としての看護と多職種協働、国際的看護活動などの理解を通じて、看護が果たすべき役割について広い視野のもとで考えることができるようになる。さらには、日本における看護の歴史を学び、将来の看護活動の展望につなげる。看護実践に関わる倫理的課題に自ら取り組み、多様な視点や考え方を検討し、問題解決型（Problem-based Learning: PBL）の学修態度を養う。						
到達目標						
修了時に、以下の4つの学修成果を得ることを目標とします。						
1. 看護の科学を支える理論的基盤として、「人間」、「環境」、「健康」、「看護」の捉え方・考え方を学び、看護への学問的な関心を持つことができる。						
2. 健康と保健行動、環境や文化と健康との関わり、専門職としての看護と多職種協働、国際的看護活動などの理解を通じて、看護が果たすべき役割について広い視野のもとで考えることができる。						
3. 日本における看護の歴史と看護学の発展の経緯を学び、将来の看護活動や看護キャリアの展望につなげて説明することができる。						
4. 看護実践に関わる倫理的課題に自ら取り組み、多様な視点や考え方を継続的に検討することによって、問題解決型（PBL）の学修態度を身につけることができる。						
卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連						
専門職として必要な「看護実践能力の基盤」となる力を身につける授業科目です。さらに、「国内外の地域特性と文化的多様性を理解し、健康課題を捉える能力」にも関連します。						
授業計画						
回数	授業内容	授業方法	担当教員			
1	看護のさまざまな定義 / 授業科目のオリエンテーション イントロダクション、環境、健康、看護、フローレンス・ナイチンゲール	講義	八尋			
2	看護の対象 人間の捉え方、ニード、発達段階、健康の段階、ヴァージニア・ヘンダーソン	講義	八尋			
3	患者-看護師関係 看護とコミュニケーション、人間関係論、ヒルデガード・ペプロウ、 ジョイス・トラベルビー	講義	八尋			
4	専門職としての看護 プロフェSSIONAL、キャリア、組織における看護職の役割	講義	八尋			
5	人間の持つ力 セルフケア不足理論、ドロセア・オレム	講義	八尋			
6	【グループ学修】 病院で働く人々	講義・演習	八尋			
7・8	療養環境と健康の理解【学外演習】 ※課題をもって地域基幹病院を訪問します。	【演習】	全員			
9	看護の変遷	講義	武田			

10	健康の文化社会的側面と異文化理解 健康が環境や文化の様々な要因と深く関連していることを学びます。	講義	鶴岡
11	国際社会の現状と国際看護活動 ※先進国と開発途上国における健康格差、国際保健・国際看護における看護職の働きなどを学びます。	講義	鶴岡
12	看護の動向と倫理的課題 看護倫理、人権と尊厳を守るケア、看護師の倫理綱領	講義	八尋
13	日本の看護教育	講義	吉田
14	チームと協働 チーム医療、専門看護師、インタープロフェッショナル・ワーク ※大学病院で活躍中の専門看護師（CNS）を特別講師として招きお話を伺います。	講義	特別講師
15	ウェルネス 健康と保健行動論 / 授業科目のサマリー	講義	八尋
授業時間外学修（準備学習を含む）の具体的な内容及びそれに必要な時間			
<p>予習を重視します。指定された事前学修をすませて授業に臨んでください。テキストを読み、毎回30分程度の予習をしましょう。</p> <p>第7・8回の【演習】は、地域の病院を見学します。主なねらいは、(1) 実際に看護活動の場を訪問することで授業で得た知識の理解を深めるとともに、さらなる看護への学問的な関心を持つことができる (2) 五感を使って何を感じたか自らの疑問を授業に持ち帰ることができる、の2つです。対象病院をホームページで事前に調べてみましょう。訪問後のレポート課題のために90分程度の時間が必要です。学外演習方法の詳細は、授業内で説明します。</p>			
テキスト及び参考書、参考文献・参考URL等			
<p>テキスト</p> <p>① 竹尾恵子監修 (2007). 超入門:事例でまなぶ看護理論. 学習メディカル秀潤社.</p> <p>② 厚生労働統計協会編集 (2019). 厚生指標増刊・国民衛生の動向2019/2020. 厚生労働統計協会.</p> <p>参考書</p> <p>田村やよひ編集 (2012). 新体系看護学全書 看護の総合と実践③国際看護学. 第2版, メヂカルフレンド社.</p> <ul style="list-style-type: none"> • その他、授業のたびに次の予習ができるよう授業資料を事前に配付します。 • 自己学修に役に立つURLや推薦図書を、第1回授業のオリエンテーションで紹介します。 			
成績評価の方法・基準			
<p>総合成績で上位のグレードが得られるように、下記の基準を参考にしてください。</p> <p>1. レポート (20%) 【演習】に関連してレポートを課します。 演習を欠席した場合、レポート点から-10%、遅刻・早退はレポート点から-2%</p> <p>2. 筆記試験 (70%) 前期定期試験期間に実施します。</p> <p>3. 授業貢献度 (10%) 授業参加状況・貢献度を知らため、質問や意見交換の機会を設け、評価に反映します。</p>			
課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法			
<p>メールや manaba で問い合わせると、次の授業までにフィードバックを受けることができます。ただし疑問は履修生全員で共有すると有効ですので、なるべくその日の授業のなかで解決してもらえたらと思います。</p> <p>定期試験（筆記試験）と演習のレポートは返却しませんが、結果は個別に問い合わせが可能です。</p>			
担当教員からのメッセージ			
<p>初回の授業で、授業概要および成績評価について詳しく説明します。</p> <p>7・8回の【演習】は時間割調整をして2限続きで行いますので、連絡事項に気をつけてください。</p> <p>毎回の授業に、テキストのほか①と②を持参し、配付資料やノートをファイリングしてください。</p> <p>① A4リング2穴ファイル（厚さは4cm程度、色は自由。「看護基礎理論」専用）</p> <p>② A4サイズのルーズリーフ用紙（毎回の授業でノートに使用します。）</p>			
実務経験のある教員等による授業科目（実務経験と当該授業科目との関連）			
該当なし			

【専門教育科目】

授業科目名	授業科目コード	配当年次時期	履修方法	単位数 時間数	授業形態	開講曜日 時限
生活援助論 I (日常生活援助)	402	1後	必	2単位 60時間	講義 演習	水3, 水4 木2
担当教員 (○印=科目責任教員)						
○内山明子/UCHIYAMA, Akiko a-uchiyama●saku.ac.jp 研究室5号館2階208						
武田貴美子/TAKEDA, Kimiko k-takeda●saku.ac.jp 研究室5号館3階310						
宮原香里/MIYAHARA, Kaori k-miyahara●saku.ac.jp 研究室5号館2階209						
二神真理子/FUTAGAMI, Mariko m-futagami●saku.ac.jp 研究室5号館2階210						
柳澤佳代/YANAGISAWA, Kayo k-yanagisawa●saku.ac.jp 研究室5号館2階助手室						
森本 彩/MORIMOTO, Aya a-morimoto●saku.ac.jp 研究室5号館2階助手室						
柴田香菜子/SHIBATA, Kanako k-shibata●saku.ac.jp 研究室5号館2階助手室						
オフィスアワー/連絡先と連絡方法						
全教員共通：授業終了後、教室で質問を受けます。 質問は、メールでも可能です(随時)。オフィスアワー以外の面談はメールで予約してください。						
授業の概要						
日常生活と結びつけて人間の基本的ニーズを理解し、生活援助の基本について学習する。また、健康問題を持つ人間の生活援助に必要な基礎的看護技術を習得し、健康状態の観察、生活環境の調整・整備、活動と休息の援助、衣生活・身体の清潔の援助等を取り上げ、安全や安楽に配慮しつつ科学的根拠に基づく、看護技術を提供する方法と意義について講義、演習を通して学習する。						
到達目標						
1. 看護の視点から人間について総合的に捉え、看護技術を提供する方法と意義について述べられる。 2. 健康状態の観察、生活環境の調整・整備、活動と休息の援助、衣生活・身体の清潔、食事、排泄の援助等について科学的根拠に基づいた原理・原則が述べられる。 3. 対象の健康状態や個性性を考慮し、安全、安楽かつ効率的に目的を達成する援助を考え、実施することができる。						
卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連						
「豊かな人間性と幅広い教養」「命の大切さを深く理解し、擁護する能力」を基に、「看護実践能力の基盤」として看護実践で用いるケア技術を身につけるための必修科目です。「多様な健康のレベルと個性性に対応できる看護実践能力」に関連します。						
授業計画						
回数	授業内容	授業方法	担当教員			
1-2	生活援助論とは、看護技術とは、授業目標・概要 演習オリエンテーション(実習室の使い方, ユニフォーム着用時の身だしなみ) 感染予防への援助(スタンダードプリコーション)	講義・演習	内山			
3	効率的な活動を作り出す技術(安楽な体位、ボディメカニクス) 生活環境を整える技術(病室の環境と病床の整備)	講義	二神			
4-6	効率的な活動をつくりだす技術・生活環境を整える技術(安楽な体位、ベッドメイキング、病床の整備)	演習	二神			
7	活動・運動を支援し、休息・睡眠を促す援助技術	講義	宮原			
8-9	活動・運動を支援する技術(体位変換、移動・移送)	演習	宮原			
10	病床と衣の清潔を保つ援助技術(シーツ交換、寝衣交換)	講義	武田			
11-13	病床と衣の清潔を保つ援助技術(シーツ交換、臥床患者の寝衣交換)	演習	武田			
14	身体の清潔を援助する技術①(入浴、清拭、爪切り)	講義	二神			
15-16	身体の清潔を援助する技術①(部分清拭)	演習	二神			
17	身体の清潔を援助する技術②(部分浴、陰部洗浄、口腔ケア)	講義	内山			
18-19	身体の清潔を援助する技術②(足浴、爪切り)	演習	内山			
20	身体の清潔を援助する技術③(洗髪、整容)	講義	武田			

21-22	体の清潔を援助する技術③（洗髪）	演習	武田
23	食事・栄養に関する援助技術	講義	内山
24-25	食事摂取を援助する技術（食事介助，口腔ケア）	演習	内山
26	排泄を促す援助技術	講義	宮原
27-28	床上排泄を援助する技術（排尿・排便の援助，おむつ交換，陰部洗浄）	演習	宮原
29	終末時における技術	講義	内山
30	実技試験	試験	全教員

授業時間外学修（準備学習を含む）の具体的な内容及びそれに必要な時間

1. 【予習】

テキスト、参考文献を用いて授業に関連する箇所を読んで学習して下さい。理解できないところは付箋を付けるなどして、疑問を解決する準備を行って、授業に臨んでください。30分程度の時間を要します。

2. 【演習前学習】

事前に演習事例を提示しますので、講義内容やテキストなどから手順や留意点を復習し、事例に適した援助技術計画を立てて下さい。具体的な技術のイメージには、佐久大学図書館のビジュアルクラウド及びナーシングスキルなどの配信映像サービスを活用して下さい。配信映像は、学内だけではなく、スマートフォン等の利用で自宅でも見ることができます。30分～1時間程度の時間を要します。

3. 【技術試験前練習】

授業のない時間などを利用し、基礎看護学実習室で練習をします。演習の記録やデブリーフィングを読み返して内容を想起し、その技術ができるようになるまで練習をして下さい。練習してもうまくできない時や疑問は、教員に相談するなどして解決し、練習するようにして下さい。

テキスト及び参考書、参考文献・参考URL等

【テキスト】

志自岐康子，松尾ミヨ子，習田明裕編(2018). ナーシング・グラフィカ 基礎看護学③ 基礎看護技術. メディカ出版
医療情報科学研究所編(2018). 看護がみえるvol. 1. メディックメディア

【参考文献】

深井喜代子，前田ひとみ編(2017). 基礎看護学テキスト（改訂第2版）EBN志向の看護実践. 南江堂

成績評価の方法・基準

1. 筆記試験（40%）

定期試験1回で評価します。

2. 実技試験（40%）

技術科目なので、受験しなければ科目の評価対象となりません。

3. 小テスト（10%）

毎回講義開始時に前回講義・演習内容に準じて実施し、その平均点を評価に加えます。授業出席者のみ受験可。

4. 授業参加状況（10%）

演習の参加状況（演習計画提出）と演習後のデブリーフィング（manaba使用）の提出状況を用いて評価します。

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

実技試験前には、試験内容を提示します。実技試験後は、試験担当教員が評価面接をし、フィードバックします。演習後にはデブリーフィングという形で自己の演習の振り返りをmanabaを使って提出します。提出されたデブリーフィングの内容から、必要時授業でフィードバックをします。

担当教員からのメッセージ

授業内容の詳細は、初回のオリエンテーションで説明します。

この授業では、課題事例について事前に自己学習をしてから演習に取り組みます（反転授業）。課題事例は学生ごとに違いますが、演習はグループメンバーと協力しながら行います。自己学習してもわからないことや実際に行ってみてうまくできないことなどは、グループやクラス全員で検討し、解決しながら技術を習得しましょう。

初めて学ぶことばかりなので、間違いや失敗は当たり前です。間違いや失敗を楽しみながら、修正し学びましょう。

教員も「技術を教える」ではなく、皆さんの学びを支援するという立場で、学修が進むようにファシリテートします。

出席・小テストにはmanabaを使用しますので、授業・演習時にはスマートフォンなどの端末を持参してください。

演習の際は、ユニフォーム・ナースシューズを着用し、基礎看護実習室に集合してください。（初回もユニフォーム・ナースシューズ着用。靴下は白。髪は長い人はまとめる。アクセサリはつけない。爪は短く、マニキュアはしない）

実務経験のある教員等による授業科目（実務経験と当該授業科目との関連）

該当なし

【専門教育科目】

授業科目名	授業科目コード	配当年次時期	履修方法	単位数 時間数	授業形態	開講曜日 時限
看護展開論	406	1後	必	2単位 60時間	講義 演習	金3～5
担当教員（○印＝科目責任教員）						
○吉田文字 YOSHIDA, Fumiko fy200●saku.ac.jp (5号館306)						
八尋道子 YAHIRO, Michiko m-yahiro●saku.ac.jp (5号館205)						
武田貴美子 TAKEDA, Kimiko k-takeda●saku.ac.jp (5号館310)						
内山明子 UCHIYAMA, Akiko a-uchiya●saku.ac.jp (5号館208)						
宮原香里 MIYAHARA, Kaori k-miyahara●saku.ac.jp (5号館209)						
二神真理子 FUTAGAMI, Mariko m-futagami●saku.ac.jp (5号館210)						
柳澤佳代 YANAGISAWA, Kayo k-yanagisawa●saku.ac.jp (5号館助手室)						
森本 彩 MORIMOTO, Aya a-morimoto●saku.ac.jp (5号館助手室)						
柴田香奈子 SHIBATA, Kanako k-shibata●saku.ac.jp (5号館助手室)						
オフィスアワー／連絡先と連絡方法						
授業終了後～19時まで（直接吉田研究室306に訪問可）						
水曜日17時～18時（まずはメールをください） fy200●saku.ac.jp						
授業の概要						
看護のあり方は、国内外の社会情勢の変化に対応する方向で、考え方においても具体的な展開方法においても変革を遂げてきている。 本科目では、その変革の状況を、看護の基盤となる「知識・技術・態度（資質）」の各側面から学修する。具体的には、①看護の対象者を主体とした看護実践（Evidence-based nursing） ②看護の対象者を医療のメンバーとみなすチーム医療 ③専門職としての看護職のあり方・資質（プロフェッショナルリズム）について、個人学習、チーム学習によって深める。						
到達目標						
Course Outcomesとして以下のことを目指します。 1. Evidence-Based Nursing (EBN) の構成要素を説明することができる。 2. 系統的思考プロセスを用いてクリティカルシンキングし、事例展開できる（思考力）（記述力）。 3. 今日のチーム医療の考え方とその課題について説明することができる。 4. 事例においてプロフェッショナルリズムとは何かを追求し、考察することができる（観察力）（説明力）。 5. ディスカッション場面に有効なコミュニケーションスキルを高めることができる（対話力）。						
卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連						
（学生便覧参照のこと） 教育目標7つのうちの、「IV群 看護実践能力の基盤」を培う科目であり、初年次教育科目（導入基礎演習）の後続科目として位置づけ、専門科目の学び方を看護の展開方法を通して学べるように配置している。						
授業計画						
回数	授業内容	授業方法	担当教員			
1～2	コースガイド 【個人学習、チーム学習の2つの柱を同時進行】 ・個人学習（看護実習では「1人の患者」を担当するので、個人で看護を展開する力を身につける機会とする） ・チーム学習（課題解決★に向けた学習を行い、人の話を聞いてから自身の考えを伝える対話力を身につける機会とする） ★ チームは固定せず、できる限り多くの人と組めるように編成される。	講義・演習	全教員			
3	看護過程の意義と構成要素					
4	TBL (Team-Based Learning) /チームナーシング					
5～6	Evidence-Based Nursing ・看護診断 ・臨床的判断 ・グローバルヘルスとチーム医療					
7～12	変革するための中核となる専門職の資質について ・プロフェッショナルリズム、Change Agency、コアマネジメント（自己認識力、思考力、対話力）					

13～21	系統的思考/看護過程の事例展開 ・看護過程展開方法 看護実践例から看護を考える①② ・看護実践例（教員）（学生） 医療安全と看護 事例の関連図の作成		
22～24	事例の全体討論会		
25～27	援助計画の作成 ・フォーカスチャータリング（F-DAR）		
28～30	クリティカルシンキング課題の提示		
授業時間外学修（準備学習を含む）の具体的な内容及びそれに必要な時間			
本科目は、講義演習科目であり、1単位30時間として計算すると、総自己学習時間は22.5時間となります。 ★初回授業で、詳細な学習進度をお知らせします。 特に課題によるレポート作成には、文献検索を含めた自己学習が必要となります。 小テスト実施日を提示しますので、予習復習の時間を充てるとよいでしょう。			
テキスト及び参考書、参考文献・参考URL等			
テキスト：任和子編（2015）. 実習記録の書き方がわかる看護過程展開ガイド. 照林社. リンダ J. カルペニート＝モイエ. 黒江ゆり子訳（2018）. 看護診断ハンドブック（第11版）. 医学書院. 参考文献：日本国際保健医療学会（2013）. 国際保健医療学第3版. 杏林書院.			
成績評価の方法・基準			
<ul style="list-style-type: none"> ■ 筆記試験（小テスト4回 40%） 授業内で、10分程度のテストを行います。 ■ レポート（課題2回 40%） 課題について、所定の書式でレポート作成をします。 ■ パフォーマンス評価（6%） クリティカルシンキング問題について思考し、発言します。 ■ 授業参加状況（14%） 授業内作成物の不備や期限外提出は減点になります。 拡声器の持参忘れは減点対象となります（拡声器は初回の授業で配付します）。 			
課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法			
科目終了時には、以下規準についての点数を個別で一覧表にし返却します。 <ul style="list-style-type: none"> ■ 筆記試験（小テスト4回 40%） 実施の授業内で、結果を通知します。 ■ レポート（40%） 結果を講評後、結果を通知します。 ■ パフォーマンス評価（6%） 配点の通知をします。そして結果は総合成績として個別返却時に通知します。 ■ 授業参加状況（14%） なお、出席そのものへは加点はありません。 			
担当教員からのメッセージ			
初回の授業で、授業概要を詳細に説明し、学生とともに授業進度を最終決定します。 本授業の構成はマスターラーニングを基盤に行い、何度か習得状況を確認・評価し、全員が科目目標を達成できるようにしています。難しい内容もステップを踏めば簡単にそして面白く学習できると思います。			
実務経験のある教員等による授業科目（実務経験と当該授業科目との関連）			
該当なし			

【専門教育科目】

授業科目名	授業科目コード	配当年次時期	履修方法	単位数 時間数	授業形態	開講曜日 時限
遺伝と健康	306	2後	自	2単位 30時間	講義	木3
担当教員（○印＝科目責任教員）						
○今福裕司（IMAFUKU, Yuji）						
オフィスアワー／連絡先と連絡方法						
授業終了後に教室で質問を受け付ける。						
授業の概要						
人間における遺伝の仕組み、病気や健康の問題に遺伝はどう関わるのか。DNA、ゲノム、染色体とは何か、その発現の仕組みについて学習する。遺伝病から生活習慣病まで、病気と遺伝との関わりについて理解し、家族性の疾患や遺伝に関わる諸問題について理解する。また、その前提となる生物学について学ぶ。						
到達目標						
<ol style="list-style-type: none"> 1. メンデル遺伝学を説明できるようになる。 2. 染色体及び遺伝子の異常による疾患についての理解を深めることができる。 3. 病院・地域で健康支援を推進する際に必要な「遺伝と健康の関係」についての知識を習得できる。 4. 生物学の基礎について理解を深める。 						
卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連						
「命の大切さを深く理解し、擁護する能力」を身につける授業科目である。						
授業計画						
回数	授業内容	授業方法	担当教員			
1	遺伝概説、代謝総論	講義	今福			
2	栄養素の構造（1）					
3	栄養素の構造（2）					
4	糖質代謝					
5	脂質代謝					
6	核酸、ヌクレオチド代謝					
7	エネルギー代謝の統合と制御					
8	遺伝子					
9	遺伝病と遺伝形式					
10	常染色体劣性遺伝病					
11	常染色体優性遺伝病					
12	X染色体連鎖劣性遺伝病					
13	癌、生活習慣病と遺伝子					
14	遺伝子診断、治療、カウンセリング					
15	まとめ					
授業時間外学修（準備学習を含む）の具体的な内容及びそれに必要な時間						
テキスト、講義資料を用いて学習したことを整理し、必ず復習しておくこと。 1回の授業について、2時間程度復習を行うこと。						

テキスト及び参考書、参考文献・参考URL等
テキスト：『ナーシンググラフィカ 臨床生化学』メディカ出版
成績評価の方法・基準
筆記試験（70%） 授業参加状況（30%）
課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
授業時に説明する。
担当教員からのメッセージ
実務経験のある教員等による授業科目（実務経験と当該授業科目との関連）
臨床検査専門医である教員が、その実務経験を活かした授業を行います。（今福裕司）

【専門教育科目】

授業科目名	授業科目コード	配当年次時期	履修方法	単位数 時間数	授業形態	開講曜日 時限
健康障害と治療 I	322	2前	必	2単位 60時間	講義	火3, 火4
担当教員 (○印=科目責任教員)						
○今福裕司 (IMAFUKU, Yuji)						
オフィスアワー／連絡先と連絡方法						
授業終了後に教室で質問を受け付ける。						
授業の概要						
健康障害を持つ人々の状況を適切に把握し、療養生活の支援をすることができる基礎的な知識について学習する。成人期、老年期に多い疾患を群に分けて下記疾患の疫学、成因、病態生理、自覚症状と他覚症状、検査所見、治療、予後を学ぶ。						
到達目標						
成人期、老年期に多い疾患の疫学・症状・病因・診断・治療・予防について理解し、診療の補助、療養上の世話に役立てることができる。						
卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連						
「命の大切さを深く理解し、擁護する能力」を身につける授業科目である。						
授業計画						
回数	授業内容	授業方法	担当教員			
1-4	循環器疾患 (虚血性心疾患 心臓弁膜症 心筋症 心不全 大動脈解離 大動脈瘤 高血圧)	講義	今福			
5-8	呼吸器疾患 (肺炎 間質性肺炎 気管支喘息 慢性閉塞性肺疾患 肺がん 気胸 肺結核肺梗塞)					
9-12	消化器疾患 I (逆流性食道炎 食道がん 胃潰瘍 十二指腸潰瘍 胃がん 大腸がん イレウス 炎症性腸疾患)					
13-16	消化器疾患 II (肝炎 肝硬変 肝がん 食道・胃静脈瘤 胆石 胆嚢炎 胆管炎 胆管がん 膵炎 膵がん)					
17-20	内分泌・代謝疾患 I (糖尿病 肥満：メタボリック症候群・脂質異常症)					
21-22	内分泌・代謝疾患 II (下垂体疾患 甲状腺疾患 副腎の疾患)					
23-26	血液疾患 (血友病 白血病 悪性リンパ腫 多発性骨髄腫 播種性血管内凝固症候群)					
27-30	腎・泌尿器疾患 (腎炎 腎不全 ネフローゼ症候群 腎盂腎炎 尿路感染症 排尿障害 前立腺肥大症 前立腺がん)					

<p>授業時間外学修（準備学習を含む）の具体的な内容及びそれに必要な時間</p> <p>講義前にテキストの該当する箇所を熟読すること。 テキスト、配布資料、補助教材を再読し、知識の定着に努めること。 1回の授業について、1時間程度予習復習を行うこと。</p>
<p>テキスト及び参考書、参考文献・参考URL等</p> <p>テキスト：『病気がみえる vol.1 消化器』メディックメディア 『病気がみえる vol.2 循環器』メディックメディア 『病気がみえる vol.3 糖尿病・代謝・内分泌』メディックメディア 『病気がみえる vol.4 呼吸器』メディックメディア 『病気がみえる vol.5 血液』メディックメディア 『病気がみえる vol.8 腎・泌尿器』メディックメディア 『疾病と検査』南江堂 参考文献：『病理学 第1版』医学芸術社</p>
<p>成績評価の方法・基準</p> <p>筆記試験（90%） 授業参加状況（10%）</p>
<p>課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法</p> <p>授業時に説明する。</p>
<p>担当教員からのメッセージ</p> <p>疾患と治療の理解は、患者を理解し、看護を実践するために重要となります。 学習を深めることは将来の看護につながるので頑張りましょう。</p>
<p>実務経験のある教員等による授業科目（実務経験と当該授業科目との関連）</p> <p>該当なし</p>

【専門教育科目】

授業科目名	授業科目コード	配当年次時期	履修方法	単位数 時間数	授業形態	開講曜日 時限
健康障害と治療Ⅱ	323	2通	必	2単位 60時間	講義	(前) 木3 (後) 月1, 月2
担当教員 (○印=科目責任教員)						
今福裕司 (IMAFUKU, Yuji) 奥泉宏康 (OKIZUMI, Hiroyasu)						
オフィスアワー／連絡先と連絡方法						
授業終了後に教室で質問を受け付ける。						
授業の概要						
健康障害を持つ人々の状況を適切に把握し、療養生活の支援をすることができる基礎的な知識について学習する。特に、成人期、老年期に多い疾患を脳神経、運動器、皮膚、感覚器、腎・泌尿器、婦人科、免疫群に分け下記疾患の疫学、成因、病態生理、自覚症状と他覚所見、検査所見、治療、予防などを学ぶ。						
到達目標						
成人期、老年期に多い疾患の疫学・症状・病因・診断・治療・予防について理解し、診療の補助、療養上の世話に役立てることができる。						
卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連						
「命の大切さを深く理解し、擁護する能力」を身につける授業科目である。						
授業計画						
回数	授業内容	授業方法	担当教員			
1-16 (前期)	①感覚器疾患-1 (白内障 緑内障 網膜剥離 屈折・調節異常 結膜炎など) ②感覚器疾患-2 (難聴 耳鳴 鼻出血 味覚異常 中耳炎 メニエール病 顔面神経麻痺など) ③皮膚疾患 (皮膚炎 蕁麻疹 膿疱症 熱傷 褥瘡 皮膚腫瘍 蜂窩織炎 白癬 帯状疱疹など) ④自己免疫・アレルギー疾患-1 (関節リウマチ SLE その他の膠原病) ⑤自己免疫・アレルギー疾患-2 (花粉症 HIV と免疫不全)	講義	今福			
17-30 (後期)	①脳神経疾患-1 (脳血管疾患、頭部外傷、認知症、パーキンソン病、ALS など) ②脳神経疾患-2 (筋ジストロフィー、重症筋無力症、脳腫瘍、てんかん、髄膜炎など) ③運動器疾患-1 (骨折・脱臼、脊椎疾患、上肢・手の疾患、下肢・足の疾患、末梢神経麻痺など) ④運動器疾患-2 (運動器感染症、関節リウマチ、小児の整形外科、骨軟部腫瘍、骨粗鬆症など)	講義	奥泉			
※詳細な授業計画は、初回授業時に提示する。						

授業時間外学修（準備学習を含む）の具体的な内容及びそれに必要な時間
講義前にテキストの該当する箇所を熟読し、必要なら図書館で資料を参照すること。 テキスト、配布資料、補助教材を再読し、知識の定着に努めること。 1回の授業について、1時間程度予習復習を行うこと。
テキスト及び参考書、参考文献・参考URL等
テキスト：『病気がみえる vol.6 免疫・膠原病・感染症』メディックメディア 『病気がみえる vol.7 脳・神経』メディックメディア 『疾病と治療Ⅳ 運動器系／皮膚／眼／耳鼻咽喉／歯・口腔』南江堂 『これならわかる！整形外科の看護ケア』ナツメ社 『疾病と検査』南江堂 参考文献：『病理学 第1版』医学芸術社
成績評価の方法・基準
筆記試験（90%） 授業参加状況（10%）
課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
授業時に説明する。
担当教員からのメッセージ
疾患と治療の理解は、患者を理解し、看護を実践するために重要となります。 学習を深めることは将来の看護につながるので頑張りましょう。
実務経験のある教員等による授業科目（実務経験と当該授業科目との関連）
該当なし

【専門教育科目】

授業科目名	授業科目コード	配当年次時期	履修方法	単位数 時間数	授業形態	開講曜日 時限
健康障害と治療Ⅲ	324	2後	必	2単位 60時間	講義	集中
担当教員（○印＝科目責任教員）						
奥山秀樹（OKUYAMA, Hideki） 今井幸充（IMAI, Yukimichi） 小口 治（OGUCHI, Osamu） 小諸高原病院 精神科医師 佐久総合病院佐久医療センター 小児科・放射線診断科・放射線治療科 医師						
オフィスアワー／連絡先と連絡方法						
授業終了後に教室で質問を受け付ける。						
授業の概要						
健康障害を持つ人々の状況を適切に把握し、療養生活の支援をすることができる基礎的な知識について学習する。 歯科・口腔疾患の症状、診断、治療について学ぶ。認知症及び精神疾患の基本的症状と診断、治療について学ぶ。 小児特有の症候と疾患、検査、治療について学ぶ。女性生殖器に関する疾患、症候の診断、治療について学ぶ。 放射線による診断とその治療について学ぶ。						
到達目標						
歯科・口腔疾患、認知症、精神疾患、小児・女性特有の疾患の症状・病因・診断・治療・予防及び放射線による診断と治療について理解し、診療の補助、療養上の世話に役立てることができる。						
卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連						
「命の大切さを深く理解し、擁護する能力」を身につける授業科目である。						
授業計画						
回数	授業内容	授業方法	担当教員			
成人 1-4	歯・口腔疾患の症状、診断、治療	講義	奥山			
老年 1-2	認知症の病態の理解と治療（薬物療法を含む）	講義	今井			
精神 1-7	精神疾患の基本的症状と診断、治療	講義	精神科医師			
小児 1-10	小児特有の症候と疾患、検査、治療	講義	小児科医師			
母性 1-3	女性生殖器に関する疾患、症候の診断、治療	講義	小口			
放射線 1-4	放射線による診断とその治療	講義	放射線診断科・ 放射線治療科 医師			
※全30回をオムニバス方式で行う。 詳細な授業計画は初回授業時に提示する。						
授業時間外学修（準備学習を含む）の具体的な内容及びそれに必要な時間						
講義前にテキストの該当する箇所を熟読すること。 テキスト、配布資料、補助教材を再読し、知識の定着に努めること。 1回の授業について、1時間程度予習復習を行うこと。						

テキスト及び参考書、参考文献・参考URL等
テキスト：『疾病と治療Ⅳ 運動器系／皮膚／眼／耳鼻咽喉／歯・口腔』南江堂 『新体系看護学全書 精神看護学② 精神障害をもつ人の看護』メヂカルフレンド社 『系統看護学講座 小児看護学[2]小児臨床看護各論』医学書院 『系統看護学講座 成人看護学[9]女性生殖器』医学書院 『疾病と検査』南江堂 その他、必要に応じて資料を配布する
成績評価の方法・基準
筆記試験（90%） 授業参加状況（10%）
課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
授業時に説明する。
担当教員からのメッセージ
患者を理解し、看護を実践するために、疾患と治療の学習は重要です。 学習を深めることは将来の看護につながります。しっかり学習してください。
実務経験のある教員等による授業科目（実務経験と当該授業科目との関連）
該当なし

【専門教育科目】

授業科目名	授業科目コード	配当年次時期	履修方法	単位数 時間数	授業 形態	開講曜日 時限
薬理薬剤学	325	2前	必	2単位 30時間	講義	木5
担当教員（○印＝科目責任教員）						
○栗林正彦（KURIBAYASHI, Masahiko）						
オフィスアワー／連絡先と連絡方法						
授業終了後に教室で質問を受け付ける。						
授業の概要						
薬物が生体に及ぼす作用について理解し、その化学構造に由来する作用機序の類似性を学ぶ。薬物の投与経路・投与方法の違いによる作用の違い、薬物の吸収・分布・代謝・排泄の違いを学ぶ。看護の場で注意すべき薬物の取り扱い方法（用量、投与方法、投与速度等）を学ぶ。実際にヒトに投与された医薬品の効果・有害作用と、薬物が本来持っている薬理作用との間にある乖離の原因を学ぶ。						
到達目標						
<ol style="list-style-type: none"> 1. 基本的な薬理学的系統名を理解し、その特徴的な作用・効果・副作用などを理解する。 2. 使用目的により、剤形や用法・用量が異なることを理解する。 3. 薬の危険性を理解し、安全な薬物治療が行えるようになる。 4. web上に存在する良質な医薬品情報を理解し、必要な場合に自分で利用できるようになる。 						
卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連						
「命の大切さを深く理解し、擁護する能力」を身につける授業科目である。						
授業計画						
回数	授業内容	授業方法	担当教員			
1	薬理学総論(1) 薬理学を学ぶにあたって	講義	栗林			
2	薬理学総論(2) 薬理学の基礎知識					
3	薬理学各論(1) 抗感染症薬					
4	薬理学各論(2) 抗がん薬					
5	薬理学各論(3) 免疫治療薬					
6	薬理学各論(4) 抗アレルギー薬・抗炎症薬					
7	薬理学各論(5) 末梢での神経活動に作用する薬物					
8	薬理学各論(6) 中枢神経系に作用する薬物					
9	薬理学各論(7) 心臓・血管系に作用する薬物					
10	薬理学各論(8) 呼吸器・消化器・生殖器系に作用する薬物					
11	薬理学各論(9) 物質代謝に作用する薬物					
12	薬理学各論(10) 皮膚科用薬・眼科用薬					
13	薬理学各論(11) 救急の際に使用される薬物					
14	薬理学各論(12) 漢方薬					
15	薬理学各論(13) 消毒薬、輸液製剤・輸血剤					
授業時間外学修（準備学習を含む）の具体的な内容及びそれに必要な時間						
テキスト、講義資料を用いて学習したことを整理し、必ず復習しておくこと。 1回の授業について、1時間程度復習を行うこと。						

テキスト及び参考書、参考文献・参考URL等
テキスト：吉岡充弘他『系統看護学講座 専門基礎分野 薬理学』 医学書院
成績評価の方法・基準
筆記試験（80%） 授業参加状況（20%）
課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
授業時に説明する。
担当教員からのメッセージ
正しい薬の知識は、看護業務で利用するだけではない。自分自身のみならず、親、子や周りの人たちにも必要な知識であることを認識して、正しく理解・判断できるようになることを望む。
実務経験のある教員等による授業科目（実務経験と当該授業科目との関連）
薬剤師である教員が、その実務経験を活かした授業を行います。（栗林正彦）

【専門教育科目】

授業科目名	授業科目コード	配当年次時期	履修方法	単位数 時間数	授業形態	開講曜日 時限
運動と健康	327	2前	選 (養) 必	2単位 45時間	講義 演習	金1, 金2
担当教員 (○印=科目責任教員)						
○朴 相俊 PARK, sangjun s-park●saku.ac.jp 研究室 1号館3階319						
オフィスアワー／連絡先と連絡方法						
原則、授業終了後に教室で質問を受け付ける。 質問はメールでもよい(常時)。オフィスアワー以外の面談の予約はメールで可能である。						
授業の概要						
子どもや中高年者における健康と運動との関連を多面的に理解し、健康の保持増進、疾病や障害の予防と回復に関する運動実践方法の基本を理解する。さらに、実技・演習を通して運動を日常生活に楽しく実践するためのプログラムについて学ぶ。						
到達目標						
1. 健康(心と身体)と運動に関する知識を養い、運動が健康に与える影響について理解できるようになる 2. 運動の基本的な知識や理論を説明できるようになる 3. 対象の特性にあわせた運動プログラムを体験することで、その特性を理解できるようになる 4. 自らの健康づくりのために、楽しく安全な運動習慣を身につけるようになる						
卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連						
「命の大切さを深く理解し、擁護する能力」を身につける授業科目である。						
授業計画						
回数	授業内容	授業方法	担当教員			
1	オリエンテーション、健康と運動の疫学について学ぶ	講義	朴 特別講師			
2-3	球技スポーツ①(バドミントン)+自由種目	実技				
4-5	球技スポーツ②(バレーボール)+自由種目	実技				
6-7	球技スポーツ③(バスケットボール)+自由種目	実技				
8-9	球技スポーツ④(スポンジテニス)+自由種目	実技				
10-11	子どもの運動遊び+自由種目	実技				
12-13	ボッチャ+自由種目	実技				
14-15	文部科学省新体力テストについて学ぶ+自由種目	実技				
16-17	健康づくり運動実践① スクエアステップについて学ぶ	実技				
18-19	健康づくり運動実践② エアロビクスについて学ぶ	実技				
20-21	健康づくり運動実践③ 集団スポーツについて学ぶ	実技				
22	授業のまとめ	実技				

授業時間外学修（準備学習を含む）の具体的な内容及びそれに必要な時間
週23エクササイズ（メッツ・時）の身体活動（運動・生活活動）を生活で実施すること。
テキスト及び参考書、参考文献・参考URL等
テキスト：指定しない。 参考文献：講義の中で提示する。
成績評価の方法・基準
授業参加状況（50%） 授業終了時のミニレポート（20%） 課題レポート（30%）
課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
授業時に指示する。
担当教員からのメッセージ
実務経験のある教員等による授業科目（実務経験と当該授業科目との関連）
該当なし

【専門教育科目】

授業科目名	授業科目コード	配当年次時期	履修方法	単位数 時間数	授業 形態	開講曜日 時限
社会福祉学	342	2前	必	2単位 30時間	講義	火2
担当教員（○印＝科目責任教員）						
○佐藤嘉夫（SATO, Yoshio）						
オフィスアワー／連絡先と連絡方法						
随時メールで質問を受け付ける。 yo-sato@saku.ac.jp						
授業の概要						
社会福祉の基礎と基本について学び、今日の福祉課題の中における看護と社会福祉の重なりや役割分担について理解を深め、看護ケアにおいて、社会福祉の価値、方法・技術とサービス資源の活用を意識した実践ができるような知識、能力を習得する。						
到達目標						
<ol style="list-style-type: none"> 1. 社会福祉と社会保障の役割と違いについて説明できる。 2. 新聞等で報道されている福祉問題の背景・原因等を理解できる。 3. 医療・看護ケアにとって社会福祉がなぜ必要か説明できる。 4. 看護実践に活用、応用できる社会福祉の方法や技術を書き出すことができる。 						
卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連						
「豊かな人間性と幅広い教養」を身につける授業科目である。						
授業計画						
回数	授業内容	授業方法	担当教員			
1	現代社会と社会福祉 ・ 社会保障	講義	佐藤			
2	社会福祉とはなにか：歴史・思想	講義				
3	社会福祉の対象 ・ 対象の捉え方とその変遷	講義				
4	社会保障と社会福祉 ・ 仕組みと役割の違い	講義				
5	社会保障と社会福祉 ・ 社会サービスの視点から	講義				
6	社会福祉と社会保障 ・ 医療サービス・医療福祉と医療保障	講義				
7	社会福祉の基本：原理、方法、領域	講義				
8	社会福祉の領域：子ども、障害のある人、高齢者、女性、貧困者 etc	講義				
9	少子高齢化と社会保障、社会福祉	講義 ミニ演習				
10	現代家族と社会保障、社会福祉	講義 ミニ演習				
11	福祉臨床学の基礎 ・ ソーシャルワークとソーシャルケア	講義				
12	福祉臨床と看護ケア ・ 病院の中の社会福祉	講義				
13	福祉臨床と看護ケア ・ 地域医療・地域包括ケアと社会福祉	講義				
14	社会福祉の機能と専門職の役割	講義				
15	ケアの科学としての社会福祉学と看護学	講義				
授業時間外学修（準備学習を含む）の具体的な内容及びそれに必要な時間						
<ol style="list-style-type: none"> 1. 人権思想が芽生えた啓蒙期の思想を辿ってみる。 2. 現代の生存権・憲法24条と関連する条項を読んでみる。（配布資料） 3. 新聞・テレビのニュース等で報道された具体例をみて、医療保障の課題をメモしてみる。 4. 現代社会ではなぜ社会福祉や社会保障が不可欠なのを考えてみる。（ミニ・レポート） 5. 看護と福祉はなぜ互いを必要不可欠としているか整理してみる。 						

テキスト及び参考書、参考文献・参考URL等
テキストは使用しない。授業ごとにレジメを配布する。 参考文献：系統看護学講座『社会保障・社会福祉』医学書院
成績評価の方法・基準
筆記試験又はレポート 80% ミニ・レポート 10% 授業の参加状況 10%
課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
1. 試験やレポートの概況、コメントを一括してメールで配信する。 2. 個別のコメント等を希望する受講生には、メール又は面談にてコメントを行う。
担当教員からのメッセージ
専門職者が、人の痛みや苦しみ、悲しみに沿って行う「ケア」あるいは「ソーシャル・ケア」という概念でくくると、看護と社会福祉は極めて親近性があるものであることがわかります。できるだけ具体的な課題にそって講義を進めたいと思いますので、受講生の皆さんも、現実の問題に大いに興味をもって、講義に臨んでください。
実務経験のある教員等による授業科目（実務経験と当該授業科目との関連）
該当なし

【専門教育科目】

授業科目名	授業科目コード	配当年次時期	履修方法	単位数 時間数	授業 形態	開講曜日 時限
保健医療福祉行政論	343	2後	選 (保) 必	2単位 30時間	講義	金1, 金2
担当教員 (○印=科目責任教員)						
○小岩和枝 (KOIWA, Kazue) 坂戸千代子 (SAKATO, Chiyoko)						
オフィスアワー／連絡先と連絡方法						
授業終了後に教室で質問を受け付ける。						
授業の概要						
保健・医療・福祉制度をめぐる法と政策について、歴史的背景を踏まえて現在の問題と将来の課題について学ぶ。また、地域における保健・医療・福祉制度の現状、課題、各種施策の方向性についても学ぶ。						
到達目標						
1. 保健・医療・福祉制度をめぐる法と政策について理解し、現在の問題と将来の課題について説明できる。 2. 地域における保健・医療・福祉制度の現状、課題、各種施策の方向性について説明できる。						
卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連						
「豊かな人間性と幅広い教養」を身につける授業科目である。						
授業計画						
回数	授業内容	授業方法	担当教員			
1	1. 保健医療福祉行政のめざすもの	講義	小岩 他			
2～5	2. 保健医療福祉制度の変遷 1) 公衆衛生の基盤形成 2) 政策の充実と転換	講義・演習				
6, 7	3. 保健医療福祉行政・財政の理念としくみ 1-1) 国・都道府県の行政のしくみと役割 1-2) 市区町村の行政のしくみと役割 2) 行政における保健師の役割と活動 3) 保健医療福祉の財政 4) 公衆衛生に関する国際的な活動	講義				
8～10	4. 社会保障制度 1) 社会保障制度の理念としくみ 2) 医療提供体制 3) 介護保険制度 4) 社会保障・社会福祉の制度	講義				
11	5. 地域保健の体系 1) 地域保健に関する公的機関 2) 関係機関との連携	講義				
12, 13	6. 保健医療福祉の計画と評価 1) 地方公共団体の保健医療福祉計画 2) 保健計画の策定プロセス 3) 保健計画の推進と評価 4) 保健事業の立案とプロセスを学ぶ	講義				
14, 15	まとめ	グループワーク 講義				

授業時間外学修（準備学習を含む）の具体的な内容及びそれに必要な時間
テキストを用いて学習したことを整理し、必ず復習しておくこと。
テキスト及び参考書、参考文献・参考URL等
テキスト：藤内修二他『標準保健師講座別巻1 保健医療福祉行政論』医学書院 『国民衛生の動向』厚生労働統計協会
成績評価の方法・基準
筆記試験（70%） レポート（10%） 授業参加状況（20%）
課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
授業時に説明する。
担当教員からのメッセージ
演習・グループワークの取組みも評価する。
実務経験のある教員等による授業科目（実務経験と当該授業科目との関連）
行政保健師として勤務経験がある教員が、その実務経験を活かした授業を行います。（小岩和枝）

【専門教育科目】

授業科目名	授業科目コード	配当年次時期	履修方法	単位数 時間数	授業 形態	開講曜日 時限
疫学・保健統計	344	2前	選 (保) 必	2単位 30時間	講義	水3, 水4
担当教員 (○印=科目責任教員)						
○今村晴彦 (IMAMURA, Haruhiko) 朴 相俊 (PAKU, Sanjun) 那須野順子 (NASUNO, Junko)						
オフィスアワー／連絡先と連絡方法						
授業日の授業終了後から放課後 授業日以外の日はメールで受け付ける。今村: haruhiko.imamura●med.toho-u.ac.jp						
授業の概要						
集団としての健康の指標に関する基本的な知識を学び、数量的な分析とその意味について理解する。また、保健統計を活用し、人間集団を対象に疾病の発生状況と発生要因を解明する過程を理解し、予防対策に結び付けていく疫学の基本的な原理、方法論を学ぶ。						
到達目標						
1. 疫学的調査研究の成果と保健統計の意味を理解し、集団の健康事象及びその要因を考えられるようになる。 2. 疫学的調査研究を組み立てられるようになる。						
卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連						
「学問を深め真理を探究していく態度・能力」を身につける授業科目である。						
授業計画						
回数	授業内容	授業方法	担当教員			
1	疫学の概念とその歴史	講義	今村			
2	疾病頻度の指標	講義	今村			
3	疫学的研究とその考え方	講義	今村			
4	(1) 観察研究 i 記述研究・生態学的研究・横断研究					
5	(2) 観察研究 ii コホート研究	講義	今村			
6	(3) 観察研究 iii 症例対照研究	講義	今村			
7	(4) 介入研究	講義	今村			
8	(5) 因果関係・バイアス・交絡	講義	今村			
9	スクリーニング	講義・演習	今村			
10	演習その1					
11	保健統計調査	講義	今村			
12	保健統計学 (統計学と疫学)	講義	今村			
13	主な疾患の疫学 (1) 慢性疾患、悪性新生物、生活習慣病の疫学	講義	今村			
14	主な疾患の疫学 (2) 感染症の疫学	講義	今村			
15	主な疾患の疫学 (3) 精神疾患の疫学	講義	朴			
16	保健統計と保健師業務の実際	講義	那須野			
17	演習その2	講義・演習	今村			
18	授業のまとめ					
授業時間外学修 (準備学習を含む) の具体的な内容及びそれに必要な時間						
この授業で扱う内容は、継続的な復習がもっとも大切です。予習は特に求めません (必要な場合は適宜指示します)。毎回の授業後、テキストで該当する章の練習問題を解いて、理解できていない箇所がないか確認してください。1回の授業について、2時間程度復習を行うこと。						

テキスト及び参考書、参考文献・参考URL等
テキスト：①浅野嘉延『看護学生のための疫学・保健統計（改訂3版）』南山堂 ②『国民衛生の動向』厚生労働統計協会 参考文献：牧本清子他『標準保健師講座別巻2 疫学・保健統計学』（第3版）』医学書院
成績評価の方法・基準
筆記試験（80%） 授業参加状況（20%）
課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
授業時に説明する。
担当教員からのメッセージ
疫学的研究の「楽しさ」と「必要性」について理解を深めてもらうための授業内課題をいくつか予定しています。 積極的に参加してください。
実務経験のある教員等による授業科目（実務経験と当該授業科目との関連）
該当なし

【専門教育科目】

授業科目名	授業科目コード	配当年次時期	履修方法	単位数 時間数	授業形態	開講曜日 時限
生活援助論Ⅱ（診療の補助技術）	403	2前	必	2単位 60時間	講義 演習	月3～5 火1
担当教員（○印＝科目責任教員）						
○宮原 香里	MIYAHARA, Kaori	k-miyahara@saku.ac.jp	(5号館2階209)			
武田 貴美子	TAKEDA, Kimiko	k-takeda@saku.ac.jp	(5号館3階310)			
内山 明子	UCHIYAMA, Akiko	a-uchiya@saku.ac.jp	(5号館2階208)			
二神 真理子	FUTAGAMI, Mariko	m-futagami@saku.ac.jp	(5号館2階210)			
柳澤 佳代	YANAGISAWA, Kayo	k-yanagisawa@saku.ac.jp	(5号館2階助手室)			
森本 彩	MORIMOTO, Aya	a-morimoto@saku.ac.jp	(5号館2階助手室)			
柴田 香菜子	SHIBATA, Kanako	k-shibata@saku.ac.jp	(5号館2階助手室)			
オフィスアワー／連絡先と連絡方法						
月曜日授業終了後～17時30分 質問は随時メールやmanabaでも受け付けます。オフィスアワー以外の面談はメールで予約をしてください。						
授業の概要						
健康課題を持つ人間の、生活援助に必要な基本的看護技術を取り上げ、安全や安楽に配慮しつつ科学的根拠に基づく看護技術を提供する意義と方法について学ぶ。 健康課題を持つ人間の診療の補助に必要な基本的技術として、感染予防・与薬に対する援助、経管栄養・導尿、浣腸等に関する援助について講義、演習を通して学ぶ。 様々な状況にある患者への生活援助法を検討し、対象の個別性や置かれている環境に応じて、適切に看護を実践する意義と方法について学ぶ。						
到達目標						
1. 健康課題を持つ人間の、診療の補助に必要な基本的技術として、感染予防・与薬に対する援助、経管栄養・導尿、浣腸、罨法、酸素療法、口腔鼻腔内吸引等に関する技術について、科学的根拠を理解することができる。 2. 上記1で取り上げる看護技術を、安全や安楽に配慮してシミュレータで実施できる。						
卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連						
本講義は、教育目標等から考える卒業時の姿の7つのうち「看護実践能力の基盤」となる科目である。						
授業計画						
回数	授業内容	授業方法	担当教員			
1	1. オリエンテーション、診療の補助とは 感染予防を推進する技術 滅菌・消毒、無菌操作、滅菌手袋の着け方・外し方、滅菌物の取り扱い	講義	宮原			
2	2. 皮膚・創傷を管理する技術 創傷の管理：創傷処置、包帯法 褥瘡の管理：褥瘡発生の予測と評価、褥瘡の分類	講義	二神			
3-4	3. 感染予防を推進する技術：滅菌手袋の着け方・外し方、滅菌物の取り扱い 皮膚・創傷を管理する技術：創傷処置、包帯法	演習	宮原／二神			
5	4. 与薬を安全かつ正確に行う技術（その1） 与薬における法的根拠、与薬のための基礎知識、与薬のための援助技術 注射のための援助技術：注射の準備、皮下注射、筋肉内注射	講義	宮原			
6-7	5. 与薬を安全かつ正確に行う技術（その1） 注射の準備、皮下注射、筋肉内注射	演習	宮原			
8	6. 検査・治療を安全かつ正確に行う技術 検査における看護師の役割、生体検査（生理学的検査）、検体検査	講義	宮原			
9-10	7. 検査・治療を安全かつ正確に行う技術 検体検査（静脈血採血）	演習	宮原			
11	8. 与薬・輸血を安全かつ正確に行う技術（その2） 注射のための援助技術：点滴静脈内注射 輸血のための援助技術、与薬における安全管理	講義	武田			

12-14	9. 与薬を安全かつ正確に行う技術 (その2) 点滴静脈内注射 (翼状針、サーフロー留置針)	演習	武田
15	10. 排泄を促す技術 排尿の援助：導尿 (一時的・持続的)	講義	宮原
16-18	11. 排泄を促す技術 導尿 (一時的・持続的)	演習	宮原
19	12. 呼吸を整える技術 呼吸の生理学的メカニズム、呼吸のニーズに関するアセスメント 呼吸を整える援助：吸入療法、酸素療法、口腔内・鼻腔内吸引	講義	二神
20-21	13. 呼吸を整える技術 吸入療法、酸素療法、口腔内・鼻腔内吸引	演習	二神
22	14. 苦痛の緩和、安楽確保の技術 罨法の実際：冷罨法、温罨法	講義	宮原
23	15. 上記授業内容の技術項目確認前課題	演習	宮原
24	16. 排泄を促す技術 排便の援助：浣腸、摘便	講義	二神
25-26	17. 排泄を促す技術 排便の援助：腰背部の温罨法、グリセリン浣腸	演習	二神
27	18. 食事・栄養摂取を促す技術 食事・栄養に関する援助の実際：経管栄養法 (経鼻胃カテーテル法、瘻管 栄養法)、非経腸栄養法 (中心静脈栄養法)	講義	内山
28-29	19. 食事・栄養摂取を促す技術 経管栄養法 (経鼻胃カテーテル法)	演習	内山
30	20. 上記授業内容の技術項目確認	実技試験	全員

授業時間外学修 (準備学習を含む) の具体的な内容及びそれに必要な時間

1. 授業に関連する内容は、毎回テキストや指定したオンラインツールを事前活用してください (30分程度)。
2. 事前に事例を提示する場合があります。その場合は、テキスト等を用いながら援助のイメージをつかみ、授業に臨んでください (60分程度)。
3. 本授業では、多くの医療用物品を使用します。実習室にある物品には高価なもの、操作を誤ると事故につながる恐れのあるものが含まれていますので、丁寧に、かつ確実な手順で取り扱うようにしてください。また、室外への持ち出しを禁じる物品もあります。詳細は、随時お伝えします。

テキスト及び参考書、参考文献・参考URL等

志自岐康子, 松尾ミヨ子, 習田明裕, 金壽子(2018). ナーシング・グラフィカ基礎看護学③基礎看護技術. メディカ出版.
医療情報科学研究所編 (2018). 看護がみえるvol.1 基礎看護技術. メディックメディア.
医療情報科学研究所編 (2018). 看護がみえるvol.2 臨床看護技術. メディックメディア.

成績評価の方法・基準

- 筆記試験 (40%) 定期試験で評価します。
- 実技試験 (40%) 技術の到達度を確認します。試験前にオリエンテーションを行います。
- 小テスト (10%) 授業出席者対象に授業内で7分程度の小テストを行います。
実施日と実施時間、テスト範囲は初回のオリエンテーションで伝えます。
- 授業参加状況 (10%) ふりかえりはデブリーフィングシート (manaba) を使用します。提出状況を評価します。

課題 (試験やレポート等) に対するフィードバックの方法

小テストはmanabaを使用します。実技試験の結果は担当教員からフィードバックをします。

担当教員からのメッセージ

実技試験は1回で合格できることを期待しています。再試験は1回までとします。
演習の際はユニフォームとナースシューズを着用し身だしなみを整えて基礎成人看護学実習室に集合してください。

実務経験のある教員等による授業科目 (実務経験と当該授業科目との関連)

該当なし

【専門教育科目】

授業科目名	授業科目コード	配当年次時期	履修方法	単位数 時間数	授業形態	開講曜日 時限
看護倫理学	407	2後	必	2単位 30時間	講義	火3,火4
担当教員（○印=科目責任教員）						
○ 八尋道子	YAHIRO, Michiko	m-yahiro@saku.ac.jp	研究室	5号館2階 R205		
宮原香里	MIYAHARA, Kaori	k-miyahara@saku.ac.jp	研究室	5号館2階 R209		
二神真理子	FUTAGAMI, Mariko	m-futagami@saku.ac.jp	研究室	5号館2階 R210		
オフィスアワー／連絡先と連絡方法						
○ 八尋道子 宮原香里 二神真理子 いずれも毎週火曜日 5 時限 *質問はメールやmanabaで随時お待ちしております。オフィスアワー以外の面談予約もメールで可能です。						
授業の概要						
この授業は、看護専門職に必要な倫理に関する基本的な知識と倫理的意思決定を行うための枠組みについて学びます。さらに、看護を実践する状況の中で自分の価値と他者の価値を吟味し、倫理的観点からその諸価値のもつ意味を考察することにより、倫理的能力の促進を目指します。はじめて臨地実習を体験している履修生のために、医療の現場に生じる倫理的課題について同時進行で学ぶことができるよう、多くの生きた事例を教材として使用します。						
到達目標						
修了時に、以下の5つの学修成果を得ることを目標とします。 1. 看護倫理の基礎知識および看護に関わる基本的な法律を学び、これらの知識が看護師になぜ必要かを述べることができる。(倫理的に「知ること」を学ぶ) 2. 倫理的感受性を高め、多くの生きた事例から看護実践における現代の倫理的課題を認識することができる。(倫理的に「見ること」を学ぶ) 3. 倫理的意思決定を行うための枠組みを理解し、倫理課題に直面したとき専門職としてどう対応するかを自分の問題として捉え、看護実践に活かしていく基本的な考え方を 4-steps Worksheet に記述することができる。(倫理的に「行うこと」を学ぶ) 4. よい看護とは何か、よい看護師とはどのような人かについて、自分自身の考えを言葉と行為で表現することができる。(倫理的に「あること」を学ぶ) 5. 他者の声に積極的に耳を傾け、継続的な対話の姿勢を持つことができる。(倫理的に「ふりかえること」を学ぶ)						
卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連						
専門職として必要な「看護実践能力の基盤」となる力を身につける授業科目であり、また「豊かな人間性と幅広い教養」「命の大切さを深く理解し、擁護する能力」にも関連します。						
授業計画						
回数	授業内容	授業方法	担当教員			
1	コースガイダンス：科目の概要と授業の進め方 倫理の基礎を学ぼう 自分の価値を知ろう 【ピーターのケース】	講義	八尋			
2	看護倫理の基礎知識 看護倫理の歴史を学ぼう 【ユニーヌのケース（タスキギー事件）】	講義	八尋			
3	看護にかかわる法的原則と倫理 看護職の責任 倫理と法 【保健師助産師看護師法】（小テスト①）	講義	八尋			
4	専門職の責務と倫理綱領1 インフォームドコンセントとアカウントビリティ 【ICN 看護師の倫理綱領】（小テスト②）	講義	二神			
5	倫理的ジレンマ 倫理的意思決定 【倫理原則】（小テスト③）	講義	宮原			
6	専門職の責務と倫理綱領2 個人情報保護 コンフィデンシャルティ 【嵐のケースと実習記録の取り扱い】	講義	宮原			
7・8	倫理的意思決定の枠組み 4-steps Worksheet 紹介 ケースの書き方 ナラティブ 【チーム学修：実習で遭遇したケースを描く①】（小テスト④）	講義・演習	八尋			
9・10	よい看護へのアプローチ1 【チーム学修：実習で遭遇したケースを描く②】 チーム学修するケースを選ぶ	演習	八尋・宮原			
11・12	よい看護へのアプローチ2 【チーム学修：実習のケースをふりかえる①】 プレゼンテーションと討論会	演習	宮原・二神			

13・14	よい看護へのアプローチ3 【チーム学修：実習のケースをふりかえる②】 プレゼンテーションと討論会	演習	宮原・二神
15	専門職の責務と倫理綱領3 アドボカシー アドバンス・ケア・プランニング 【曜一のケースとリスボン宣言】	講義・演習	二神
授業時間外学修（準備学習を含む）の具体的な内容及びそれに必要な時間			
<p>予習を重視します。指定された事前学修をすませて授業に臨んでください。テキストを読み、毎回 30 分程度の予習をしましょう。</p> <p>小テストについて 合計 4 回授業の最初に行います（小テスト①②③④）。おもにその日の授業内容について指定範囲から出題します。</p>		<p>復習： チーム学修の時間は授業外でも必要になります。メンバーとの時間調整もチームワークの実践の一つです。</p> <p>期末レポートについて 評価基準も含め第9回に説明します。レポートには授業以外で120分ほどの学修が必要です。</p>	
テキスト及び参考書、参考文献・参考URL等			
<p>テキスト</p> <p>1) 小西恵美子編 (2020). 看護倫理：よい看護・よい看護師への道しるべ, 改訂第3版. 南江堂. 2) 手島 恵監修 (2020). 看護者の基本的責務, 2020年版, 定義・概念/基本法/倫理. 日本看護協会出版会. その他、授業のたびに次の予習ができるよう授業資料を事前に配付します。 自己学修やチーム学修のためのURLや推薦図書を、第1回授業のコースガイダンスで紹介します。</p>			
成績評価の方法・基準			
<p>総合成績で上位のグレードが得られるように、下記の基準を参考にしてください。</p> <p>1. 筆記試験（小テスト4回 40%） 授業のなかで小テストを行い（小テスト①～④）、筆記試験の成績評価とします。（したがって、小テストの日に欠席すると1回につき-10%になります。）</p> <p>2. プレゼンテーションと討論会（20%） ケースに基づき、チーム学修を行い、チームで発表します。詳細は、第4回授業で説明します。発表（プレゼンテーション）時間は、10分を予定しています。</p> <p>3. 期末レポート（30%） 4-steps Worksheetを用いてケーススタディを行い個人レポートとして提出します。詳細は、第9回で通知します。</p> <p>4. 授業貢献（10%） 授業参加状況の客観的指標として、質問や意見交換の際の自発的な発言を評価します。</p>			
課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法			
<p>小テスト①②③④は、その日の授業内で結果がわかります。期末レポートの結果は、個別に問い合わせが可能です。プレゼンテーションでは、それぞれの発表に対して各チームと教員からの投票が得点化されます。</p>			
担当教員からのメッセージ			
<ul style="list-style-type: none"> この授業では間違った答えはありません。自由な対話の場所としての教室をみんなで作り上げてほしいです。 チーム学修では、チームの成果が最大化できるようなチームワークと協働に、ひとりひとりが努力されることを期待します。 メールや manaba で問い合わせると、次の授業までにフィードバックを受けることができます。 ただし、疑問や不明な点は履修生全員で共有すると有効ですので、なるべくその日の授業のなかで解決してもらえたらと思います。 			
実務経験のある教員等による授業科目（実務経験と当該授業科目との関連）			
該当なし			

【専門教育科目】

授業科目名	授業科目コード	配当年次時期	履修方法	単位数 時間数	授業形態	開講曜日 時限
感染看護論	408	2前	必	2単位 30時間	講義	金3～5
担当教員（○印＝科目責任教員）						
○坂木晴世（SAKAKI, Haruyo） 平松玉江（HIRAMATSU, Tamae） 和田孝子（WADA, Takako） 武田由美（TAKEDA, Yumi） 宮田貴紀（MIYATA, Takanori） 窪田志穂（KUBOTA, Shiho）						
オフィスアワー／連絡先と連絡方法						
授業内容の質問・相談は、原則各担当教員の授業終了後に対応します。						
授業の概要						
感染を予防するための看護活動ならびに病棟や病院における感染制御のあり方を学習する。国内外における感染症の変遷や現代の感染症の特徴を理解して、感染防止のための知識、技術、感染管理のための知識、技術を習得する。						
到達目標						
感染看護の基礎及び根拠に基づいた感染防止技術を理解し、臨床での看護実践の基盤とする。 1. 感染看護の基礎を理解できる。 2. 感染防止技術の基本を理解できる。 3. 根拠に基づいた感染防止技術による看護を理解できる。 4. さまざまな臨床場面における感染看護を理解できる。						
卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連						
「看護実践能力の基盤」となる授業科目である。						
授業計画						
回数	授業内容	授業方法	担当教員			
1	コースガイダンス 感染看護の基礎 1：感染症と感染制御における最近の動向	講義	坂木			
2	感染看護の基礎 2：感染症と倫理	〃	坂木			
3	感染看護の基礎 3：生態防御機構と感染／感染症のフィジカルアセスメント	〃	武田			
4	感染看護の基礎 4：感染症における薬物療法：抗菌薬の適正使用	〃	武田			
5	感染防止技術の基本 1：標準予防策	演習	宮田・窪田			
6	感染防止技術の基本 2：感染経路別予防策	〃	宮田・窪田			
7	感染防止技術の基本 3：職業感染対策	〃	窪田・(宮田)			
8	感染防止技術の基本 4：洗浄・消毒・滅菌	講義	平松			
9	感染防止技術の基本 5：ファシリティマネジメント	〃	〃			
10	感染防止技術 1：尿道カテーテルと尿路感染 感染防止技術 2：血管内留置カテーテルと血流感染	〃	宮田			
11	感染防止技術 3：人工呼吸器と肺炎 感染防止技術 4：周手術期と手術部位感染	〃	宮田			
12	感染看護の実際 1：地域における感染対策	〃	和田			
13	感染看護の実際 2：易感染者（高齢者・化学療法・移植など）の感染予防	〃	〃			
14	感染看護の実際 3：救急・集中ケア	〃	武田			
15	感染看護の実際 4：感染症のチーム医療における看護師の役割	〃	〃			

授業時間外学修（準備学習を含む）の具体的な内容及びそれに必要な時間
講義資料を基に必ず復習しておくこと。 なお、1回の授業について、2時間程度復習を行うこと。
テキスト及び参考書、参考文献・参考URL等
テキスト：指定しない 参考文献：適宜紹介する
成績評価の方法・基準
筆記試験（70%） 授業参加状況（30%）
課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
授業時に説明する。
担当教員からのメッセージ
演習時は実習着着用の上、身だしなみを整えて臨んでください。
実務経験のある教員等による授業科目（実務経験と当該授業科目との関連）
感染症看護専門看護師として勤務経験がある教員が、その実務経験を活かした授業を行います。（全教員）

【専門教育科目】

授業科目名	授業科目コード	配当年次時期	履修方法	単位数 時間数	授業形態	開講曜日 時限
フィジカルアセスメント	409	2前	必	1単位 30時間	演習	水1, 水2
担当教員（○印＝科目責任教員）						
○武田貴美子 (TAKEDA, Kimiko) k-takeda●saku.ac.jp 研究室：5号館3階310						
川野道宏 (KAWANO, Michihiro) m-kawano●saku.ac.jp 研究室：5号館3階303						
柳澤佳代 (YANAGISAWA, Kayo) k-yanagisawa●saku.ac.jp 研究室：5号館2階助手室						
森本 彩 (MORIMOTO, Aya) a-morimoto●saku.ac.jp 研究室：5号館2階助手室						
井手段幸樹 (ITADEN, Kouki) k-itedan●saku.ac.jp 研究室：1号館3階1312						
オフィスアワー／連絡先と連絡方法						
授業日の授業終了後から放課後まで。また、随時メールで質問に対応します。						
授業の概要						
インタビュー、視診、触診、打診、聴診を用いて対象の健康状態（病状）を把握する方法を理解し、看護における患者観察の方法、正常・異常の判別の仕方などを、具体的な演習によって習得する。 患者観察におけるフィジカルアセスメントの重要性、基礎的知識・技術について理解する。						
到達目標						
1. フィジカルアセスメントの意義と目的を理解し、説明できる。 2. 看護実践のためのフィジカルアセスメントの必要性を理解し、説明できる。 3. フィジカルアセスメントの基本技術（バイタルサインの測定、問診、視診、触診、打診）を理解し実施できる。						
卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連						
本講義は、本学の卒業認定・学位授与の方針において、看護実践能力の基盤となる科目である。						
授業計画						
回数	授業内容	授業方法	担当教員			
1	オリエンテーション（科目の到達目標・授業内容・学習方法等について） 看護におけるフィジカルアセスメントの概要について学ぶ	講義	武田			
2	バイタルサインについて学ぶ	講義	武田			
3	バイタルサイン測定について演習を通して学ぶ	演習	武田・全員			
4	バイタルサイン測定について演習を通して学ぶ	演習	武田・全員			
5	胸部（呼吸器系）のフィジカルアセスメントについて学ぶ	演習	武田			
6	胸部（呼吸器系）のフィジカルアセスメントについて演習を通して学ぶ	講義	武田・全員			
7	胸部（循環器系）のフィジカルアセスメントについて学ぶ	演習	武田			
8	腹部（消化器系・泌尿器・生殖器）のフィジカルアセスメントについて学ぶ	講義	武田			
9	胸部（循環器系）/腹部（消化器系）のフィジカルアセスメントについて演習を通して学ぶ	演習	武田・全員			
10	運動器系のフィジカルアセスメントについて学ぶ	講義	武田			
11	運動器系のフィジカルアセスメントについて演習を通して学ぶ	演習	武田・全員			
12	頭頸部・神経系・感覚器系のフィジカルアセスメントについて学ぶ	講義	川野			
13	外表皮系（皮膚）・リンパ系のフィジカルアセスメントについて学ぶ	講義	川野			
14	総合演習 事例からフィジカルアセスメントを学習する①	演習	武田・全員			
15	総合演習 事例からフィジカルアセスメントを学習する②	演習	武田・全員			
授業時間外学修（準備学習を含む）の具体的な内容及びそれに必要な時間						
・授業の関連内容について指定図書やオンラインツールで事前学習を必ず行ってください。（30分程度） ・授業内容に関連した事前課題に取り組んだうえで講義・演習に参加してください。（30分程度） ・講義・演習で修得した知識・技術が活用できるように事後課題に取り組んでください。（30分程度） ・形態機能学Ⅰ・Ⅱで修得した知識が必要になります。随時、復習を行ってください。						
テキスト及び参考書、参考文献・参考URL等						
【テキスト】 医療情報科学研究所編(2019), 看護がみえるvol.3 フィジカルアセスメント. メディックメディア						
【参考図書】 菱沼典子(2017), 看護形態機能学 生活行動からみるからだ 第4版. 日本看護協会出版会						
Bickley, L. S. (2015). ベイツ診察法第2版. 福井次矢ほか監修. メディカル・サイエンス・インターナショナル						

成績評価の方法・基準
筆記試験（70%） 実技試験（30%）
課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
<ul style="list-style-type: none">・事前課題は授業中に活用します。・事後課題はコメントを記載して返却します。・技術チェック（実技試験）の結果は返却します。
担当教員からのメッセージ
対象の身体は今のどのような状態にあるのか、今後どのように変化するのか、についてアセスメントすることは看護ケアを展開するうえでとても重要です。さまざまな手技を用いて対象の身体状態をアセスメントするための知識・技術を修得していきましょう。
実務経験のある教員等による授業科目（実務経験と当該授業科目との関連）
該当なし

【専門教育科目】

授業科目名	授業科目コード	配当年次時期	履修方法	単位数 時間数	授業形態	開講曜日 時限
リハビリテーション看護論	411	2後	必	1単位 30時間	講義	金3, 金4
担当教員（○印＝科目責任教員）						
○太田浩和（OHTA, Hirokazu） 丸山陽一（MARUYAMA, Youichi） 滝澤貴恵（TAKIZAWA, Takae）						
オフィスアワー／連絡先と連絡方法						
授業終了後に教室で質問を受け付ける。						
授業の概要						
リハビリテーションの概念と体系、リハビリテーションの必要な対象と実施状況について学んだ上で、看護上必要なリハビリテーションのためのアセスメント、ADL訓練などについて学習する。						
到達目標						
<ol style="list-style-type: none"> 1. リハビリテーション看護の考え方を理解する。 2. リハビリテーションを必要とする人の特徴を理解し、看護援助を考えることができる。 3. 現場におけるチームアプローチ及び看護師の役割を理解する。 4. 演習を通し、ボディメカニクスを考慮したADL訓練の実際を学ぶ。 						
卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連						
「看護実践能力の基盤」となる授業科目である						
授業計画						
回数	授業内容	授業方法	担当教員			
1	リハビリテーションの定義と目的	講義	丸山			
2	障害者の定義、変遷・リハビリテーションを必要とする対象者の特徴と理解	〃	丸山			
3	経過別リハビリテーションの考え方	〃	太田			
4	リハビリテーションを必要とする方への看護援助 パート1	〃	太田			
5	リハビリテーションを必要とする方への看護援助 パート2	〃	太田			
6	機能障害別リハビリテーション看護 パート1	〃	滝澤			
7	機能障害別リハビリテーション看護 パート2	〃	滝澤			
8	リハビリテーション看護の実際 パート1（演習）	演習	太田・丸山			
9	リハビリテーション看護の実際 パート2（演習）	〃	太田・丸山			
10	機能障害別リハビリテーション看護 パート3	講義	太田			
11	リハビリテーション医療におけるチーム活動と看護の役割	〃	太田			
12	福祉制度と社会資源について	〃	太田			
13	機能障害別リハビリテーション看護 パート4（演習）	演習	太田・丸山			
14	機能障害別リハビリテーション看護 パート5（演習）	〃	太田・丸山			
15	リハビリテーションの専門職 看護における事例紹介	講義	太田			
授業時間外学修（準備学習を含む）の具体的な内容及びそれに必要な時間						
テキスト、講義資料を用いて学習したことを整理し、必ず復習しておくこと。 1回の授業について、2時間程度復習を行うこと。 講義終了時に次回実施する講義内容を指示するので、テキストを用いた事前学習を1時間程度行うこと。						

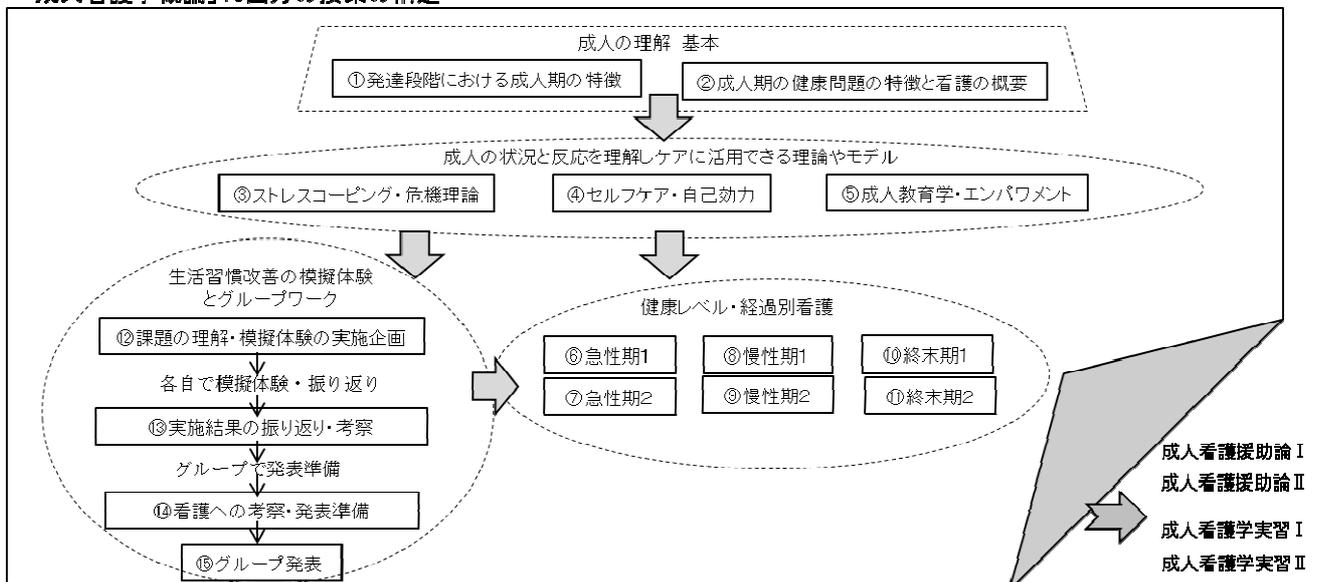
テキスト及び参考書、参考文献・参考URL等
テキスト：中西純子・石川ふみよ編『リハビリテーション看護論』ヌーヴェルヒロカワ 参考書：落合芙美子監修・栗生田友子編『リハビリテーション看護』第2版 メヂカルフレンド社 武田宣子 他著『リハビリテーション看護』第6版 南江堂
成績評価の方法・基準
筆記試験（80%） 授業参加状況（20%）
課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
授業時に説明する。
担当教員からのメッセージ
演習の際は実習着を着用の上、基礎看護実習室へ集合すること。
実務経験のある教員等による授業科目（実務経験と当該授業科目との関連）
脳卒中リハビリテーション看護認定看護師として勤務経験がある教員が、その実務経験を活かした授業を行います。 （太田浩和）

【専門教育科目】

授業科目名	授業科目コード	配当年次時期	履修方法	単位数 時間数	授業形態	開講曜日 時限
成人看護学概論	501	2前	必	2単位 30時間	講義	木2
担当教員（○印＝科目責任教員）						
○水野照美 MIZUNO, Terumi、松下由美子 MATSUSHITA, Yumiko、吉岡恵 YOSHIOKA, Megumi、 喜多村定子 KITAMURA, Sadako、阿藤幸子 ATO, Sachiko、塩入とも子 SHIOIRI, Tomoko、櫻井真智子 SAKURAI Machiko						
オフィスアワー／連絡先と連絡方法						
講義の後、教室で質問を受けます / 別途面談希望の場合は、対面またはメールで日程調整をします。 水野（5号館2階203）：t-mizuno、松下：y-matsushita（5号館3階教員室）、吉岡（5号館2階210）：m-yoshioka、 喜多村（1号館1106）：s-kitamura、阿藤（5号館2階209）：s-ato、 塩入（5号館2階助手室）t-shioiri、櫻井（真）（5号館2階助手室）：m-sakurai メールアドレスは、上記の後ろに、●saku.ac.jp						
授業の概要						
成人期にある対象の身体・精神・社会的な健康上の特徴を理解し、対象の成長・発達を促す成人看護の中心概念とその理論について学ぶ。また、成人期にある人々の主要な健康上の諸問題を学び、援助のあり方、健康的な生活習慣の理解など成人に対する看護活動の基本について学ぶ。						
到達目標						
1. 成人の発達段階における特徴および健康問題の特徴を説明できるようになる 2. 成人の健康レベル（急性期、慢性期、終末期）の特徴と必要な看護の概要を説明できるようになる 3. 成人の健康上の問題解決に活用できる理論やモデルの概要がわかる 4. 模擬体験とグループワークを通して、健康障害による生活調整が必要な成人の体験と反応を説明でき、看護について考察できる						
卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連						
この科目は、「専門教育科目」の「看護の展開」のなかでも2年次前期に配置され、最も早く始まる科目です。「成人看護学」という幅広い（講義科目も実習科目も複数あり、単位数が多い）領域の基盤となる科目です。 カリキュラムマップでは、「Ⅳ 看護実践能力の基盤」の項にあり、各領域の概論のなかでスタートとも言える配置になっています。この科目は、「成人看護…」という名称の複数科目の基盤であるという関係から、「Ⅴ 多様な健康のレベルと個別性に対応できる看護実践能力」の項にも重要なかわりを持ちます。						
授業計画						
回数	授業内容	授業方法	担当教員			
1	オリエンテーション、発達段階における成人期の特徴	講義	水野			
2	成人期の健康問題の特徴と看護の概要	講義	松下			
3	成人の状況と反応を理解しケアに活用できる理論やモデル1. ストレスコーピング、危機理論	講義	水野			
4	成人の状況と反応を理解しケアに活用できる理論やモデル2. セルフケア、自己効力	講義	水野			
5	成人の状況と反応を理解しケアに活用できる理論やモデル3. 成人教育学、エンパワメント	講義	水野			
6	急性期1：健康状態が急激に変化する／した成人とその家族の状況と看護	講義	水野			
7	急性期2：健康状態が急激に変化する／した成人とその家族の状況と看護	講義	水野			
8	慢性期1：健康状態の変化に伴う生活の調整を必要とする成人とその家族の状況と看護	講義	松下			
9	慢性期2：健康状態の変化に伴う生活の調整を必要とする成人とその家族の状況と看護	講義	吉岡			
10	終末期1：健康状態の維持回復が困難な成人とその家族の状況と看護	講義	水野			
11	終末期2：健康状態の維持回復が困難な成人とその家族の状況と看護	講義	特別講師			
12	グループワーク1 進捗状況面接「課題の理解・模擬体験の実施企画」	演習	成人教員			
13	グループワーク2 進捗状況面接「模擬体験の実施結果の振り返り・考察」	演習	成人教員			
14	グループワーク3 進捗状況面接「看護への考察・発表準備」	演習	成人教員			
15	グループワーク発表	演習	成人教員			
15回の授業の構造は、右ページの図へ						

<p>授業時間外学修（準備学習を含む）の具体的な内容及びそれに必要な時間</p> <p>看護の科目の学習は、単に暗記ではなくて、既習の科目とのつながりをつけて理解し、将来は実際に活用する覚悟をもつ必要があります。たとえば実習において、患者さんや看護師さんに根拠や理由を伝えられなければ、学生の皆さんへの理解や信頼は得られません。このため、選択式で正答したとしても、根拠や理由を自分の言葉で説明できるように意識して取り組みましょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・予習・復習：テキストの当該範囲、紹介された参考文献に目を通す（1時間×15回＝15時間） ・小テスト：テスト前は出題範囲を復習し、テスト後は理解度を確認する（2時間×5回＝10時間） ・模擬体験前：事前に、既習科目（「健康障害と治療」「食と健康」）・高校までの「家庭科」等を振り返る。サブテキスト「なにをどれだけ食べたらいいの？」や、生活習慣・食事に関する図書や資料を確認する（5時間） ・模擬体験：1週間継続。実施した内容を記録し、「大人の健康」について考察する。サブテキスト参照。（10時間） ・グループ発表準備：資料を作成する。グループメンバーで協議する。提出資料は、グループ担当教員の指導を受けて、許可を得るまで加筆修正をする。プレゼンテーションの準備と練習をする（10時間） ・レポート作成：構成を検討する。一度論述する。読み直してわかりにくい部分を書き直す×2回。（10時間）
<p>テキスト及び参考書、参考文献・参考URL等</p> <p>テキスト：小松浩子（2018）. 系統看護学講座 成人看護学総論. 医学書院 香川芳子（2016）. なにをどれだけ食べたらいいの？第3版. 女子栄養大学出版社 参考文献：授業内で紹介</p>
<p>成績評価の方法・基準</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 筆記試験（60%） ■ その他（小テスト20%） ■ レポート（15%） ■ 授業参加状況（グループワーク5%） <p>到達目標 1, 2, 3 について確認 到達目標 3, 4 について確認</p>
<p>課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小テストは終了後すぐに解答を公開します。解説が必要な場合は、専任教員の担当時間内に行います。 ・小テストの達成度が十分でない場合は、やり直しのレポート課題を課すことがあります。 ・レポートは、コメントをつけて返却します。 ・定期試験の結果についての問い合わせに応じますが、原則開示はしません。
<p>担当教員からのメッセージ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・講義とグループワークを組み合わせるため、学習の順序と日程は初回授業にて説明します。 ・成人看護学は、看護学実習や国家試験準備の基盤となる領域です。この「概論」では、成人看護学へのイントロダクションとして、食生活の模擬体験や視聴覚教材等の身近な題材をきっかけにして、「成人（おとな）の暮らし」と健康とのつながりを考えましょう。
<p>実務経験のある教員等による授業科目（実務経験と当該授業科目との関連）</p> <p>該当なし</p>

「成人看護学概論」15回分の授業の構造 四角で囲まれているのは1コマの授業 ○付き数字は、左ページの授業回数に対応



【専門教育科目】

授業科目名	授業科目コード	配当年次時期	履修方法	単位数 時間数	授業形態	開講曜日 時限
成人看護援助論Ⅰ（急性期）	502	2後	必	2単位 60時間	講義 演習	水4, 水5
担当教員（○印＝科目責任教員）						
○喜多村定子 KITAMURA, Sadako	s-kitamura	●saku.ac.jp	研究室	1号館1階（1106）		
水野照美 MIZUNO, Terumi	t-mizuno	●saku.ac.jp	研究室	5号館2階（203）		
吉岡 恵 YOSIOKA, Megumi	m-yoshioka	●saku.ac.jp	研究室	5号館2階（202）		
阿藤幸子 ATO, Sachiko	s-ato	●saku.ac.jp	研究室	5号館2階（209）		
塩入とも子 SHIOIRI, Tomoko	t-shioiri	●saku.ac.jp	研究室	5号館2階（助手室）		
櫻井真智子 SAKURAI, Machiko	m-sakurai	●saku.ac.jp	研究室	5号館2階（助手室）		
オフィスアワー／連絡先と連絡方法						
喜多村定子、水野照美 いずれも授業日の12:10～12:50（講義室または研究室） メールにて質問ならびに面談の予約は常時受け付けます。						
授業の概要						
成人期における主要な疾病の病態や症状、徴候、経過、侵襲的治療や検査等を理解し、看護過程を展開するために必要な知識や技術について学習する。対象とその家族に対する生命の維持・回復に向けた看護の基礎的知識と看護援助方法について学習するとともに、健康増進対策など保健活動についても学ぶ。						
到達目標						
1. 侵襲的治療（主に手術侵襲）による身体機能の変化についてのメカニズム、生命や生活に及ぼす影響や心理社会的反応を考え、理解し説明できるようになる。 2. 手術を受ける対象の生命の維持、回復の促進、健康的な日常生活への移行のために必要な具体的な看護についての考えを、その対象の家族も視野に入れて示すことができるようになる。 3. 身体機能に急激な変化が起こった急性期の成人の生命と生活を支えるための看護について考えることができる。						
卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連						
「生命の大切さを深く理解し、擁護する能力」「看護実践能力の基盤」での学びをベースにして、「多様な健康レベルと個性性に対応できる看護実践能力」を養い、実習や将来の看護実践につなげるための授業です。						
授業計画						
回数	授業内容	授業方法	担当教員			
1	授業ガイダンス 侵襲の大きい治療（概要・周手術期にある患者の看護）	講義	喜多村			
2	侵襲の大きい治療（麻酔について）	講義	喜多村			
3	侵襲の大きい治療（周手術過程に応じた看護 術前）	講義	喜多村			
4	侵襲の大きい治療（周手術過程に応じた看護 術中）	講義	特別講師			
5	侵襲の大きい治療（周手術過程に応じた看護 術後）	講義	喜多村			
6-8	手術侵襲と生体反応 ・小テスト①	講義	喜多村			
9	侵襲の大きい治療（化学療法 放射線治療を受ける患者の看護）	講義	水野			
10	循環機能障害のある患者の看護Ⅰ	講義	特別講師			
11	循環機能障害のある患者の看護Ⅱ	講義	喜多村			
12	呼吸機能障害のある患者の看護Ⅰ	講義	特別講師			
13-14	グループワーク 1. 2	演習	喜多村			
15	呼吸機能障害のある患者の看護Ⅱ	講義	塩入			
16	グループワーク 3	演習	喜多村			
17	消化機能障害のある患者の看護 ・小テスト②	講義	水野			
18	グループワーク 4	演習	喜多村			
19	救急救命処置が必要な対象とその家族への看護Ⅰ	講義	特別講師			
20	救急救命処置が必要な対象とその家族への看護Ⅱ	講義	喜多村			
21-22	演習（BLS）＋グループワーク 5	演習	成人教員			
23	脳神経機能障害のある患者の看護 ・小テスト③	講義	水野			
24	グループワーク 6	演習	喜多村			
25	女性生殖機能障害のある患者の看護	講義	水野			
26	運動機能障害のある患者の看護	講義	櫻井			
27	生体防御機能障害、感覚機能障害のある患者の看護 ・小テスト④	講義	水野			
28	グループワーク 7	演習	喜多村			
29-30	グループワーク発表及び講評	演習	喜多村			

<p>授業時間外学修（準備学習を含む）の具体的な内容及びそれに必要な時間</p> <p>授業時間内のみで講義内容を理解するのは難しいです。毎回の講義内容に関する既習科目（「形態機能学」「感染・免疫学」「病態生理学」「健康障害と治療」「薬理薬剤学」など）で習得内容について必ず予習・復習をしてください。さらに、既習科目で学んだことを看護実践で生かせる知識にするためには、「調べる・覚える」レベルから「理解して自分の言葉で説明できる」レベルにすることが必要です。例えば、疾患ごとに出現する症状や徴候などについて、「なぜそのような症状が出現するのか」まで考え、理解していくための学習方法を工夫してください。またグループワークは全て授業時間内で行いますが、個人の学習につなげていくようにしてください。</p>
<p>テキスト及び参考書、参考文献・参考URL等</p> <p>テキスト：雄西智恵美・秋元典子（2015）. 周手術期看護論 第3版. ヌーヴェルヒロカワ 鎌倉やよい・深田順子（2008）. 周術期の臨床判断を磨く. 医学書院 参考図書：「健康障害と治療」で用いた「病気が見える」 他、授業の中で紹介します。</p>
<p>成績評価の方法・基準</p> <p>1. 定期試験：70% 2. 小テスト（4回）：20% 3. 課題レポート：10% グループワークで取り組む課題とリンクしたものを、個人で行う時間外学修として提示をします。それを「課題レポート」とみなし、授業最終日に提出してもらいます。 ※グループワークには個人で取り組んだものを持ち寄り、お互いの考えを出し合った上でグループとしての見解を導き出すこと、個人ワークの内容がグループワークの成果物に反映されることが必要です。さらに、グループワークの内容や解説内容を個人ワークに反映させて、自分なりの学修のプロセスや成果を、可視化することが望ましいです。</p>
<p>課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法</p> <ul style="list-style-type: none"> 定期試験の結果についての問い合わせには応じますが、原則試験問題の開示はしません。 基本的に小テストは正解/不正解だけでなく、問われた内容の理解度を深めるためのツールの1つとして活用して下さい。解答について授業中に詳しい解説はしませんが、授業資料と既習科目をつなげることで理解できる内容です。 グループワークで取り組んだ課題内容に関しては、授業内でフィードバックします。
<p>担当教員からのメッセージ</p> <ul style="list-style-type: none"> 3年次の領域別実習、国家試験、将来の臨床実践等に大きく関わる科目です。 急性期にある患者が日常生活に戻れるように看護を展開するためには、専門教育科目で学んだ「成人看護学概論」、専門基礎科目の「形態機能学」「感染・免疫」「病態生理学」「健康障害と治療」「薬理薬剤学」等の知識の統合が必須です。 主体的に学ぶ姿勢を持ち予習・復習を心がけて、丁寧に学習を積み重ねてください。 講義とグループワークを組み合わせて進めていくため、学習の順序と日程については初回の授業にて説明します。
<p>実務経験のある教員等による授業科目（実務経験と当該授業科目との関連）</p> <p>該当なし</p>

【専門教育科目】

授業科目名	授業科目コード	配当年次時期	履修方法	単位数 時間数	授業形態	開講曜日 時限
老年看護学概論	511	2後	必	2単位 30時間	講義	水1, 水2
担当教員（○印＝科目責任教員）						
○安川揚子 YASUKAWA, Yoko 5号館302 小野美香子 ONO, Mikako 1号館311						
オフィスアワー／連絡先と連絡方法						
授業日の12:10-12:50、17:00-17:50 他の時間も歓迎します。事前にメール等で確認ください。 y-yasukawa●saku.ac.jp m-ono●saku.ac.jp						
授業の概要						
老年期における生理的、心理的、心理精神的、社会的特徴を理解し、健康と生活との関連を理解する。加齢による健康上の変化、援助の必要性、社会的役割の変化について理解を深める。様々な健康レベルにおける看護援助のあり方を理解し、老年期にある対象の援助方法を学ぶ。						
到達目標						
1. 老年期を生きる高齢者の生活史を知る意味を説明できる。 2. 高齢者の身体的・心理精神的・社会的特徴を説明できる。 3. 高齢社会における人口、受療に関する保健統計の特徴、ならびに主な社会保障制度を説明できる。 4. 高齢者の権利擁護を説明できる。 5. 高齢者のヘルスプロモーションについて説明できる。 6. 高齢者に対する看護の役割を説明できる。						
卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連						
「看護実践能力の基盤」に位置付けられていますが、本科目は自分と異なる文化や生活背景を持つ人々の理解、健康レベルに関わらずヒトの加齢変化を学ぶことなどが含まれており、「豊かな人間性と幅広い教養」「命の大切さを深く理解し、養護する能力」の涵養にも関連します。						
授業計画						
回数	授業内容	授業方法	担当教員			
1	老年期を生きるとは 高齢者が歩んできた人生の背景となる文化や生活を知る。 高齢者のライフヒストリーを知る方法とその意味を学ぶ。	講義	安川			
2	老年看護学の歩みと未来 人口の高齢化に伴う社会の変化に伴う高齢者の保健医療福祉制度の変遷、老年看護学の誕生とその歩み、また未来について学ぶ。	講義	安川			
3	高齢者の理解：高齢者の身体的特徴 加齢と老化、特に身体機能の加齢変化について学ぶ。	講義	安川			
4	高齢者の理解：高齢者の心理精神的・社会的特徴 老いの自覚、喪失体験などをきっかけとする高齢者の心理、認知機能の加齢変化、および高齢者の就労、社会参加について学ぶ。	講義	安川			
5	高齢者のヘルスプロモーション 高齢者にとっての健康増進の意味を知り、支援方法を学ぶ。	講義	安川			
6	高齢者をとりまく社会：高齢者を支える制度 介護保険制度、社会資源、地域包括ケアについて学ぶ。	講義	安川			

7	高齢者をとりまく社会：高齢者の生活と家族 高齢者をとりまく家族、高齢者虐待について学ぶ。	講義	安川
8	高齢者看護の基本：高齢者のアセスメント・バイタルサインの特性 バイタルサインに現れる加齢変化や生活機能のアセスメント方法について学ぶ。	講義	安川
9	高齢者看護の基本：高齢者の権利擁護 エイジズム、高齢者虐待、身体拘束、高齢者虐待防止法、成年後見制度について学ぶ。	講義	安川
10	高齢者とのコミュニケーション コミュニケーションを促す要素と阻害要因、コミュニケーション技術について学ぶ。	講義	安川
11	高齢者と犯罪 統計から高齢者と犯罪の関連について学ぶ。	講義	小野
12	高齢者のセクシュアリティ 性に関する課題とケアについて学ぶ。	講義	小野
13	世界の高齢者とその看護 多様な文化、生活背景をもつ高齢者の健康や生活などについて学ぶ。	講義	安川
14	人生の最終段階にある高齢者の看護：エンド・オブ・ライフケア 老年期の終末期看護の考え方、高齢者が生を全うすることを支えるということについて考える。	講義	安川
15	倫理的な課題 倫理的ジレンマを生じやすい事例について意見交換する。	演習	安川 小野
授業時間外学修（準備学習を含む）の具体的な内容及びそれに必要な時間			
予習：テキストの関連箇所を精読し、各講義前に提示する事前課題に取り組む。 復習：授業内の資料や、テキストの関連箇所を精読し、ノートにまとめ整理する。不明な点はその都度確認する。			
テキスト及び参考書、参考文献・参考URL等			
テキスト：堀内ふき他編著『高齢者の健康と障害』第5版 メディカ出版 2016 堀内ふき他編著『高齢者看護の実践』第4版 メディカ出版 2016 参考文献：日本福祉文化学会 監修：現代日本の高齢者生活年表 1970-2007、日本エディタースクール出版部、2008			
成績評価の方法・基準			
筆記試験、レポート、授業への参加状況により総合的に評価する。 ・筆記試験（70%） ・レポート・授業への参加状況、事前課題の取り組み状況（30%）			
課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法			
・筆記試験の結果は、希望者に対して面接し説明します。 ・各講義前に取り組んだ事前課題について講義中にフィードバックします。			
担当教員からのメッセージ			
「生活者」である高齢者の発達の側面に着目し、想像力を発揮して、高齢者に対するイメージを豊かにしていきましょう。高齢者を取り巻く社会状況の変化に関心を向けましょう。			
実務経験のある教員等による授業科目（実務経験と当該授業科目との関連）			
該当なし			

【専門教育科目】

授業科目名	授業科目コード	配当年次時期	履修方法	単位数 時間数	授業形態	開講曜日 時限
精神看護学概論	521	2後	必	2単位 30時間	講義	火2
担当教員（○印＝科目責任教員）						
○坂江千寿子	SAKAE, Chizuko	chi-sakae●saku.ac.jp	研究室	5号館3階309		
柿澤美奈子	KAKIZAWA, Minako	m-kakizawa●saku.ac.jp	研究室	5号館2階207		
井手段幸樹	ITEDAN, Kouki	k-itedan●saku.ac.jp	研究室	1号館3階1312		
篠崎一栄	SHINOZAKI, Kazue	k-shinozaki●saku.ac.jp	研究室	5号館2階助手室		
オフィスアワー／連絡先と連絡方法						
原則、授業日の午後（13:00-15:00）。質問は、メールでもよい（常時）。連絡先は上記参照。 オフィスアワー以外の面談の予約はメールで可能である。						
授業の概要						
精神的健康の保持増進及び精神的疾病の予防に関する因子を理解し、心の働きとメカニズムを知り、行動に示される心の表れを理解する。精神疾患患者の看護の多様な役割について理解する。また、精神に障害のある方の人権や福祉、地域での生活のあり方等について、家族支援を含めて理解を深める。						
到達目標						
<ol style="list-style-type: none"> 1. 乳幼児から高齢者までの生涯にわたるこころの発達過程、心を理解するための諸理論を説明できる。 2. 精神保健看護の理念、現代における社会現象や、社会的問題を精神看護の視点から理解できる。 3. 対象者- 医療者との治療的関係の成立のために必要とされる、自己を活用したコミュニケーション方法を理解し活用できる。 4. あらゆる人々の心の健康、ストレス、危機のメカニズムを基に、セルフマネジメントについて理解できる。 5. 精神障がい者を取りまく環境及び歴史の変遷を学び、精神障がい者の立場を多角的な視点から検討できる。 6. あらゆる疾患患者の治療過程に関与する精神看護の役割と専門性を理解できる。 						
卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連						
「豊かな人間性と幅広い教養」「命の大切さを深く理解し、養護する能力」、「看護実践能力の基盤」として必要な能力を培う科目である。3年次以降の「多様な健康レベルと個性に対応できる看護実践能力」、「様々な領域の専門家と連携し協働できる能力」に発展していく。						
授業計画						
回数	授業内容	授業方法	担当教員			
1	精神の健康を保持増進するための看護を学ぶ こころの健康とは何か、精神看護の対象と目的、現代の精神疾患の位置づけと医療体制について説明できる。	講義	坂江			
2	精神看護における対人コミュニケーションの重要性と方法を学ぶ コミュニケーションの重要性、コミュニケーションの種類、看護におけるカウンセリングの活用、主要な技法について説明できる。	講義・演習	坂江			
3	ライフサイクルに応じた人間の精神的な発達過程を学ぶ① フロイトの精神分析学を基に、心の構造仮説、防衛機制/適応機制を説明できる。 これまでの経験の一つを防衛機制的視点からふりかえり、説明できる。	講義	坂江			
4	ライフサイクルに応じた人間の精神的な発達過程を学ぶ② ピアジェ、マラー、スターン、エリクソン、マズローの理論を基にして、 乳幼児期から成人期までの人間の発達を説明できる。	講義	坂江			
5	ライフサイクルに応じた人間の精神的な発達過程を学ぶ③ ピアジェの理論を基にして、幼児期から思春期までの人間の発達を説明できる。 発達障害の種類、児童の特徴、関わり方のポイントを説明できる。	講義	坂江			
6	ライフサイクルに応じた人間の精神的な発達過程を学ぶ④ 青年期から老年期の発達の特徴、精神的な危機の種類、依存症等を説明できる。	講義	坂江			
7	現代社会におけるメンタルヘルスの重要性を学ぶ 新聞記事を用いて、現代社会の出来事を、精神看護の視点から説明できる。 記事の現象の一つを取り上げて検討し、グループで、メンタルヘルスの課題改善のために提案できる（グループワーク）。	講義・演習	坂江他			
8	こころの健康を保つための理論と技術を学ぶ① こころの危機状態とは、危機の種類と過程、介入方法について説明できる。	講義	坂江			
9	こころの健康を保つための理論と技術を学ぶ② 精神と身体との密接な関係、精神看護の機能と役割を学ぶ 心身相関に関する理論、こころの働きをセルフチェックする方法が説明できる。	講義	坂江			

10	こころの健康を保つための理論と技術を学ぶ③ 心の健康と運動の関係を理解し、自律訓練法などセルフケア方法を説明できる。 運動や心身のトレーニングの観点から、認知症予防について説明できる。	講義	井手段
11	こころの健康を保つための理論と技術を学ぶ④ ストレスとは、ストレスコーピング、セルフコントロールの方法を説明できる。	講義	坂江
12	こころの健康を保つための理論と技術を学ぶ⑤ セルフコントロールの方法、自己の振り返りとしてのリフレクションについて説明できる。	講義	坂江
13	精神医療福祉の現状と課題を学ぶ 諸外国（欧米）と日本の精神医療・看護の歴史の変遷を比較し、日本の精神看護における課題が説明できる。	講義	柿澤
14	精神保健福祉法と看護者の役割について学ぶ 精神障がい者に関わる法律、精神保健福祉法を理解し、障害者の回復プロセス、患者の権利を擁護するものとしての看護者の役割と責任を説明できる。	講義	特別講師 （弁護士）
15	精神看護における専門性について学ぶ 精神専門看護師とは何か、リエゾン精神看護の役割と機能、看護師のメンタルヘルスへの支援について説明できる。	講義	特別講師 （専門 看護師）

授業時間外学修（準備学習を含む）の具体的な内容及びそれに必要な時間

1年次に履修した科目の中でも特に「人間存在と道德意識」「人間心理と人間行動」「人間関係とコミュニケーション」と関連している科目です。したがって、本授業に臨む際には、予習と事前の学習準備をして臨んでください。授業後は、3年次で活用できる配布資料の整理や知識の定着をはかる重要事項ノートの作成など、工夫が必要です。授業中は短時間での意見交換を行います。できるだけ多くの学生の意見交換できるように組み合わせを工夫し、ランダムな席順をその都度、指示します。

【予習】

各授業前に、テキストの当該箇所を一読し、理解できない用語を調べて、疑問個所に付箋を付ける等の事前学習のために毎回1時間を必要とします。

8回目の事前課題は1時間を要します。精神看護に関する新聞記事課題：1. その記事を選んだ理由、2. 記事の情報、記事のタイトル等、3. 記事の概要、4. その記事に関して調べた内容（テキスト参照）

※新聞記事は、2020年1月1日以降に、掲載された記事に限ります。

【グループワーク】

授業内の演習・グループワークは、ディスカッションの時間です。各自が責任を持って準備して取り組んでください。

【復習】

授業をふりかえり、重要事項をノートに工夫して自分で分かりやすいようにまとめましょう。

疑問個所に付箋を付ける等の事前学習を行った場所を理解できたかどうか確認し、まとめるために20分を要します。理解が不十分な場合は、オフィスアワーやメールを活用して、疑問を解決しましょう。

テキスト及び参考書、参考文献・参考URL等

テキスト

岩崎弥生 編(2019). 精神看護学① 精神看護学概論／精神保健. メヂカルフレンド社.

岩崎弥生 編(2019). 精神看護学② 精神障害をもつ人の看護. メヂカルフレンド社.

参考文献

授業内で適宜紹介する。

成績評価の方法・基準

1. 筆記試験（80％）

定期試験1回で評価する。全範囲から出題する。合計点の80％を評価する。

2. 提出課題（20％）

新聞記事のレポート課題。授業時に課題内容、評価方法、提出期限、提出先を示す。

他の科目の課題も考慮し、計画的に課題を遂行する。

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

定期試験は返却しません。提出した課題は、原則コメントを記述して精神看護援助論の授業にて返却する予定です。

担当教員からのメッセージ

こころの健康は、誰にとっても、いつでも、大事な問題です。本授業では、個々の授業内容を自分のこととして、自分に引きつけて、考える努力をしてみましょう。授業中は短時間での意見交換を行いますので、主体的に参加してください。また、疑問や質問はそのままにしないで、解決して、理解を深めてください。

実務経験のある教員等による授業科目（実務経験と当該授業科目との関連）

該当なし

【専門教育科目】

授業科目名	授業科目コード	配当年次時期	履修方法	単位数 時間数	授業形態	開講曜日 時限
小児看護学概論	531	2後	必	2単位 30時間	講義	火1
担当教員（○印＝科目責任教員）						
○橋本佳美	HASHIMOTO, Yoshimi	email address	y-hashimoto●saku.ac.jp	(研究室	5号館3階308)	
鈴木千衣	SUZUKI, Chie	email address	c-suzuki●saku.ac.jp	(研究室	5号館3階307)	
小林 睦	KOBAYASI, Mutzumi	email address	m-kobayashi●saku.ac.jp	(研究室	5号館2階207)	
石坂俊也	ISHIZAKA, Toshiya	email address	t-ishizaka●saku.ac.jp	(研究室	1号館3階1320)	
オフィスアワー／連絡先と連絡方法						
○橋本佳美	原則授業日	12:10-12:50	13:00-14:30	(研究室)	別途メールで相談	
鈴木千衣	原則授業日	12:10-12:50		(研究室)	別途メールで相談	
小林 睦	金曜日	14:40-16:10		(研究室)	別途メールで相談	
石坂俊也	金曜日	14:40-16:10		(研究室)	別途メールで相談	
質問や面談は、実習に出ていますので、メールで予約をとるようにしてください。オフィスアワー以外の時間でも調整します。						
授業の概要						
小児の概念および子ども観、小児医療や小児看護の歴史の変遷を学ぶとともに、小児各期の発達と課題を深め、生活環境が子どもの成長発達に及ぼす影響を理解する。また、保健医療における小児看護の理念と役割を理解し、小児保健および小児看護に関する知識や理論を学ぶ。						
到達目標						
<ol style="list-style-type: none"> 1. 小児看護の対象としての「子ども」とはどのような存在か、自分の考えを表現できる。 2. 小児看護の理念を理解し、小児看護の役割と対象について説明できる。 3. 小児保健医療および小児看護の変遷を踏まえ、これからの小児看護における課題について考察できる。 4. 子どもの成長発達と成長発達の評価方法を理解し、実際にその評価方法を使用し評価できる。 5. 各発達段階における子どもに必要な養護を理解し、子どもと家族に対して必要な援助を考察できる。 6. 最近の子どもの日常生活と健康にかかわる問題についてグループメンバーと課題を検討できる。 7. 学修課題に自主的に取り組むことができる。 						
卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連						
「看護実践能力の基盤」となる力を身につける授業科目です。「多様な健康レベルと個性に対応できる看護実践能力」を身につけるために必要な科目であり、「学問を深め真理を探究していく態度・能力」「命の大切さを深く理解し、擁護する能力」にも関連します。						
授業計画						
回数	授業内容			授業方法	担当教員	
1	オリエンテーション：この授業の進め方、授業を理解するためのワークブック、レポート課題、グループワーク課題とその進め方について説明する。 子どもとは：ビデオから子どもの持っている力を分析し時間内にレポートする。			講義	橋本	
2	小児看護の理念と役割/子ども観の変化 小児の特徴を学び小児看護の役割を考える。 グループワーク：小児期各期の健康にかかわる問題について書かれた新聞記事、文献を提示し、各グループの課題を検討し明確にする。			講義/GW	橋本	
3	小児保健医療の変遷/過去から現在を捉え、今後の小児看護の課題を考える。 子どもに関する法律の制定や国の動き、そのもととなる基本的なデータから検討する。			講義	鈴木	
4-5	子どもと遊び：遊びを体験し、子どもにとっての遊びの意義を考える。 実際に体を動かし、子どもが遊びの中で感じることを、学ぶことについて考える。 現代の幼児の生活、遊びの講義から、子どもにとっての遊びの意味を考える。			演習/講義	特別講師	
6	子どもと生活 子どもを取り巻く環境と健康問題：各Gの課題を明確にし検討計画を立案する。			GW	橋本	

7	子どもの成長発達と評価/子どもの成長発達評価の実際を学ぶ。 子どもの成長発達の評価の実際：事例を提示し、実際に評価方法を用いて評価する。	講義/演習	鈴木
8-9	子どもの成長発達と健康生活 乳児期 1,2 子どもが出生後、母胎外生活に適応するために起こる生理的变化について知り、その生理的变化が子どもの基本的な生活行動をどのように変化させるのか考える。 乳児の日常生活を整えることが、その後の子どもの健康生活の基盤となることを学ぶ。また、乳児期の成長発達と養育上の問題（事故、虐待、感染など）、乳児期の健康診査のポイントと親子に必要な支援について考える。	講義	橋本
10-11	子どもの成長発達と健康生活 幼児期 1,2 幼児期の子どもの成長発達の特徴と養護について学ぶ。 幼児期の生活と健康上の問題、基本的な生活行動（睡眠、食事、排泄、清潔）を身につけるための具体的な支援について考える。	講義	橋本
12-13	子どもの成長発達と健康生活 学童・思春期 1,2 学童・思春期の子どもの成長発達の特徴と養護について 健康生活に必要な基本的な生活習慣の確立ができるようになる重要な事項と現状について 起こりやすい健康問題とその背景	講義	小林
14-15	グループワーク発表と討議 まとめ：子どもを取り巻く環境が子どもの基本的な生活行動や健康生活にどのような影響を及ぼしているのか、健康上の課題となる事項を具体的に検討する。また、これらの課題は発達段階によってどのように変化し、解決の糸口はどこにあるのか情報を共有し、小児看護の対象と役割についての理解を深める。また、子どもは成長発達にあった援助方法が必要であることを理解し、小児看護援助論につなげる。	GW/講義	橋本

授業時間外学修（準備学習を含む）の具体的な内容及びそれに必要な時間

授業の開始時に小児看護学概論学習内容・手引きを配付します。これを熟読してください。さらに各授業ごとに課題を提示しながら授業を進めます。配付されたワークブックの課題をまとめ、それを参考に学修を深めてください。資料や文献は必ず読んでから授業に出席してください。

テキスト及び参考書、参考文献・参考URL等

参考図書：奈良間美保 系統看護学講座 小児看護学概論小児看護学総論 小児看護学① 医学書院 最新版
参考文献：その都度提示する。
国民衛生の動向を使用することがあります

成績評価の方法・基準

1. 筆記試験（小テスト15%、定期試験50%） 65%
2. レポート（20%） レポート課題1, 2はそれぞれ10%です。
3. その他グループワーク自己評価および学び（15%） グループワーク自己評価表を渡します。

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

- ①小テストについては、授業中に解説をします。質問や相談には随時お応えします。あわせて学修方法の相談にもあります。
- ②レポートは、小児看護援助論の時にコメントをつけて返却します。

担当教員からのメッセージ

子どもの成長発達はダイナミックであり、興味深いものです。また、私たちも含めた子どもを取り巻く環境が子どもと家族の生活に大きく影響します。そのため、ニュースや新聞記事などに子どもの問題がどのように取り上げられているのか関心をもってみてください。授業に関する図書、文献、ビデオは、文献リストに挙げていますので活用してください。

実務経験のある教員等による授業科目（実務経験と当該授業科目との関連）

該当なし

【専門教育科目】

授業科目名	授業科目コード	配当年次時期	履修方法	単位数 時間数	授業形態	開講曜日 時限
母性看護学概論	541	2後	必	2単位 30時間	講義	月4
担当教員（○印＝科目責任教員）						
○湯本敦子 YUMOTO, Atsuko 櫻井綾香 SAKURAI, Ayaka 中田覚子 NAKATA, Satoko 宮澤香代子 MIYAZAWA, Kayoko						
オフィスアワー／連絡先と連絡方法						
月曜日授業終了後1時間。質問はメールでも可能です（随時）。面談の希望は事前にメールで連絡ください。 湯本 a-yumoto●saku.ac.jp（研究室）5号館3階 301 櫻井 a-sakurai●saku.ac.jp（研究室）1号館2階 1214 中田 s-nakata●saku.ac.jp（研究室）1号館1階 1106						
授業の概要						
女性のライフサイクルと役割・機能の変化について学習する。各ライフステージにおける母性とその家族の特性を身体的・心理的・社会的側面から捉え、母性の育成や母子関係、親子関係の形成等について多面的に理解し、母性保健および看護活動について学習する。						
到達目標						
1. 母性看護の対象・目的・役割・意義について説明できる。 2. 母性看護の中心となる概念、およびリプロダクティブ・ヘルスについて説明できる。 3. ライフサイクルからみたリプロダクティブヘルスに関する健康課題・健康問題と看護について説明できる。 4. 我が国における母性看護の対象を取り巻く社会の変化、母子保健統計および母性看護に関する法律や施策について説明できる。 5. ひとの生殖に関する形態・機能的特徴、妊娠の成立・胎児の発育とその付属物・性分化について説明できる。 6. 生殖技術の進歩に伴う倫理的課題を説明でき、考察することができる。						
卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連						
DP2「多様な価値観や生活背景を持つ人々を幅広く理解し、援助的対人関係を形成できる」DP3「さまざまな健康状態にある対象者の医療・看護における課題を発見し、解決に取り組むことができる」能力を培うための基礎となる力を身に付ける授業科目である。母性看護領域の基本的な対象理解、看護の基本を学ぶ科目である。						
授業計画						
回数	授業内容	授業方法	担当教員			
1-2	イントロダクション 母性看護の対象と目的、リプロダクティブヘルス・ライツについて説明できる。	講義	湯本			
	生殖の形態と機能1 男・女生殖器の形態、性ホルモン 男女生殖器の名称と構造を正しく述べることができ、各器官の役割・機能を説明できる。性ホルモンの種類をあげ、分泌器官とはたらきを説明できる。	講義	湯本			
3-4	生殖の形態と機能2 女性の月経周期 女性の月経周期に伴う視床下部-下垂体-卵巣の調節機序、卵巣・子宮内膜の周期的変化を説明できる。	講義	湯本			
	性と生殖の健康問題1 月経障害・更年期・女性のがん 月経に関する健康課題と健康障害とそのケアについて理解し説明できる。 男女の更年期の原因と特徴とケアについて述べるができる。 女性特有のがんについて、特徴・症状・診断・治療について説明できる。	講義	湯本			
5-6	小テスト1：1-4回分 性と生殖の健康問題2 性感染症・暴力 性感染症の動向と各感染症の特徴・検査・治療について説明できる。性感染症の予防法について説明できる。 子どもの虐待、ドメスティックバイオレンス、性暴力の概念を理解し、支援に関する基本的知識を説明できる。	小テスト 講義	櫻井			
7	ヒューマン・セクシュアリティ セクシュアリティの概念と性の多様性について説明できる。セクシュアリティの発達について理解し、健康な性とは何かを考察できる。	講義	櫻井			

8-9	小テスト2：5-7回分 我が国の母子の健康と母子保健統計と母子保健施策(法律を含む) 母子保健統計の指標をあげて定義し、それらの動向を説明できる。 我が国における母子保健に関連する法律や規定、および母子保健施策を説明することができる。	小テスト 講義	中田
10-11	小テスト3：8-9回分 生殖の形態と機能3 妊娠の成立・発生・性分化・遺伝 妊娠の定義、妊娠の成立過程を説明できる。 胎児の発生と性分化のメカニズムを説明できる。	小テスト 講義	湯本
12-13	性と生殖の健康問題3 家族計画・不妊・生殖技術と倫理 家族計画の目的を理解し、各種避妊方法について説明できる。 不妊の原因・治療の概要について説明できる 生殖技術に伴う倫理的課題をあげ、自分の考えを述べるができる。	講義	湯本
14	不妊カップルの理解と看護	講義	宮澤
15	母性看護領域における特別なニーズ	講義	湯本
授業時間外学修（準備学習を含む）の具体的な内容及びそれに必要な時間			
事前・事後課題について ・毎回、初回ガイダンスで示したテキストの該当ページについて読んでくること。 ・小テストを3回行うので、各回の授業をよく復習しておくこと。 ・ワークブックは初回オリエンテーション時に配布するので、計画的にワークブックの課題を完成すること。			
テキスト及び参考書、参考文献・参考URL等			
テキスト：森恵美,他 (2016). 系統看護学講座専門分野Ⅱ母性看護学①母性看護学概論(第13版). 医学書院. 森恵美,他 (2016). 系統看護学講座専門分野Ⅱ母性看護学②母性看護学各論(第13版). 医学書院. 末岡浩,他 (2019). 系統看護学講座専門分野Ⅱ成人看護学⑨女性生殖器(第15版). 医学書院. 参考文献：母子衛生研究会編集 (2019) わが国の母子保健平成31年. 母子保健事業団. 病気が見えるvol.9 婦人科・乳腺外科 メディックメディア			
成績評価の方法・基準			
1. 筆記試験 課題レポート20% 小テスト30% (10%×3) 定期試験50% 2. 課題レポート：新聞から母性看護に関するテーマの記事を取り上げ、その要旨と自分の考えを1000字以内(要旨200字程度、考え800字程度)にまとめる。表紙を付けること(テーマ・学籍番号・氏名)。記事(コピーでもよい)を添付すること。 留意事項：母性看護に関連するテーマであること。要旨が簡潔にまとめられ、自分の考えが論理的に述べられていること。評価外として：①期限に提出がない ②800字に満たない ③剽窃がある 3. 20分以上の遅刻、早退は欠席とする。			
課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法			
・毎回の授業の学びについて、授業終了時に大福帳(コミュニケーションカード)に記載し提出する。 (大福帳については初回オリエンテーションで説明する) ・質問はオフィスアワーに直接来訪する、あるいはメールで問い合わせることも可能である。できる限り次の授業までにフィードバックします。 ・小テストは定期試験前までに返却する。			
担当教員からのメッセージ			
ひとの生涯を通しての性と生殖に関する健康課題や健康問題を扱います。男性女性を問わず、みなさんも、実は母性看護学の対象になります。看護職の基本的知識として学ぶ内容ですが、患者さんのこととしてだけでなく、皆さん自身の今とこれから一生に亘る自分自身のからだ、こころ、性の健康問題としてもじっくり考えてほしいと思っています。			
実務経験のある教員等による授業科目（実務経験と当該授業科目との関連）			
該当なし			

【専門教育科目】

授業科目名	授業科目コード	配当年次時期	履修方法	単位数 時間数	授業形態	開講曜日 時限
地域看護学概論	551	2後	必	2単位 30時間	講義	木2
担当教員（○印＝科目責任教員）						
○細谷たき子/HOSOYA Takiko、佐藤美由紀/SATO Miyuki、鶴岡章子/TSURUOKA Shoko、関本真奈美/SEKIMOTO Manami、川口桂嗣/KAWAGUCHI Keiji、依田明子/YODA Akiko、佐藤紀子/SATO Noriko						
オフィスアワー／連絡先と連絡方法						
水曜日12：30－13：00及び放課後/ 細谷：t-hosoya●saku.ac.jp 佐藤（美）：m-sato●saku.ac.jp 鶴岡：s-tsuruoka●saku.ac.jp 関本：m-sekimoto●saku.ac.jp 川口：k-kawaguchi●saku.ac.jp 佐藤（紀）：n-sato●saku.ac.jp						
授業の概要						
地域における看護活動の概念を、地域看護の対象と機能および活動の場から理解し、人々が地域生活の中で直面する健康問題を、個人・家族・地域の問題として解決・改善するプロセスと看護職の役割、それを支える制度と仕組みについて学ぶ。						
到達目標						
1. 地域看護職の活動する職場、役割と公衆衛生看護の歴史の流れを説明できる。 2. 人々のライフステージや、生活の場と健康との関連と、日本の保健福祉サービスを理解できる。 3. 地域の人々の健康を維持し疾病や障害の発症や悪化を予防するための地域・在宅看護の援助の方法を説明できる。 4. 地域ケアシステムや関連する制度における看護職の役割を説明できる。 5. 地域における結核管理活動を理解できる 6. 学校保健、産業保健における看護活動を理解できる。 7. 地域診断の必要性、定義、実施方法を理解し、学生の居住地域について地域診断できる。						
卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連						
看護実践能力の基盤を形成するための授業内容とする。						
授業計画						
回数	授業内容	授業方法	担当教員			
1	* 地域看護学で何を学ぶか ①地域で活動する看護職の仕事と役割 ②在宅看護と公衆衛生看護 ③公衆衛生看護と予防 ③ポピュレーション・ハイリスクアプローチ ④プライマリヘルスケアとヘルスプロモーション	講義	細谷			
2	* 地域看護活動の歴史と発展 ①公衆衛生看護の歴史 ②イギリス・アメリカの初期公衆衛生看護 ③日本の公衆衛生看護の歴史とその特徴	講義	細谷			
3	* 県と市町村の生涯にわたる保健福祉サービス ①日本の社会保障制度 基本的人権、公的責任、権利擁護 ②県と市町村の保健福祉サービス 保健師の職業倫理	講義	細谷			
4	* 地域看護学の対象：個人・家族の生活と集団・地域の健康 ①個人、家族、集団、地域の健康 ②地域の健康と支援	講義	川口			
5	* 在宅看護における訪問看護活動 ①在宅ケアの概念 ②在宅ケアの対象と援助 ③在宅ケア実施機関と職種 ④在宅療養者の事例	講義	関本			

6	*在宅ケアと地域の看護活動 ①在宅ケア制度とシステム ②在宅ケアマネジメントと担う職種 ③在宅ケアにおける看護職の役割 地域看護の展開方法と地域看護職の支援方法	講義	鶴岡
7	*地域特性と健康問題の把握（地元を知ろう） ①地域診断の必要性 ②地域診断の定義と目的 ③地域診断の方法	講義	佐藤(美)
8	*地方自治体の保健計画と保健事業における地域看護職の役割 ①保健計画策定プロセス ②保健計画策定・実施事例	講義	細谷
9	*市町村（行政機関）における看護活動 ①佐久市の保健師活動の実際	講義	特別講師 (佐久市)
10	*地域における結核管理活動 ①結核とは ②なぜ今結核対策が必要か ③結核対策の実施方法	講義	細谷
11	*ICF(国際生活機能分類)、地域の社会資源 ①ICFの概要 ②ノーマライゼーション	講義	細谷
12	*事業所における産業保健活動 ①事業所における産業保健看護活動の実際	講義	特別講師 (産業保健師)
13	*学校保健における養護教諭の活動 ①小中学校の養護教諭の保健看護活動の実際	講義	特別講師 (養護教諭)
14	*医療機関における健康管理活動 ①健康管理部の看護職の役割と保健予防活動	講義	依田
15	わたしの住んでいる市・町・村の地域診断（グループワーク） ①地域診断課題の発表 ②地域の課題、強みのアセスメント	演習	佐藤(美)・細谷 川口・佐藤(紀)

授業時間外学修（準備学習を含む）の具体的な内容及びそれに必要な時間

授業の内容を事前にシラバスで見て、保健福祉行政論、生活習慣と健康などすでに他科目の授業で学習した事項は確認してから授業に臨む。
授業後に、該当する内容を教科書や参考書で調べ、確認して、その都度確実な知識を積み上げていく。

テキスト及び参考書、参考文献・参考URL等

テキスト：『公衆衛生看護学. Jp』インターメディカル社
参考文献：『国民衛生の動向』厚生統計協会
『国民の福祉と介護の動向 2019/2020』厚生労働統計協会
『最新保健学講座 1 公衆衛生看護学概論』メヂカルフレンド社

成績評価の方法・基準

筆記試験（80%） レポート（10%） 授業参加状況（10%）

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

試験範囲はすべての講義内容とする。
地域診断のレポート課題は講義「地域特性と健康問題の把握（地元を知ろう）」において詳細を説明し、課題を演習の時間に発表し、意見交換することで学びを深める。

担当教員からのメッセージ

12月～1月に学生各自の実家や居住地域の特性について、地域診断を実施するので、行政から各世帯に配布されている広報誌（人口構成、予算、行政方針、地域の社会資源が掲載されている）やパンフレットなどは情報源として役にたつので保管しておくが良い。

実務経験のある教員等による授業科目（実務経験と当該授業科目との関連）

該当なし

【専門教育科目】

授業科目名	授業科目コード	配当年次時期	履修方法	単位数 時間数	授業形態	開講曜日 時限
看護研究方法	601	2 後	必	2 単位 30 時間	講義	木 4
担当教員（○印=科目責任教員）						
○ 鈴木千衣	SUZUKI, Chie	email address c-suzuki	●saku.ac.jp	研究室	5 号館 3 階 307	
八尋道子	YAHIRO, Michiko	email address m-yahiro	●saku.ac.jp	研究室	5 号館 2 階 205	
中田覚子	NAKATA, Satoko	email address s-nakata	●saku.ac.jp	研究室	1 号館 1 階 106	
二神真理子	FUTAGAMI, Mariko	email address m-futagami	●saku.ac.jp	研究室	5 号館 2 階 209	
佐藤有妃	SATOH, Yuki (司書)	email address lib	●saku.ac.jp	図書館		
オフィスアワー／連絡先と連絡方法						
○ 鈴木千衣 八尋道子 中田覚子 二神真理子	} オリエンテーション時にお知らせします。 オフィスアワー以外の面談の予約もメールで可能です。					
授業の概要						
看護研究の意義を理解し、看護研究論文を今後の学修活動や看護活動に生かすための基礎的な能力（看護文献の検索方法の理解、文献を正しく読み取る力）を養う。さらに、看護研究のプロセス（テーマの抽出、研究方法、分析、まとめ、発表方法）を理解し、学生自身の関心事をもとに、文献検討し、テーマの抽出を行い、事例研究の研究計画書の作成を経験する。						
到達目標						
1. 看護研究の意義を理解し、看護研究論文の活用の重要性がわかる。 2. 文献活用の基本的な能力として、文献の検索方法を理解するとともに、文献を正しく読み取る（目的、意義、方法、結果結論、強調点、長所、短所）ことができる。 3. レポートの記載にあたって、文献の用い方を正しく理解できる。 4. 看護研究の一連のプロセスがわかる。 5. EBN 実習を通して、興味を持った看護現象を明確にし、さらに文献検討を通してテーマが抽出できる。 6. 抽出したテーマで事例研究の看護研究計画書が立案できる。 7. レポートを記載する際に、文献を活用する意義が理解でき、実践できる。 8. グループメンバーに自分の意見を伝え、また、グループメンバーの意見を受け留めながらディスカッションし、協力し合いながら課題が進められる。						
卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連						
専門職として必要な「学問を深め真理を探究していく態度・能力」身につける授業科目であり、また「看護実践能力の基盤」にも関連します。						
授業計画						
回数	授業内容	授業方法	担当教員			
1	オリエンテーション／ 講義①：研究とは、看護研究とは、看護研究の必要性と意義	講義	鈴木			
2	講義②：文献活用 1 (文献の活用の意義、文献の種類／研究論文の構成)	講義	鈴木			
3	講義・演習③：文献活用 2 (文献を検索してみよう① 文献検索の方法)	講義 演習	佐藤			
4	講義・演習④：文献活用 3 (文献を検索してみよう②)	講義 演習	佐藤他			
5	講義⑤：文献活用 4 (文献の整理方法と実際、文献カードの作成)	講義	二神			
6	講義・演習⑥：文献活用 5 (文献を読む① クリティーク)	講義 演習	鈴木 中田			
7	講義⑦：看護研究の実際 1 (研究のプロセス／研究疑問と研究方法)	講義	鈴木			

8	演習：看護研究の実際 2（研究テーマの見つけ方）	演習	鈴木他
9	講義⑧：看護研究の実際 3（看護研究の方法）	講義	鈴木他
10	演習：看護研究の実際 4（文献を読む②）	演習	鈴木他
11	講義⑨：研究計画書の書き方 1	講義	中田
12	演習：看護研究の実際 5（研究計画の立案）	演習	鈴木他
13	講義⑩：研究と倫理（研究における倫理的配慮）	講義	八尋
14	演習：研究計画書の書き方 2（研究計画書を作成してみよう）	演習	鈴木他
15	講義⑪：研究論文の書き方／発表のしかた	講義	中田
授業時間外学修（準備学習を含む）の具体的な内容及びそれに必要な時間			
予習：テキストの関連事項を読み、毎回 30 分の予習をしましょう。わからないところについては、目印をつけておいて、授業内に疑問を解消すること。		復習：配付した資料には目を通して、重要事項はノートにまとめておきましょう。	
テキスト及び参考書、参考文献・参考 URL 等			
<p>テキスト：坂下玲子，宮芝智子，小野博史(2016)．系統看護学講座別巻 看護研究．医学書院．</p> <p>参考文献：早川和生編著(2012)．JJN スペシャル 看護研究の進め方 論文の書き方 第2版．医学書院．</p> <p>齊藤裕之，佐藤健一編(2010)．JJN スペシャル 医療者のための伝わるプレゼンテーション．医学書院．</p>			
成績評価の方法・基準			
<p>下記の基準を参考にしてください。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 小テスト (30%) 2. 課題 (課題 1 : 10%、課題 2 : 20%、課題 3 : 20%) *課題 3 は出席が必要回数を満たない場合には評価対象とはなりません。 各自研究計画書を作成し提出する。 3. グループワークへの参加状況振り返りによる自己評価 (15%) 4. 参加状況 (5%) 			
課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法			
<p>毎回の授業に関するご質問は、授業終了時、オフィスアワー時に受け付けます。これ以外の時間に研究室をお訪ねの際は、必ずメールでアポイントを取ってください。また、メールで問い合わせてください。メールあるいは直接お会いしてコメントいたします。課題のレポートについては原則コメントを書いて返却いたします。</p> <p>試験等の結果は、問い合わせが可能です。</p>			
担当教員からのメッセージ			
<p>授業の詳細は、初回のオリエンテーションで説明します。</p> <p>文献を読むことは、これからの学修にとって基本です。文献の活用の仕方をよく学んで、他の授業にも活用できるようにしましょう。さらに、この授業は、4年生の看護学研究（卒業研究）につながる授業です。しっかり、看護研究のプロセスを理解し、4年生に繋げてください。</p>			
実務経験のある教員等による授業科目（実務経験と当該授業科目との関連）			
該当なし			

【専門教育科目】

授業科目名	授業科目コード	配当年次時期	履修方法	単位数 時間数	授業 形態	開講曜日 時限
成人看護援助論Ⅱ（回復・慢性期）	503	3前	必	2単位 60時間	講義 演習	金3～5
担当教員（○印＝科目責任教員）						
○吉岡 恵 YOSHIOKA, Megumi、松下由美子 MATSUSHITA, Yumiko、水野照美 MIZUNO, Terumi、阿藤幸子 ATO, Sachiko、喜多村定子 KITAMURA, Sadako、塩入とも子 SHIOIRI, Tomoko、櫻井真智子 SAKURAI, Machiko						
オフィスアワー／連絡先と連絡方法						
授業日の授業終了後などに、講義室または各担当教員の研究室で面談 質問ならびに面談の予約は、メールにて受けます 吉岡（5号館2階210）：m-yoshioka、松下（5号館3階教員室）：y-matsushita、水野（5号館2階203）：t-mizuno、阿藤（5号館2階209）：s-ato、喜多村（1号館1階1106研究室）：s-kitamura、塩入（5号館2階助手室）：t-shioiri、櫻井真（5号館2階助手室）：m-sakurai メールアドレスは、上記の後ろに、@saku.ac.jp						
授業の概要						
成人看護援助論Ⅰを踏まえて、成人期における健康障害を有する対象とその家族に対する援助技術について看護過程を展開しながら学ぶ。成人期において発症しやすい、がん、心疾患、脳血管疾患、糖尿病などの疾患に対する看護を理解し、効果的な看護を展開するための技術を習得し、実践へつなげていく。						
到達目標						
1. 各種機能（呼吸・循環・代謝・脳神経・運動・感覚・腎・消化・生体防御・造血）障害が生命や生活へ及ぼす影響と回復・慢性期の成人とその家族の身体的及び心理・社会的反応を理解し、説明できる。 2. 各種機能障害をもつ回復・慢性期の成人の生命と生活を支える看護について、看護過程を用いて考察し、必要な援助を述べるができる。 3. 演習と事前事後の学習を通して、機能障害をもつ患者に必要な看護技術の一部ができる。						
卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連						
看護の基本で学んだことを踏まえ、成人期における健康障害を有する対象者とその家族に対する看護を計画・実施していくための授業科目である。また、「多様な健康のレベルと個別性に対応できる看護実践能力」に関連している。						
授業計画						
回数	授業内容	授業方法	担当教員			
1-3	オリエンテーション 呼吸機能障害（慢性閉塞性肺疾患、肺炎など）をもつ患者とその家族への看護	講義	吉岡 吉岡・塩入 特別講師			
4-6	循環機能障害（高血圧、心筋梗塞、心不全など）をもつ患者とその家族への看護	講義/小テスト	吉岡・阿藤 特別講師			
7-8	グループワーク（情報の整理） 造血機能障害（白血病など）をもつ患者とその家族への看護	講義/小テスト	全員 特別講師			
9-13	技術演習（周手術期ケア・吸引・心電図・血糖測定など）	演習	塩入・櫻井 吉岡			
14-15	腎機能障害（腎臓病、透析など）をもつ患者とその家族への看護	講義/小テスト	喜多村・ 吉岡			
16-17	代謝機能障害（糖尿病など）をもつ患者とその家族への看護	講義/小テスト	TA 特別講師			
18-19	グループワーク（関連図） 生体防御機能障害（アレルギーなど）をもつ患者とその家族への看護	講義/小テスト	全員 水野			
20-21	運動機能障害（脊髄損傷など）をもつ患者とその家族への看護	講義/小テスト	松下・櫻井			
22-24	グループワーク（計画） 消化機能障害（肝硬変、大腸がんなど）をもつ患者とその家族への看護	講義/小テスト	全員 喜多村・ 阿藤			
25-27	脳神経（脳梗塞など）・感覚機能障害（メニエールなど）をもつ患者とその家族への看護	講義/小テスト	水野・吉岡			
28-29	看護過程課題に関する個別相談		全員			
30	機能障害（腎臓病など）とともに生きる成人の生活と必要な看護	講義	特別講師			

<p>授業時間外学修（準備学習を含む）の具体的な内容及びそれに必要な時間</p> <p>1. 到達目標 1 への対応（各種機能障害）（1時間×12回＝12時間程度）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・テキスト等を読み予習をしてから授業に臨みましょう。各種機能障害に関連した形態機能学や健康障害と治療、フィジカルアセスメントなどの既習範囲を予習しておく、小テスト（授業開始時に行われる既習内容確認）に役立ち、当日の授業の内容の理解が深まります。 ・小テストが返却されたら、理解度を確認して学習方法を振り返り、その課題を具体化して、実習準備につながるようにしていきましょう。定期テストにも役立てましょう。 ・模擬体験は、患者・家族の生活体験・気持ちの理解を深めて、看護を考えることを目指しています。率直な感想を書き留めて、学生同士で共有しましょう。患者の生活のつらさを感じ、看護の役割を考えるきっかけになります。 <p>2. 到達目標 2 への対応（事例展開演習）（16時間程度）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各種機能障害のコマの4～5月は「情報収集・アセスメント」、6月は「関連図」、6～7月は「看護計画」に焦点を当てた事例解説をします。この事例解説は、「個人レポート」作成へのヒントです。予復習として実際に書いてみると、さまざまな機能障害患者の病態が頭に入るので、「個人レポート」作成や実習時に活用できます。 ・グループに分かれて、事例の看護過程を展開します。事前に各自で課題に取り組み、グループワークではそれを持ち寄りテーマに沿って内容を検討します。グループワークで検討したことを参考に、個人でまとめ、レポートとして提出してください。 <p>3. 到達目標 3 への対応（技術演習）（2時間程度）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事前に配付される課題に取り組み、技術演習へのシミュレーションをしておきましょう ・技術演習では、領域別実習において必要な事前学習を振り返り、自分が実習で技術を実施することを意識して丁寧に取り組みましょう。
<p>テキスト及び参考書、参考文献・参考URL等</p> <p>テキスト：鈴木久美他(2019). 慢性期看護 病気とともに生活する人を支える 改訂3版. 南江堂. 参考文献：浅野浩一郎ら(2019). 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学2 呼吸器. 医学書院. 吉田俊子ら(2019). 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学3 循環器. 医学書院.</p>
<p>成績評価の方法・基準</p> <p>1. 定期試験：50％ 2. 小テスト(8回)：20％ 3. 看護過程の個人レポート：20％ グループワークで行った事例の看護展開を、記録用紙に沿って、各自でまとめて提出します。 4. 周術期・慢性期看護演習成果(準備・実践・振り返り)：10％</p>
<p>課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法</p> <p>定期試験の結果についての問い合わせには応じません。定期試験問題の開示は致しません。 小テストは、講義中に解説します。 グループワークの記録は、コメントし返却します。グループワークは担当教員の指導を受けながら進めましょう。</p>
<p>担当教員からのメッセージ</p> <p>領域別実習・国家試験・将来の臨床実践に大変関わりのある広い範囲と深い内容を持つ科目です。 応用的思考が必要となりますので、各自で既習科目の内容が身についているか確認しながら学びましょう。 質問や相談は、事前にアポイントをとると確実です。 学習の順序と日程は、初回授業にて説明します</p>
<p>実務経験のある教員等による授業科目（実務経験と当該授業科目との関連）</p> <p>該当なし</p>

【専門教育科目】

授業科目名	授業科目コード	配当年次時期	履修方法	単位数 時間数	授業形態	開講曜日 時限
老年看護援助論	512	3前	必	2単位 60時間	講義 演習	月3～5
担当教員（○印＝科目責任教員）						
○小野美香子（ONO, Mikako） 1号館3階311 安川揚子（YASUKAWA, Yoko） 5号館3階302 井坂 恵（ISAKA, Megumi） 5号館2階助手室						
オフィスアワー／連絡先と連絡方法						
毎週月曜日 12:10～12:50 オフィスアワー以外の質問ならびに面談の予約は、メールにてご連絡ください。 m-ono●saku.ac.jp y-yasukawa●saku.ac.jp						
授業の概要						
加齢に伴う特徴を理解するとともに、健康障害を示す病態、症状や徴候、経過、治療法等を学び、高齢者及びその家族を対象とした看護援助の方法並びに援助技術について看護過程を展開しながら学ぶ。 また、様々な健康レベルにある高齢者についての理解を深め、効果的な看護を展開するための知識・技術・態度を修得し、実践へつなげていく						
到達目標						
1. 加齢に伴う身体的・心理的・社会的変化および老年期に多い疾患や症候、治療・看護を説明できる。 2. 高齢者および家族の「できる能力(強み)」に着眼し、その人らしく生きることを支える看護過程を展開できる。 3. 高齢者の治療・療養の場の特徴、その場における看護の役割について説明できる。 4. 高齢者の尊厳と意思を尊重した終末期のあり方について、自分の考えを説明できる。 5. 高齢者とその家族を取り巻く環境および倫理的課題について検討することができる。						
卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連						
看護職として必要な「多様な健康のレベルと個別性に対応できる看護実践能力」となる力を身につける授業科目であり、また「命の大切さを深く理解し、擁護する能力」や「看護実践能力の基盤」とも関連する。						
授業計画						
回数	授業内容	授業方法	担当教員			
1	科目ガイダンス 高齢者の理解：加齢に伴う変化 身体機能、認知機能、心理・社会的変化による生活への影響について復習する	講義	小野			
2	高齢者の生活を支える看護：活動と休息／睡眠 運動機能、廃用症候群、活動と休息、睡眠のケアについて学ぶ	講義	小野			
3	高齢者の生活を支える看護：食生活 食事、脱水、摂食嚥下障害、低栄養や食生活のケアについて学ぶ	講義	小野			
4	高齢者の生活を支える看護：排泄 排泄機能について復習し、高齢者の排泄機能の特徴とケアについて学ぶ	講義	小野			
5	高齢者の生活を支える看護：清潔・皮膚／感染症 皮膚の加齢変化、褥瘡、感染症の原因とそのケアについて学ぶ	講義	小野			
6	治療を受ける高齢者の看護：入院・退院 入院に伴う生活・環境の変化、退院支援について学ぶ	講義	小野			
7	治療を受ける高齢者の看護：診察・検査／手術療法 診察・検査・手術を受ける高齢者のケア、合併症予防について学ぶ	講義	小野			
8	治療を受ける高齢者の看護：薬物療法・放射線療法・化学療法 薬物動態、各種療法の有害事象と治療に伴う安全安楽なケアについて学ぶ	講義	小野			
9	治療を受ける高齢者の看護：リハビリテーション 経過別リハビリテーションについて学ぶ	講義	小野			

10	高齢者の治療と看護：リスクマネジメント 高齢者に起こりやすい事故が生じる原因とそのケアについて学ぶ	講義	安川
11-13	高齢者に特有な疾患と看護：認知症・うつ病・せん妄 認知症の病態や症状、ケアについて学ぶ。うつ病やせん妄とケアについて学ぶ	講義	小野
14	高齢者に特有な疾患と看護：パーキンソン病、パーキンソン症候群 パーキンソン病の病態や症状、ケアについて学ぶ	講義	小野
15	高齢者の生活を支える看護：家族への看護・倫理的課題 高齢者と介護する家族を包括的に捉える支援について学ぶ	講義	小野
16	高齢者の生活を支える看護：介護保険施設・地域密着型サービス 各施設やサービスの特徴や看護の役割について学ぶ	講義	小野
17	高齢者の生活を支える看護：終末期の看護 臨死期にある高齢者とその家族への看護、多職種連携について学ぶ	講義	安川
18	老年看護におけるチームアプローチ：多職種連携	講義	特別講師
19-30	老年看護過程の展開 生活機能からみた老年看護過程	講義・演習	全員
授業時間外学修（準備学習を含む）の具体的な内容及びそれに必要な時間			
<p>予習：科目ガイダンス時に、各授業におけるキーワードを提示する。調べたこと、学習したことは、科目ガイダンス時に配布する「事前学習用紙」に記載し、該当授業時に提出する。</p> <p>また、各授業内容の該当箇所について、教科書を精読し、重要なところはマーカーで印をつけ、疑問や意見は付箋をつけて授業に臨む。</p> <p>復習：授業内で配布したレジュメ・資料をもとに、教科書を精読したうえで、重要事項をノートにまとめ整理する。さらに、予習時の疑問は解決したのかを確認する。新たな疑問やわからないことは、オフィスアワーを活用して質問する。</p>			
テキスト及び参考書、参考文献・参考URL等			
<p>テキスト：堀内ふき他(2017). 高齢者の健康と障害. 第5版. メディカ出版 堀内ふき他(2017). 高齢者看護の実践. 第4版. メディカ出版 奥宮暁子他(2019). ウェルネスの視点にもとづく老年看護過程. 第2版. 医歯薬出版</p> <p>参考文献：山田律子他(2016). 生活機能からみた老年看護過程. 第3版. 医学書院 岩田充永(2010). 高齢者救急—急変予防&対応ガイドマップ. 医学書院 鈴木みずえ(2017). 認知症の看護・介護に役立つ よくわかるパーソン・センタード・ケア. 池田書店 本田美和子他(2014). ユマニチュード入門. 医学書院 水野裕(2008). 実践パーソンセンタードケア. ワールドプランニング</p>			
成績評価の方法・基準			
<ol style="list-style-type: none"> 1) 筆記試験 (60%)：小試験を2回行う。期末試験・追試験は原則実施しない。 2) 看護過程 (30%) 3) 事前学習・授業レポート (10%) 			
課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法			
<p>小試験の結果は、希望者に対して面接し説明する。</p> <p>レポートは、提出から2週間程度を目安に、コメントをつけて返却する。</p>			
担当教員からのメッセージ			
該当なし			

【専門教育科目】

授業科目名	授業科目コード	配当年次時期	履修方法	単位数 時間数	授業 形態	開講曜日 時限
精神看護援助論	522	3前	必	2単位 60時間	講義 演習	木1, 木2
担当教員（○印＝科目責任教員）						
○柿澤 美奈子（KAKIZAWA, Minako）	m-kakizawa	●saku.ac.jp	（研究室	5号館2階207）		
坂江 千寿子（SAKAE, Chizuko）	chi-sakae	●saku.ac.jp	（研究室	5号館3階309）		
井手段 幸樹（ITEDAN, Kouki）	k-itedan	●saku.ac.jp	（研究室	1号館3階1312）		
篠崎 一栄（SHINOZAKI, Kazue）	k-shinozaki	●saku.ac.jp	（研究室	5号館2階助手室）		
林 裕枝（HAYASHI, Hiroe）	hiro-hayashi	●saku.ac.jp	（研究室	1号館2階非常勤助手室）		
オフィスアワー／連絡先と連絡方法						
<p>オフィスアワー</p> <ul style="list-style-type: none"> ・原則、授業日の授業終了から放課後 <p>連絡先と連絡方法</p> <ul style="list-style-type: none"> ・連絡先は上記参照 ・質問は、メールでもよい（常時） ・オフィスアワー以外の面談の予約はメールで可能である 						
授業の概要						
<p>精神障害のある方の生活を理解するとともに、精神障害の病態と徴候、症状、経過、治療法等を学び、精神の健康上の問題に直面している方とその家族に対する看護援助方法並びに援助技術、対応方法について看護過程を展開しながら学ぶ。また、精神障害のある方やその家族とのかかわり方など、効果的な看護を展開するための技術を習得し、実践へつなげていく。</p>						
到達目標						
<ol style="list-style-type: none"> 1. 精神科看護における看護師の役割やコミュニケーション技術を理解し説明できる。 2. 精神医療保健福祉に関連する法的根拠を基に、精神科看護におけるマネジメントの視点を説明できる。 3. 精神症状による患者の状態をセルフケアの視点からアセスメントし、その人の生きる力を支える援助について理解できる。 4. 患者家族が受ける影響を理解し、家族支援について説明できる。 5. 事例を用いて対象者の看護過程を展開できる（3事例について理解できる）。 6. 対象者が地域で生活するために必要とされる支援と課題について説明できる。 						
卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連						
<p>「豊かな人間性と幅広い教養」「命の大切さを深く理解し、養護する能力」「看護実践能力の基盤」を基に、「多様な健康レベルと個別性に対応できる看護実践能力」を身につける講義・演習の授業科目であり、「様々な領域の専門家と連携し協働できる能力」に発展する。</p>						
授業計画						
回数	授業内容	授業方法	担当教員			
1・2	精神障害をもつ人と「患者－看護師関係」の構築について考える （治療的コミュニケーション/看護場面の再構成）	講義・演習	柿澤			
3	精神科病棟という環境と安全について学ぶ （精神科病棟の構造と機能/精神科におけるリスクマネジメント）	講義	柿澤			
4-6	精神科で行われる主な検査や治療、看護について学ぶ （精神科で行われる主な検査・治療と看護；事例に沿って） （精神症状と看護；事例に沿って）	講義	柿澤			
7・8	精神障害をもつ患者の看護について学ぶ （現代に急増している精神疾患に焦点をあてる）	講義	柿澤			
9-20	精神障害をもつ患者への看護援助について学ぶ （事例による看護過程の展開）	講義・演習	全員			
21	精神障害をもつ人とともに生活する家族を理解し、その支援を学ぶ （家族への支援）	講義	井手段			
22	当事者の講演を聴き、精神に障がいをもつ人の理解を深める （当事者の講演）	講義	特別講師			

23	精神障害をもつ人の地域における生活への支援について学ぶ；医療に視点を当てる① (入院と地域をつなぐかわり)	講義	柿澤
24	精神障害をもつ人の地域における生活への支援について学ぶ；福祉に視点を当てる (地域での生活への支援と多職種連携)	講義	特別講師
25・26	地域での生活への支援について深める (事例を基に地域での生活の具体的支援を考え、共有する)	演習	全員
27	精神障害をもつ人の地域における生活への支援について学ぶ；医療に視点を当てる② (チーム医療と精神科訪問看護)	講義	特別講師
28・29	精神科看護と倫理的課題について考える (精神科看護と倫理的課題、倫理的課題の検討)	演習	坂江
30	災害時のこころのケアについて学ぶ (災害時の地域精神保健医療活動)	講義	特別講師

授業時間外学修（準備学習を含む）の具体的な内容及びそれに必要な時間

【予習】

- ・テキストの当該授業の関連箇所を読み、重要なところにはマーカーをし、理解できないところには付箋を付け、授業内で疑問を解決する。理解が不十分な場合は、オフィスアワーやメールを活用し疑問の積み残しをしない。
演習はチーム学習やディスカッションの時間である。各自が責任を持って課題に取り組み、積極的に授業に参加する。
- ・初回授業のコースオリエンテーションにて、授業毎の課題は別途提示する。
- ・9-20、25、26、28、29回は、事例を基にチームで学びを深める。課題については、授業内で別途提示する。

【復習】

授業をふりかえり、重要事項をノートに工夫してまとめる。また、課題等を加筆修正する。

テキスト及び参考書、参考文献・参考URL等

テキスト

岩崎弥生, 渡邊博幸 編(2015). 精神看護学① 精神看護学概論 精神保健. メヂカルフレンド社.
渡邊博幸, 岩崎弥生 編(2016). 精神看護学② 精神障害をもつ人の看護. メヂカルフレンド社.

参考文献

授業内で適宜紹介する。

成績評価の方法・基準

1. 筆記試験 (60%)
定期試験得点の60%を評価とする。全範囲から出題する。
2. 提出課題 (35%)
 - 1) 看護過程の展開 (30%) ; 授業内で課題内容、評価方法、提出期限、提出先を示す。
 - 2) 倫理的課題の検討 (5%) ; 授業内で課題内容、評価方法、提出期限、提出先を示す。
3. 演習におけるチームに対する貢献度 (5%)
チームへの貢献度をピア評価する。チーム学習の最終回に評価票に基づき各自評価する。

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

- ・定期試験は、返却しない。
- ・提出課題については、原則コメントを記述して返却する。

担当教員からのメッセージ

既習の知識を活用し、特に「人間心理と人間行動」「人間関係とコミュニケーション」「健康障害と治療Ⅲ」「社会福祉学」「看護展開論」「精神看護学概論」をベースに、知識をより深め、看護実践能力を身につけましょう。積極的な授業参加を求めます。

実務経験のある教員等による授業科目（実務経験と当該授業科目との関連）

該当なし

【専門教育科目】

授業科目名	授業科目コード	配当年次時期	履修方法	単位数 時間数	授業 形態	開講曜日 時限
小児看護援助論	532	3前	必	2単位 60時間	講義 演習	火3～5
担当教員（○印＝科目責任教員）						
○ 鈴木千衣 SUZUKI, Chie email address c-suzuki●saku.ac.jp				研究室	5号館3階307	
小林 睦 KOBAYASHI, Mutsumi email address m-kobayashi●saku.ac.jp				研究室	5号館2階207	
橋本佳美 HASHIMOTO, Yoshimi email address y-hashimoto●saku.ac.jp				研究室	5号館3階308	
石坂俊也 ISHIZAKA, Toshiya email address t-ishizaka●saku.ac.jp				研究室	1号館3階1320	
オフィスアワー／連絡先と連絡方法						
○ 鈴木千衣 毎週火曜日 12:10～12:50（研究室） 小林 睦 毎週水曜日 14:40～16:10（研究室） 橋本佳美 毎週水曜日 14:40～16:10（研究室） 石坂俊也 毎週水曜日 14:40～16:10（研究室） 質問は、メールでもお待ちしております（常時）。オフィスアワー以外の面談の予約もメールで可能です。						
授業の概要						
健康な小児各期の特徴に応じた生活と養護について理解した上で、健康障害が子どもの成長発達や家族に及ぼす影響を学ぶ。さらに、健康障害をもつ子どもの健康上の問題をアセスメントし、子どもと家族を援助するために必要な知識・技術を修得する。						
到達目標						
1. 子どもや家族がおかれた状況（苦痛を伴う処置や入院）を考慮し、子どもや家族の反応からその思いを理解できる。 2. 子どもと家族のもっている力を引き出すための援助方法を理解できる。 1) 子どもと家族の状況を把握するための情報収集の方法が理解できる。さらに、それを基に収集した情報をアセスメントして援助方法が考えられる。 2) 子どもと家族が自身の思いや考えを表出することができるような方法を理解できる。 3. 子どもと家族の力を育てるために、健康教育や治療への参加などの援助方法を理解できる。 4. 医療における子どもや家族の権利を考え、擁護する重要性を理解できる。 5. 自主的に学修する態度を身につける。 6. 学生同志グループとなって、自己の役割を理解し、協働しながら学修が進められる。						
卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連						
「看護実践の能力の基盤」「多様な健康のレベルと個別性に対応できる看護実践能力」となる力を身につける授業科目であり、また「学問を深め真理を探究していく態度・能力」「様々の領域の専門家と連携し、協働できる能力」にも関連します。						
授業計画						
回数	授業内容			授業方法	担当教員	
1・2	オリエンテーション 子どもと健康障害／子どもと入院			講義	鈴木	
3・4	症状と子どもの看護／子どもと外来看護①			講義	小林 鈴木	
5・6	治療・検査を受ける子どもの看護／小児のアセスメント			講義	小林 鈴木	
7・8	看護技術(グループA) 【母性小児看護実習室・在宅老年看護実習室】 事例のアセスメント(グループB)			演習 自己学習	石坂他	
9・10	看護技術(グループB) 【母性小児看護実習室・在宅老年看護実習室】 事例のアセスメント(グループA)			演習 自己学習	石坂他	
11・12	ハイリスク児の看護／子どもと外来看護②			講義・演習	小林 小林他	
13・14	病児と遊び①②			講義	特別講師	
15・16	子どもと外来看護③④ 【母性小児看護実習室・在宅老年看護実習室】			演習	小林他	
17・18	手術を受ける子どもの看護／障害児と看護①			講義・演習	小林 橋本他	
19・20	障害児と看護②／病気とともに生活する子どもの看護			講義	橋本 鈴木	
21・22	小児と救急／小児のアセスメント(事例展開)			講義・演習	小林 鈴木他	

23・24	障害児と教育①②	講義	特別講師
25・26	子どもと虐待／プレパレーションと患者・家族への指導（GW）	講義・演習	橋本 鈴木他
27・28	子どもと災害／障害児の在宅支援	講義	鈴木 特別講師
29・30	子どもと死／発表：プレパレーションと患者・家族への指導	講義	鈴木 鈴木他
授業時間外学修（準備学習を含む）の具体的な内容及びそれに必要な時間			
<p>予習：</p> <p>①テキストの関連箇所を読み、毎回 30 分の予習をしましょう。重要などころには、マーカーで印をつけておくこと。また、十分理解できない箇所には付箋をつけておいて、講義の中で疑問を解決できるようにしましょう。講義を聞いてもわからない箇所は、授業終了後、あるいはオフィスアワーの時間に質問してください。疑問を積み残さないようにしましょう。</p> <p>②看護技術についてはワークブックを配付します。また、文献リストには、看護技術のDVDの紹介も行っていますので、それらを用いて自己学習を進めておいてください。</p>		<p>復習：</p> <p>①授業で配付したレジメ・資料を基に、もう一度テキストの関連箇所を読んで、ノートの重要必要事項をまとめてください。</p> <p>②自己学習・グループワークの時間も授業内に設けていますが、学習の時間は授業外でも必要になります。うまく時間調整して行ってください。</p>	
テキスト及び参考書、参考文献・参考 URL 等			
<p>参考書：小児看護学概論で購入したものを使用してください。</p> <p>参考文献：小児看護技術に関する文献は、小児看護概論で配付した「文献リスト」の中でいくつか紹介してあります。自分が一番見やすいものをご購入してください。</p>			
成績評価の方法・基準			
<p>1. 小テスト（20%） 1回5点満点の小テストを4回行います。</p> <p>2. 筆記試験（50%） 全範囲から出題をします。合計点の50%を評価の対象とします。</p> <p>3. レポート（20%） レポート課題は2題あります。初回のオリエンテーション時に課題内容、提出締め切り、提出先をお知らせします。他の科目の課題の提出期限も考慮して、計画的に課題を行ってください。レポート点は各10点です。</p> <p>4. 外来と看護のパフォーマンス（5%） グループで事例をもとに、外来看護におけるトリアージを行っていただきます。そのパフォーマンスを採点します。</p> <p>5. プレパレーションのプレゼンテーション（5%：学生自己評価） 発表に向けた準備過程での参加度およびプレゼンテーションについて、学生一人一人自己評価します。自己評価票は後日配付します。</p>			
課題（試験やレポート）に対するフィードバックの方法			
<p>毎回の授業に関するご質問は、授業終了時、オフィスアワー時に受け付けます。これ以外の時間に研究室をお訪ねの際には、必ずメールでアポイントを取ってください。また、メールで問い合わせてください。メールあるいは直接お会いしてコメントいたします。課題のレポートについては原則コメントを書いて返却いたします。試験等の結果は、問い合わせが可能です。</p>			
担当教員からのメッセージ			
<p>授業の詳細は、初回のオリエンテーションで説明します。小児看護学概論のオリエンテーション時に配付した「レポートの書き方」「小児看護学 参考文献リスト」を初日に忘れずに持参してください。小児看護学概論をよく復習しておいてください。</p>			
実務経験のある教員等による授業科目（実務経験と当該授業科目との関連）			
該当なし			

【専門教育科目】

授業科目名	授業科目コード	配当年次時期	履修方法	単位数 時間数	授業形態	開講曜日 時限
母性看護援助論	542	3前	必	2単位 60時間	講義 演習	金1～3
担当教員（○印＝科目責任教員）						
○櫻井綾香 SAKURAI Ayaka 中田覚子 NAKATA Satoko, 湯本敦子 YUMOTO Atsuko 竹内良美 TAKEUCHI Yoshimi 他						
オフィスアワー／連絡先と連絡方法						
授業終了後30分間、教室で質問を受け付ける。 *オフィスアワー以外の面談予約はメールで可能。 櫻井：a-sakurai●saku.ac.jp 1号館2階 1214 中田：s-nakata●saku.ac.jp 1号館1階 1106 湯本：a-yumoto●saku.ac.jp 5号館3階 301 竹内：y-takeuchi●saku.ac.jp 1号館1階 1106						
授業の概要						
妊娠、分娩、産褥期の生理及びその生活上の課題を理解し、正常と異常の判別、障害の病態と治療法等を通して、母性とその家族を対象とした看護援助方法並びに援助技術について看護過程を展開しながら学ぶ。また、母性特有の健康障害、その症状や徴候、経過、検査、治療法等について学習し、必要な看護法や技術を学習し、効果的な看護を展開するための方法を習得し、実践へつなげていく力を養う。						
到達目標						
1. 妊娠期・分娩期・産褥期・新生児期にある対象の身体的、心理社会的・生理的变化を説明できる 2. 妊娠期・分娩期・産褥期・新生児期にある対象の正常経過からの逸脱時の診断・治療・看護について説明できる 3. 妊娠期・分娩期・産褥期・新生児期に特有の基礎的な看護技術を習得できる 4. 妊娠期・分娩期・産褥期・新生児期にある対象とその家族の変化を全体像を捉えてアセスメント・計画立案できる						
卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連						
母子とその家族に関わる看護職として必要な「多様な健康レベルと個別性に対応できる看護実践能力」となる力を身に付ける授業科目である。						
授業計画						
回数	授業内容	授業方法	担当教員			
1.	オリエンテーション 母性看護過程の特徴、妊娠の基本知識と妊娠の維持・胎児発育のための生理的变化 受精、着床、胎児、胎盤、ホルモン環境変化について説明できる 妊娠経過に伴う母体の全身変化と妊娠期各期の心身の特性 妊娠に伴う心身の変化、家族の変化について説明できる	講義	櫻井			
2.	妊婦の健康状態をアセスメントする為に必要な情報と看護技術 妊婦健康診査および妊婦の基本的ニードの変化とその支援方法について説明できる	講義	櫻井			
3.	妊娠中に起こりえる正常からの逸脱と看護	講義	中田			
4.	妊娠における異常とその要因、看護について説明ができる	講義	中田			
5.	【中間試験① 妊娠期】(出題範囲 1～4回講義内容) (15分)	講義	櫻井			
6.	妊娠期 事例を用いた看護過程の展開 妊娠期のアセスメントの実際を理解できる	講義	櫻井			
7.	産婦の健康状態をアセスメントする為に必要な情報 分娩期のアセスメントに必要な用語、分娩の3要素、分娩機転について説明できる	講義	櫻井			
8.	正常分娩の経過と産婦のアセスメントの視点と看護 分娩が母児に及ぼす影響、母児の状態が分娩に及ぼす影響と正常な分娩経過への援助について説明できる	講義	櫻井			
9.	分娩中に起こりえる正常経過からの逸脱と看護	講義	中田			
10.	分娩期における異常とその要因、看護について説明できる 産科処置、帝王切開時の看護について説明できる	講義	中田			
11.	【中間試験② 分娩期】(出題範囲 7～10回講義内容) (15分)	講義	櫻井			
12.	分娩期 事例を用いた看護過程の展開のアセスメント 分娩期のアセスメントができる	講義 演習	櫻井			
13.	褥婦の健康状態をアセスメントする為に必要な情報と看護技術及び健康課題への支援 褥婦の心身の変化とその看護について説明できる	講義	櫻井			
14.	母乳育児支援	講義	櫻井			
15.	乳汁分泌メカニズム、母乳育児が母子に及ぼす影響について説明できる 母乳育児支援へのアセスメント視点と看護について説明できる	講義	櫻井			
16.	産褥期に起こりえる正常からの逸脱と看護	講義	中田			
17.	産褥期における異常とその要因、看護について説明できる	講義	中田			

18.	新生児の健康状態をアセスメントする為に必要な情報と健康課題への支援	講義	中田
19.	新生児の体外生活への適応過程とその看護について説明できる		
20.	早期新生児の生理的変化と病理について説明できる		
21.	産褥期・新生児期 事例を用いた看護過程の展開	講義 演習	櫻井
22.	DVDから情報収集をし、情報を整理することができる		
23.	産褥期・新生児期の関連図を作成し、アセスメントの実際を理解できる		
24.	看護計画を立案できる		
25.	妊娠期の看護技術演習 腹囲・子宮底の測定、レオポルド触診法、胎児心音聴取法を習得できる	演習	中田 湯本 竹内他
26.	産褥期・新生児期の看護技術演習		
27.	産褥期の看護技術（乳房・子宮退縮・外陰部・肛門部及びその周囲の観察）、		
28.	新生児期の看護技術（全身の観察、沐浴）を習得できる		
29.	産褥期の看護計画の発表および看護計画の評価方法および関連図の解説	講義 演習	櫻井 中田
30.	作成した関連図を基に、情報のつながりを理解でき、全体像を捉えられる 実習オリエンテーション		
授業時間外学修（準備学習を含む）の具体的な内容及びそれに必要な時間			
<p>1. 妊娠期の看護過程</p> <p>①第5、6回の妊娠期の看護過程の時間までに各自事例（別紙資料）を読んでおく。</p> <p>②アセスメントを第8回目の授業終了後に提出する。</p> <p>2. 産褥期・新生児期の看護過程</p> <p>①第21回の産褥期の看護過程の時間までに各自事例（別紙資料）を読んでおく。</p> <p>②第30回目の授業終了後に、アセスメント及び産褥期・新生児期の要約を提出する。</p> <p>*各課題の提出方法および提出場所は別途指定する</p> <p>3. 看護技術の予習</p> <p>①演習前に、指定するコンテンツの動画を必ず視聴する。</p>			
テキスト及び参考書、参考文献・参考URL等			
<p>テキスト： 森恵美編. 系統看護学講座 母性看護学各論, 医学書院.</p> <p>参考文献： 井上裕美, 竹内正人, 木村正, 他. 病気がみえるVol.10 産科. MEDIC MEDICA.</p> <p>有森直子編. 母性看護学Ⅱ. 医歯薬出版株式会社.</p> <p>大平光子. 母性看護学Ⅱ マタニティサイクル, 南江堂.</p>			
成績評価の方法・基準			
<p>1. 筆記試験 75% （内訳：中間試験① 15%、中間試験② 10%、定期試験 50%）</p> <p>①中間試験①②は再試験を実施しない。</p> <p>②看護技術演習は必ず出席すること。</p> <p>2. 課題評価 25% （内訳：妊娠期の看護過程 10%、産褥期・新生児期の看護過程と要約 15%）</p> <p>①指定された提出時間を厳守すること。やむを得ない事情により提出が遅れる場合は、事前に教員に相談すること。事前の連絡なく、課題の提出が遅れた場合は評価の対象としない。</p> <p>②指定された用紙を使用すること（事例に必要な用紙は、各事例オリエンテーション時に配布する）</p> <p>③表紙（科目名、課題名、提出日、学籍番号、氏名）をつけて提出する。</p> <p>④レポートの最後には使用した文献（引用文献、参考文献）を必ず明記すること。</p> <p>⑤レポートはすべて手書きとする。</p>			
課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法			
課題については、ルーブリック評価表で評価し返却する			
担当教員からのメッセージ			
<ul style="list-style-type: none"> ・学習内容が多岐にわたりますので、必ず予習・復習を行ってください。 ・本科目で妊娠期・分娩期・産褥期・新生児期の一連の流れが分かると、実習での学びが深まります。 ・実習へ向けて、計画的に学習しましょう。 			
実務経験のある教員等による授業科目（実務経験と当該授業科目との関連）			
該当なし			

【専門教育科目】

授業科目名	授業科目コード	配当年次時期	履修方法	単位数 時間数	授業形態	開講曜日 時限
地域看護援助論Ⅰ（在宅看護）	552	3前	必	2単位 60時間	講義 演習	水3, 水4 (水1, 水2)
担当教員（○印＝科目責任教員）						
○鶴岡 章子／TSURUOKA, Shoko	s-tsuruoka●saku.ac.jp	研究室	5号館3階305			
藤井 千里／FUJII, Chisato	c-fujii●saku.ac.jp	研究室	1号館3階1311			
関本 真奈美／SEKIMOTO, Manami	m-sekimoto●saku.ac.jp	研究室	1号館1階1106			
安川 揚子／YASUKAWA, Yoko	y-yasukawa●saku.ac.jp	研究室	1号館2階1213			
上野 良子／UENO, Ryoko	r-ueno●saku.ac.jp	研究室	1号館3階1313			
嶋崎 八恵子／SHIMAZAKI, Yaeko	y-shimazaki●saku.ac.jp	研究室	1号館2階1221			
オフィスアワー／連絡先と連絡方法						
授業終了後30分間、教室または研究室 質問および面談の予約は、メールで受け付けます。						
授業の概要						
地域で疾病や障がいを抱えて生活する個人とその家族の希望や強みに寄り添って看護を展開する方法を制度や医療機関及び地域の仕組みと関連させて理解する。さらに、訪問看護師を含む在宅ケアチームにおけるマネジメント、多職種連携と看護職の役割、必要なサービス資源開発の方向性等、地域ケアシステムと在宅看護の関連性について学ぶ。						
到達目標						
<ol style="list-style-type: none"> 1. 在宅看護が必要とされる背景、歴史、基盤となる制度、ケアシステムなどについて説明できる。 2. 在宅看護の対象である療養者とその家族の特徴について理解し、生活の場で行われる看護の役割について説明できる。 3. 保健・医療・福祉を中心とした多職種との連携および看護の継続性について説明できる。 4. 在宅看護の展開に必要な看護技術を理解し、在宅療養者とその家族に向けた適切な看護援助の基本を修得する。 						
卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連						
<ul style="list-style-type: none"> ・多様な健康レベルと個別性に対応できる看護実践能力 ・地域特性と文化的多様性を理解し、健康課題を捉える能力 						
授業計画						
回数	授業内容	授業方法	担当教員			
1	科目オリエンテーション、在宅看護の目的と特徴、在宅看護が求められる背景	講義	鶴岡			
2	在宅看護の対象理解①	講義	鶴岡			
3	在宅看護の対象理解②	講義	鶴岡			
4	在宅看護に関する制度①（訪問看護の歴史と現行の制度）	講義	藤井			
5-6	在宅看護に関する制度②（介護保険制度と地域包括ケアシステム）	講義	藤井			
7	在宅ケアマネジメントとケアマネージャーの役割、多職種連携	講義	鶴岡			
8	在宅看護における看護師の役割	講義	藤井			
9-10	訪問看護の実際	講義	特別講師			
11-12	家族介護の実態と家族への支援	講義	特別講師			
13	介護保険の実際（地域包括支援センターの活動）	講義	特別講師			
14	在宅看護における看護過程の展開方法	講義	藤井			
15	在宅看護におけるヘルスアセスメント、関連図	講義・演習	藤井 在宅教員			

16	訪問看護事例の展開（情報収集、関連図）	演習	在宅教員
17	訪問看護事例の展開（看護の焦点）	演習	在宅教員
18	訪問看護事例の展開（計画、実施、評価）	演習	在宅教員
19	訪問看護事例の展開（まとめ）	演習	在宅教員
20	在宅における終末期ケアの実際（在宅での看取りとグリーフケア）	講義	安川(老年)
21-22	在宅看護技術演習① 初回訪問 （訪問時のマナー・心得）	講義・演習	関本・藤井
23-24	在宅看護技術演習② フットケア	講義・演習	上野(PCAN)
25-26	在宅看護技術演習③ 呼吸の援助 / 在宅酸素療法と在宅補助換気療法	講義・演習	特別講師
27-28	在宅看護技術演習④ 訪問看護に必要な看護技術（在宅における洗髪） 家庭にある物品を活用した看護ケア	演習	関本・藤井
29	在宅高齢者（療養者）の健康維持・増進のための支援	講義・演習	鶴岡・関本
30	在宅・地域看護学実習について	講義	関本

授業時間外学修（準備学習を含む）の具体的な内容及びそれに必要な時間

1. 授業内容に合わせて、事前にテキストの当該箇所を読み予習をする。他科目で学修した事項は確認しておく。わからない箇所について印をつける（1時間）。授業内に疑問を解消する。
2. 授業後、レジュメや資料を基に、授業内容について復習する。重要事項をノートに工夫して整理する（1時間）。
3. 演習内容は在宅看護実習で必要な看護技術であるため、根拠をふまえて実施できるように準備しておく（2時間）。
4. 提示するレポート課題は、テーマに関連する体験記、新聞記事、雑誌、文献、学生自身の体験などをおして学修を深め、レポートを作成する（各5時間）。

テキスト及び参考書、参考文献・参考URL等

テキスト：河原加代子他(2019). 在宅看護論, 医学書院.

参考文献：石垣和子他(2017). 在宅看護論, 南江堂.

臺有桂他(2019). 在宅看護論① 地域療養を支えるケア, メディカ出版.

臺有桂他(2019). 在宅看護論② 地域療養を支える技術, メディカ出版.

正野逸子他(2014). 在宅看護過程, メヂカルフレンド社.

他、授業内で紹介する。

成績評価の方法・基準

- ・筆記試験（60%）
- ・看護過程/演習時ワークシート（20%）
- ・レポート（10%）
- ・授業参加状況（10%）

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

- ・定期試験等の結果については、問い合わせに応じる。
- ・提出課題は、原則コメントを入れ返却する。

担当教員からのメッセージ

- ・本科目では、在宅看護に関する基本的な知識・技術・態度を学びます。他科目で既に学んだ知識・技術を基に学修を進めていきますので、予習・復習に力を入れましょう。
- ・在宅看護の対象は「患者」ではなく「生活者」です。疾病や障がいを持ちながら療養生活をしている「生活者」に提供する看護とはどのようなものか、看護を展開していくために何が重要なのかを一緒に学んでいきましょう。

実務経験のある教員等による授業科目（実務経験と当該授業科目との関連）

該当なし

【専門教育科目】

授業科目名	授業科目コード	配当年次時期	履修方法	単位数 時間数	授業 形態	開講曜日 時限
地域看護援助論Ⅱ（地域健康支援）	553	3前	自 (保) 必	2単位 60時間	講義 演習	木3～5
担当教員（○印＝科目責任教員）						
○佐藤美由紀/SATO Miyuki、細谷たき子/HOSOYA Takiko、川口桂嗣/KAWAGUCHI Keiji、佐藤紀子/SATO Noriko、嶋崎八恵子/SHIMAZAKI Yaeko						
オフィスアワー／連絡先と連絡方法						
○佐藤美／毎週火曜日13:00～17:00、木曜日9:00～12:00、メールやmanabaでは随時質問を受けます。 佐藤美：m-sato●saku.ac.jp、細谷：t-hosoya●saku.ac.jp、川口：k-kawaguchi●saku.ac.jp、 佐藤紀：n-sato●saku.ac.jp、嶋崎：y-shimazaki●saku.ac.jp						
授業の概要						
地域で生活する人々の健康障害の予防、健康の保持増進を支援する看護職の活動と役割を理解し、集団の健康ニーズに対応した保健活動の展開方法を理解する。生活習慣病予防、子育て支援、介護予防などのライフステージに即した予防的な健康課題を例に、健康診査-健康相談-健康教育-家庭訪問の方法とそれらをグループ活動-地区組織活動に発展させる保健師の支援方法を学ぶ。						
到達目標						
1. 地域で暮らす人々の生活を知り、対象別の健康課題を生活の視点からとらえることができる。 2. 対象別（ライフステージ別、課題別）の保健の動向と公衆衛生看護活動について説明できる。 3. 公衆衛生看護活動における支援の方法と基本的な知識を理解するとともに、個人・家族・集団・地域の支援を連動させながら地域全体の健康水準を高めていく公衆衛生看護活動の特徴を説明できる。 4. 公衆衛生看護活動の過程を理解し、地域診断や公衆衛生看護活動の評価方法を理解できる。						
卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連						
「国内外の地域特性と文化的多様性を理解し、健康課題を捉える能力」を培う授業科目であり、「多様な健康レベルと個別性に対応できる看護実践能力」「さまざまな領域の専門家と連携し、協力できる能力」に関連する科目である。						
授業計画						
回数	授業内容	授業方法	担当教員			
1	オリエンテーション・公衆衛生看護活動の特徴	講義	佐藤美			
2	母子保健(1) 母子保健概論(理念・変遷・施策)	講義	佐藤美			
3	母子保健活動(2) 母子保健活動の実際	講義	佐藤美			
4	母子保健活動(3) 児童相談所における児童虐待への取り組み	講義	特別講師			
5	成人保健活動(1) 成人保健概論(理念・変遷・施策)	講義	川口			
6	成人保健活動(2) 成人保健活動の実際(特定保健指導等)	講義	川口			
7	成人保健活動(5) 事例検討(グループワーク)	講義	川口			
8	成人保健活動(4) 健康増進活動①(食生活)	演習	特別講師			
9	成人保健活動(3) 健康増進活動②(運動)	演習	特別講師			
10	高齢者保健活動(1) 高齢者保健概論(理念・変遷・施策)	演習	細谷			
11	高齢者保健活動(2) 介護予防活動・認知症対策	講義	川口/佐藤美			
12	難病保健活動	講義	特別講師			
13	精神保健活動(1) 概論(理念・変遷・施策)	講義	細谷			
14	精神保健活動(2) 精神保健活動の実際	講義	特別講師			

15	感染症保健活動(1) 感染症保健活動概論(理念・変遷・施策)	講義	細谷
16	感染症保健活動(2) 感染症保健活動の実際	講義	特別講師
17	国際保健活動	講義	細谷
18	わが国における結核対策	講義	特別講師
19	歯科保健活動	講義	特別講師
20	個別的支援(1) 家庭訪問	講義	佐藤美
21	個別的支援(2) 新生児訪問①	演習	全員
22	個別的支援(3) 新生児訪問②	演習	全員
23	個別的支援(4) 健康相談	講義	佐藤美
24	健康教育理論	講義	川口
25	集団的支援(1) 集団健康教育	講義	川口
26	集団的支援(2) グループ・地域組織活動	講義	川口
27	地域的支援(1) 地域診断①	講義	佐藤美
28	地域的支援(2) 地域診断②(アセスメント)	演習	全員
29	健康教育および地域診断の実際	演習	全員
30	公衆衛生看護活動の過程(評価を含む)・まとめ	講義	佐藤美
授業時間外学修(準備学習を含む)の具体的な内容及びそれに必要な時間			
授業の内容を事前にシラバスで見て、保健医療福祉行政論、健康管理と生活習慣、地域看護学概論など、すでに他科目の授業で学習した事項は確認してから授業に臨む。復習は該当する教科書のページを読んでください。			
テキスト及び参考書、参考文献・参考URL等			
<p>テキスト：荒賀直子、後閑容子編(2017)．公衆衛生看護学. Jp. インターメディカル社 厚生労働統計協会. 国民衛生の動向</p> <p>参考文献：E. T. アンダーソン他金川克子、早川和生監訳(2008)．コミュニティアズパートナー 松本千明. 医療・保健スタッフのため健康行動理論の基礎(2002)．医歯薬出版 行動変容のための面接レッスン 行動カウンセリングの実践(2008)．医歯薬出版 他、授業の中で紹介する。</p>			
成績評価の方法・基準			
<ol style="list-style-type: none"> 筆記試験(70%)：内訳 授業での知識習得40%+国試問題30% レポート(20%)：演習で取り組む課題を資料にまとめて提出 授業参加状況(10%)：グループワークなど演習の参加態度 			
課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法			
授業時に説明する。			
担当教員からのメッセージ			
<ul style="list-style-type: none"> グループワークやバズセッションを取り入れながら授業を行います。積極的に参加してください。 ニュースに関心を持ち、社会情勢や健康問題の把握に努めてください。授業内容とニュースを関連させて健康課題を考えましょう。 看護の対象として地域(コミュニティ)を支援していくダイナミックな公衆衛生看護活動の魅力を学びましょう。 			
実務経験のある教員等による授業科目(実務経験と当該授業科目との関連)			
該当なし			

【専門教育科目】

授業科目名	授業科目コード	配当年次時期	履修方法	単位数 時間数	授業形態	開講曜日 時限
看護情報論	607	3前	選 (保) 必 (養) 必	1単位 15時間	講義	火2
担当教員 (○印=科目責任教員)						
○中嶋智子 (NAKAJIMA, Tomoko)						
オフィスアワー／連絡先と連絡方法						
授業後の12:10-12:50、そのほかの日程は下記のメールにて調整します。 中嶋智子 t-nakajima@saku.ac.jp						
授業の概要						
情報とは何か。病院、地域医療の活動場面などの医療現場でどのように利用されるようになったのかその経緯を知ること、医療情報システム（電子カルテ）が有効に機能するための要件について講義する。						
到達目標						
あらゆる情報がネットワーク化されている時代です。さまざまな医療現場で看護師が情報機器（ICT）を活用し、多職種と情報共有しながらケアしています。医療における情報の倫理的、法的、社会的影響について理解することを目指します。						
<ol style="list-style-type: none"> 1. 情報の定義と特性について理解できる。 2. 多くの情報のなかから信頼性の高い情報を取捨選択できる。 3. 保健医療分野の情報システム化（電子カルテ）の経緯と医療情報ネットワークの現状がわかる。 4. 多職種との連携において看護情報を共有する意味を理解できる。 5. 患者の個人情報保護における看護職の責務と倫理的課題がわかる。 6. 看護の対象者の情報を適切に扱う（管理）方法がわかる。また、情報漏洩時の社会的影響について考えることができる。 7. 医療情報の将来のあり方について自らの考えを明確にできる。 						
卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連						
「多様な領域の専門家と連携し、協働できる能力」を身につける授業科目である。						
授業計画						
回数	授業内容	授業方法	担当教員			
1	コースガイダンス 情報とは何か 情報の定義と分類 認知科学と情報 色覚バリアフリーとユニバーサルデザイン	講義・演習	中嶋			
2	医療や健康情報の信頼性 インターネットと健康情報の収集 保健統計の見方	〃				
3	視覚情報における配慮：演習 相手に届く“ピクトグラム”を考えよう！	演習（PC室）				
4	医療情報システムと看護 保健医療分野の情報化の経緯と現状 病院情報システムと地域連携における医療情報ネットワーク	講義・演習				
5	看護支援システムと看護記録 看護情報の種類と特徴 看護支援システムのしくみ 看護記録の体系化・標準化の必要性	〃				

6	看護情報の倫理的側面 医療機関における個人情報の適切な取り扱いについて 患者の個人情報を守る看護職の責務 災害時の医療情報の管理	講義・演習	
7	五感をつかうプレゼンテーション	グループ発表	
8	まとめ：ビックデータ社会と医療情報の将来	講義・GW	
授業時間外学修（準備学習を含む）の具体的な内容及びそれに必要な時間			
時間外学修は、各回2時間程度（総16時間）が必要です。（以下は課題の例）			
【第2回課題】 インターネット上に掲載されている健康に関する情報を検索し、正しい情報と怪しい情報を収集して比較する。			
【第3-6回グループ課題】 相手に届く“ピクトグラム”をつくろう。相手にとってわかりやすさとは何かを考えながら情報発信ができるようにグループで演習する。			
テキスト及び参考書、参考文献・参考URL等			
テキスト： 指定しない。授業資料を配布しますが、下記の文献参照も推奨します。			
参考資料： ①中山和弘ほか. 系統看護学講座別巻 看護情報学. 医学書院, 2017年第2版, 2019年第3刷。 ②厚生労働省. 医療・介護関係事業者における個人情報の適切な取り扱いのためのガイダンス. (平成29年4月14日通知、同年5月30日適用) http://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/0000027272.html			
成績評価の方法・基準			
レポート 50% プレゼンテーションと成果物 30% 授業参加状況（グループ演習やmanabaへのレスポンスも含む） 20%			
課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法			
授業に関する質問は、毎回manabaで受けます。質問への回答は、翌授業時に行います。 レポート課題は、授業最終回に提示します。 個人レポートのフィードバックは、希望に応じて個別に対応します。			
担当教員からのメッセージ			
授業中responを使用する場合がありますので、携帯を忘れずに持参してください。（出席もmanabaで確認します。） 演習やグループワークはできるだけ積極的に参加してください。 身近な日常の情報から医療情報まで幅広い視点からの話題を扱います。日頃からニュースや新聞等で社会事情に関心をもってください。授業を通じて、みなさんと医療や看護の情報のありかたについて意見交換したいと思います。			
実務経験のある教員等による授業科目（実務経験と当該授業科目との関連）			
該当なし			

【専門教育科目】

授業科目名	授業科目コード	配当年次時期	履修方法	単位数 時間数	授業 形態	開講曜日 時限
家族看護論	608	3前	選	1単位 15時間	講義	月2
担当教員（○印＝科目責任教員）						
○安川揚子 (YASUKAWA, Yoko) y-yasukawa●saku.ac.jp (研究室 5号館3階302) 柿澤美奈子 (KAKIZAWA, Minako) m-kakizawa●saku.ac.jp (研究室 5号館2階207) 湯本敦子 (YUMOTO, Atsuko) a-yumoto●saku.ac.jp (研究室 5号館3階301) 鈴木千衣 (SUZUKI, Chie) c-suzuki●saku.ac.jp (研究室 5号館3階307)						
オフィスアワー／連絡先と連絡方法						
授業日の12:10-12:50、17:00-17:50 他の時間も歓迎します。事前にメール等で確認ください。 y-yasukawa●saku.ac.jp m-kakizawa●saku.ac.jp						
授業の概要						
家族の形成、家族関係の形成、家族間のコミュニケーション、協力体制等について家族の各過程を踏まえて学習し、健康問題を抱えた家族への援助のあり方について学ぶ。						
到達目標						
1. 家族とは何かを考え、自分の家族に対する価値観を認識するとともに、多様な捉え方があることを理解する。 2. 家族看護学の考え方を学び、家族を援助することの意義を理解する。 3. 家族看護に用いられる理論とアセスメントモデルを理解する。 4. 各期における家族の健康課題や問題とその支援について考えることができる。 5. 家族支援専門看護師の役割を理解し、活動の実際がわかる。 6. 多様な家族のあり様を理解し、自らの家族観を再考する。						
卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連						
社会人として基本的に必要な「豊かな人間性と幅広い教養」を育むための科目であり、さらに「多様な健康のレベルと個性に対応できる看護実践能力」を身につけるために必要な授業科目です。						
授業計画						
回数	授業内容	授業方法	担当教員			
1	コースオリエンテーション（本科目の進め方） 家族看護学とは ジェノグラム・エコマップの描き方 注)本オリエンテーション内容を十分に把握し、最終的に履修の有無を決定する。 復習：ジェノグラム、エコマップの描き方を復習し、自分の家族のジェノグラム・エコマップを描き、改めて自分の家族をふりかえる（1.5時間）。 Assignment①：ジェノグラム・エコマップ 提出締切：翌週講義前	講義	安川 柿澤			
2	家族について考える（家族とは 家族の機能 家族の健康とは） 本単元では、GW を中心に進めていきます。グループに分かれて、上記のカッコ内の問いについて話し合う。 復習：Assignment②：講義やディスカッションをふりかえり、 <u>家族の定義、家族の機能、健康な家族とは何か、自分の考えを800字でまとめる。</u> （1.5時間） 提出締切：翌週講義前	講義 GW①	安川 柿澤			
3	各期における家族の健康課題と支援 ①（家族のはじまりにおける課題） 講義と事例についてグループディスカッションを中心に進める。 復習：Assignment③：本講義の学びや感想を800字でまとめる。（1.5時間） 提出締切：翌週講義前	講義 GW②	湯本			
4	各期における家族の健康問題と支援 ②（病児とともに生活する家族） 本単元では、DVD 広がる病児のきょうだい支援 ～きょうだいにエールを贈る珠玉のメッセージ集～（藤村真弓監、秀行企画）を視聴する。それをもとにGWを行い、講義する。 復習：Assignment④テーマ：「病児のきょうだいについて思うこと」を800字でまとめる。（1.5時間） 提出締切：翌週講義前	講義 GW③	鈴木(千)			

5	<p>各期における家族の健康問題と支援 ③（精神障害者とともに生活する家族） 本単元は、事前課題を基にグループディスカッションを中心に進める。</p> <p>予習：指定の資料を読み、ワークシートの事前課題をまとめる。(0.75時間) 復習：<u>Assignment⑤：授業の学びをワークシートにまとめる。</u>(0.75時間) 提出締切：翌週講義前</p>	講義 GW④	柿澤
6	<p>各期における家族の健康問題と支援 ④（高齢者介護を行っている家族） 事例をもとに、グループディスカッションを行い、家族介護者の健康問題と支援について考える。</p> <p>復習：<u>Assignment⑥：本講義の学びと感想を800字でまとめる。</u>(1.5時間) 提出締切：翌週講義前</p>	講義 GW⑤	安川
7	<p>家族支援専門看護師の役割と活動の実際 家族支援専門看護師の役割・機能 専門看護師がとらえている臨床現場における家族が抱える問題 家族のとらえ方 家族が抱える問題のアセスメントと家族への支援</p> <p>復習：<u>Assignment⑦：本講義の学びや感想を800字でまとめる。</u>(1.5時間) 提出締切：翌週講義前</p>	講義	特別講師 今井美佳 (佐久医療センター)
8	<p>家族看護における理論・アセスメントモデル 講義：家族看護実践における理論とモデルを紹介する。</p> <p>復習：<u>Assignment⑧：「家族看護論」の授業における学びと感想を800字でまとめる。</u>(1.5時間)</p>	講義	特別講師 今井美佳 (佐久医療センター)

授業時間外学修（準備学習を含む）の具体的な内容及びそれに必要な時間

上記各回の授業計画の予習・復習の部分に記入してあります。

テキスト及び参考書、参考文献・参考URL等

参考文献：

- 鈴木和子，渡辺裕子(2012)．家族看護学 理論と実践 第4版，日本看護協会出版会．
山崎あけみ(2008)．家族看護学 19の臨床場面と8つの実践例から考える．南江堂．
上別府圭子，他(2018)．家族看護学．医学書院．

参考DVD：

藤村真弓監：拡がる病児のきょうだい支援 ～きょうだいにエールを贈る珠玉のメッセージ集～，秀行企画．

成績評価の方法・基準

下記の基準を参考にしてください。

1. GW参加度 (20%)

GW毎(①～⑤)自己評価票を配付します。それに沿って自己評価してください。

2. 小課題 (Assignment) (40%)

Assignmentを8題出します。Assignment①～⑧

所定の用紙に書いて、期限厳守で提出すること。評価基準を示します。

3. 最終レポート (40%)

8回の授業および自己学習を通して、あらためて家族について考え、自分の家族観を見つめなおし、あなたの家族観を1200字にまとめる。

初回のオリエンテーション時に、評価基準、提出締め切り、提出先をお知らせします。

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

毎回の授業に関することは直接（オフィスアワー利用）あるいはメールで問い合わせると、次の授業までにメールや直接のフィードバックを受けることができます。提出物は、原則返却します。その際、点数と必要時コメントを入れてお返しします。評価については、評価方法を事前に示します。

担当教員からのメッセージ

家族のとらえ方、家族への思いは十人十色です。この科目を通して、様々な家族観、看護観があることを知り、臨床の場で出会う患者・家族を理解し援助できるようにしましょう。

実務経験のある教員等による授業科目（実務経験と当該授業科目との関連）

該当なし

【専門教育科目】

授業科目名	授業科目コード	配当年次時期	履修方法	単位数 時間数	授業 形態	開講曜日 時限
地域看護システム論	554	4前	必	1単位 15時間	講義	月1,月2
担当教員（○印＝科目責任教員）						
○細谷たき子/HOSOYA Takiko、橋本佳美/HASHIMOTO Yoshimi、佐藤美由紀/SATO Miyuki、川口桂嗣/KAWAGUCHI Keiji、佐藤紀子/SATO Noriko						
オフィスアワー／連絡先と連絡方法						
授業日の12:30－13:00及び放課後 細谷たき子：t-hosoya●saku.ac.jp 橋本佳美：y-hashimoto●saku.ac.jp 佐藤美由紀：m-sato●saku.ac.jp 川口桂嗣：k-kawaguchi●saku.ac.jp 佐藤紀子：n-sato●saku.ac.jp						
授業の概要						
人々の健康の保持増進、疾病の予防、病気からの回復、誕生と成長、良い死を支援するために、看護職（保健師・助産師・看護師）が地域の様々な活動の場（医療機関・保健福祉機関・学校や労働の場など）において、多様な専門職や住民と連携し、地域ケアシステムの一員として期待される機能を発揮する方法について学ぶ。						
到達目標						
1. 高齢者の介護予防のケアシステムが理解できる 2. 療養が必要な地域住民へのケアシステムが理解できる 3. 障害児を育てる家族への地域ケアシステムを理解できる 4. 精神障害者への地域ケアシステムを理解できる 5. 地域で活動する住民の活動状況と役割を理解できる						
卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連						
国内外の地域特性と文化的多様性を理解し、健康課題をとらえる能力の養成に該当する。						
授業計画						
回数	授業内容	授業方法	担当教員			
1	高齢者・障がい者と地域包括ケアシステム ① 介護保険制度に基づく介護予防対策のケアシステムについて、地域包括支援センターによるサービス、および自治体が提供するサービスにどのようなものがあるか。 ② 認知症への地域包括ケアシステムを事例に沿って考える ③ 高齢者への支援	講義	細谷			
2	地域で療養を継続するためのケアシステム ① 退院時に療養者がどのように在宅サービスにつなぐことができるか。 ② 在宅療養において、住民はどのようなケアがうけられるか ③ 在宅で終末期を迎えるための支援	講義	細谷			
3	子育て支援と地域ケアシステム ① 現代の子どもがおかれている状況と支援の必要性 ② 医療機関や施設の中で見出される問題と地域支援の実際 ③ 当事者の力の大きさ ④ 療養が必要な児への病院と在宅サービスの連携 ⑤ まとめ	講義	橋本			

4	地域で住民の健康を支える公的サービスと住民の地区組織活動 ① 精神障害者への公的サービス ② 母子保健の公的サービス ③ 民生委員、保健補導員、食生活改善推進員等	講義 演習	細谷
5	グループワークによる事例検討 ① 高齢者支援事例(介護予防、要支援) ② 障害児家族への支援事例 ③ 精神障害者の支援事例	演習	細谷
6 7	事例検討の発表、及び評価 ① 高齢者支援事例 ② 障害児家族への支援事例 ③ 精神障害者の支援事例	演習	細谷 佐藤(美) 川口 佐藤(紀)
8	演習：「市民に学ぶ保健医療福祉の充実をめざす地域づくり」 ① 市民およびボランティアの講演 民生委員、保健補導員、食生活改善推進員による講話 ② 質疑応答	演習	細谷 佐藤(美) 川口 佐藤(紀)
授業時間外学修（準備学習を含む）の具体的な内容及びそれに必要な時間			
1. グループワークによる事例検討では、3年間で学習した保健福祉のサービスを勉強しなおしてください。 2. グループワークの評価は、学生同士、教員からの両方を含めます。			
テキスト及び参考書、参考文献・参考URL等			
テキスト：『国民の福祉と介護の動向2019/2020』厚生労働統計協会 参考文献：『公衆衛生看護学.jp』 インターメディカル 『保健医療福祉行政論』 医学書院 『国民衛生の動向』 厚生統計協会			
成績評価の方法・基準			
授業参加状況・事例レポート 40% 定期試験 60%			
課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法			
発表事例に対して、教員のコメントをフィードバックします。			
担当教員からのメッセージ			
保健衛生学、地域看護学概論、地域看護援助論Ⅰ、在宅・地域看護学実習等での学びを統合・発展させるために、活発なグループワークができることを期待する。			
実務経験のある教員等による授業科目（実務経験と当該授業科目との関連）			
該当なし			

【専門教育科目】

授業科目名	授業科目コード	配当年次時期	履修方法	単位数 時間数	授業形態	開講曜日 時限
地域看護援助論Ⅲ (地域健康支援システム)	555	4通	自 (保) 必	2単位 45時間	講義 演習	(前) 火1～3 (後) 水1, 水2
担当教員 (○印=科目責任教員)						
○佐藤美由紀/SATO Miyuki、細谷たき子/HOSOYA Takiko、川口桂嗣/KAWAGUCHI Keiji、佐藤紀子/SATO Noriko、 嶋崎八恵子/SHIMAZAKI Yaeko						
オフィスアワー／連絡先と連絡方法						
○佐藤美／毎週火曜日13:00～17:00、木曜日9:00～12:00、メールやmanabaでは随時質問を受けます。 佐藤美:m-sato●saku.ac.jp、細谷:t-hosoya●saku.ac.jp、川口:k-kawaguchi●saku.ac.jp、 佐藤紀:n-sato●saku.ac.jp、嶋崎:y-shimazaki●saku.ac.jp						
授業の概要						
地域全体の健康レベルのアセスメントから健康ニーズを明確化する方法、それに基づいて地域住民及び保健・医療・福祉の関係機関と連携して地域保健福祉事業を計画・実施・評価する方法を学ぶ。地域の健康を支えるための政策・施策のシステムを学び、地域特性にあった地域システムの必要性を理解する。集団健康教育、保健指導、家庭訪問の演習を通して、公衆衛生看護活動における基礎的支援技術を習得する。						
到達目標						
1. 既存資料や地区視診により地域のアセスメント、健康課題の抽出、対策の検討を通して、実習市町村の特性や健康施策の理解を深めるとともに、保健事業の施策化のプロセスを理解する。 2. 地域特性を踏まえた集団健康教育、保健指導、家庭訪問の演習を通して、基礎的实践力を身につける。 3. 地域における健康課題の解決、組織の目的達成、保健師が専門職として能力を発揮できる労働環境の整備のために必要な公衆衛生看護管理について理解する。						
卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連						
「国内外の地域特性と文化的多様性を理解し、健康課題を捉える能力」を培う授業科目であり、「多様な健康レベルと個別性に対応できる看護実践能力」「さまざまな領域の専門家と連携し、協力できる能力」に関連する科目である。						
授業計画						
回数	授業内容	授業方法	担当教員			
(前期)						
1	オリエンテーション／家族のアセスメント	講義	佐藤美/細谷			
2	家庭訪問(1)：新生児訪問計画の作成	講義・演習	佐藤美他			
3	家庭訪問(2)：新生児訪問の実際	演習	佐藤美			
4	地域診断(1)：地区アセスメント	講義・演習	佐藤美他			
5	保健指導：家庭訪問場面での保健指導	講義・演習	佐藤美他			
6	地域診断(2)：地区アセスメント	演習	全員			
7	地域診断(3)：地区アセスメント、地区踏査の方法	講義・演習	佐藤美他			
8	健康教育(1)：企画書の立案方法	講義	川口			
9	地域診断(4)：実習（地区踏査）で収集した情報の整理	講義・演習	佐藤美他			
10	健康教育(2)：企画立案	講義・演習	川口他			
11	公衆衛生看護管理／地域診断(5)：情報の統合	講義・演習	佐藤美他			
12	健康教育(3)：シナリオ作成	講義・演習	川口他			

13	地域診断(6)：健康課題の抽出	演習	佐藤美他
14	健康教育(4)：媒体作成	講義・演習	川口他
15	地域診断(7)：発表・討論①	演習	全員
16	地域診断(8)：発表・討論②	演習	全員
17	健康教育(5)：発表①	演習	全員
18	健康教育(6)：発表②	演習	全員
19	健康教育(7)：発表③・評価	演習	全員
(後期)			
20	公衆衛生看護過程(1)：実習市町村における健康課題の整理	講義・演習	佐藤美他
21	公衆衛生看護過程(2)：保健事業計画の作成	演習	全員
22	公衆衛生看護過程(3)：保健事業計画の発表①	演習	全員
23	公衆衛生看護過程(4)：保健事業計画の発表②	演習	全員
授業時間外学修(準備学習を含む)の具体的な内容及びそれに必要な時間			
<ol style="list-style-type: none"> 1. 地域看護学概論、地域看護援助論Ⅱ、担当する関連する科目を復習しておくこと。 2. 地域診断：地域診断に必要な資料検索・収集、演習の事前・事後課題に取り組む。 3. 保健指導・家庭訪問：演習に必要な知識の学習、演習に向けて事例のアセスメント・計画の作成に取り組む。 4. 健康教育：担当するテーマ(疾患等)についての事前学習、発表に向けた準備(シナリオ作成、媒体準備、デモンストレーション等)を行う。 5. 復習：教科書の該当ページを読み、要点を整理する。 			
テキスト及び参考書、参考文献・参考URL等			
<p>テキスト：荒賀直子、後閑容子編(2017)．公衆衛生看護学. Jp. インターメディカル社 厚生労働統計協会. 国民衛生の動向 2019/2020</p> <p>参考文献：地域看護学概論及び地域看護援助論Ⅱで使用した参考書、各市町村のホームページ</p>			
成績評価の方法・基準			
<ol style="list-style-type: none"> 1. 筆記試験(50%) 2. 家庭訪問演習(10%)：家庭訪問計画書 3. 健康教育演習(10%)：①健康教育企画書、②媒体、③健康教育の発表 4. 地域診断演習(10%)：①地域診断の各様式、②地域診断の発表 5. 保健事業計画作成演習(10%)：①保健事業計画書、②保健事業計画の発表 6. 授業参加状況(10%)：演習の参加態度 			
課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法			
<ul style="list-style-type: none"> ・健康教育、地域診断の発表については、授業内でフィードバックする。 ・提出物については評価後コメントをつけて返却する。 			
担当教員からのメッセージ			
<ul style="list-style-type: none"> ・看護総合実習と関連した講義・演習ですので、履修は保健師科目履修者に限ります。 ・健康教育や地域診断の発表は学生同士によるピア評価をします。 ・実習グループで協力しあいながら主体的に取り組みましょう。 			
実務経験のある教員等による授業科目(実務経験と当該授業科目との関連)			
該当なし			

【専門教育科目】

授業科目名	授業科目コード	配当年次時期	履修方法	単位数 時間数	授業形態	開講曜日 時限
看護学研究	603	4通	必	3単位 90時間	演習	—
担当教員（○印＝科目責任教員）						
○武田貴美子 TAKEDA, Kimiko email address k-takeda●saku.ac.jp 研究室 5号館3階 310 柿澤美奈子 KAKIZAWA, Minako email address m-kakizawa●saku.ac.jp 研究室 5号館2階 207 櫻井綾香 SAKURAI, Ayaka email address a-sakurai●saku.ac.jp 研究室 1号館2階 214 小野美香子 ONO, Mikako email address m-ono●saku.ac.jp 研究室 1号館3階 311 櫻井真智子 SAKURAI, Machiko email address m-sakukrai●saku.ac.jp 研究室 5号館2階 助手室 ※全専任教員が指導教員になります。						
オフィスアワー／連絡先と連絡方法						
○武田貴美子 毎週火曜日 12:10～12:50（研究室） 柿澤美奈子 毎週月曜日 12:10～12:50（研究室） 櫻井綾香 毎週木曜日 16:20～17:00（研究室） 小野美香子 毎週月曜日 12:10～12:50（研究室） 櫻井真智子 前期 毎週月曜日 12:10～12:50 / 後期 毎週月曜日 18:00～18:30（助手室） ※各指導教員と連絡方法を調整してください。						
授業の概要						
学生自身が関心のある看護現象を明らかにし、自ら問題意識を持ってテーマを追求し、科学的根拠を探り、分析、考察して論文にまとめる。この過程を通して看護活動を支える科学的根拠の重要性を理解し、効果的な看護活動を推進していくための基礎的能力を養う。						
到達目標						
1. 3年間の講義や実習等を振り返り、各自関心ある看護課題を明らかにできる。 2. 上記の看護課題をもとに、文献を読み、研究テーマを絞り込むことができる。 3. さらに、研究動機、目的、研究の意義を明らかにし、文献研究として研究計画書が立案できる。 4. テーマに沿って、文献のクリティークをしながら、適切な文献を収集することができる。 5. 目的に沿って分析を行い、結果が出せる。 6. 結果を考察し、論文としてまとめることができる。 7. 自分の研究成果を他の学生、教員等が理解できるようプレゼンテーションができる。 8. 他の学生との意見交換を通して、自分の学びが深められる。 9. 一連の研究活動を主体的・自律的に行える。 10. 一連の研究プロセスを通して、看護研究の意義や研究の倫理が理解できる。						
卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連						
本科目は、主に「学問を深め真理を探究していく態度・能力」を身に着けることをねらいとしている。3年生までの学修のすべてを統合、活用して行う科目である。						
授業計画						
回数	授業内容	授業方法	担当教員			
1-43	各領域、担当指導教員の指導のもと、各自研究を進め、論文を作成する。 配置される看護領域および担当指導教員によって、看護学研究の進め方は若干異なります。それぞれの領域、担当指導教員の指導に従ってください。 関心ある看護現象の明確化 テーマの絞り込み 文献検索の方法 図書館司書による「文献検索の方法の実際」についての説明会を開催 予定です。必ず出席してください。 研究倫理 研究計画書の作成 文献のクリティークと文献のまとめ 抄録・論文作成方法 発表方法	演習	各担当指導教員 図書館司書			
44・45	プレゼンテーション					

<p>授業時間外学修（準備学習を含む）の具体的な内容及びそれに必要な時間</p> <p>自律的に学習を進めていくことが求められます。論文提出に向けて、各自がどう進めていくのか計画を立てて、実行して行ってください。</p> <p>この科目は3単位90時間の内容です。つまり、面接（授業）＋自習時間として、週に3コマ（4.5時間の学習）が求められます。実習や国試勉強など他に必要な学習等も考え、計画的に行ってください。</p>
<p>テキスト及び参考書、参考文献・参考URL等</p> <p>テキスト：2年次の「看護研究方法」で使用したテキスト 参考文献：各担当指導教員にお尋ねください。</p>
<p>成績評価の方法・基準</p> <p>下記の内容について評価票を用いて評価します。</p> <p>1. 看護研究への取り組み状況（60%） 論文作成までの各自の取り組み状況の評価します。文献検索の学習会への参加状況、面接への参加状況（適切に面接を受けているか、ルールが守られているか）、自主的に自律的に研究を進められているか等を評価します。</p> <p>2. 論文（25%） 論文が提出期限までに提出されないと評価の対象とはしません。論文として必要事項が記されているか、目的、結果、考察に一貫性があるかどうか等を評価します。</p> <p>3. プレゼンテーション（15%） 各自、自分の研究成果をまとめ発表します。その発表状況、また他学生の発表への質疑応答状況も評価します。 ※最終評価は、学生にも評価票を用いて自己評価を行っていただきます。その評価を考慮して、各担当指導教員が評価を行います。</p>
<p>課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法</p> <p>基本的に個人ないしはグループ面接による指導を行っていきます。したがって、その都度、各自が学修してきた内容については、各担当指導教員からフィードバックがなされ、さらなる課題が課されます。 最終的には、6～10枚の論文と1枚の抄録にまとめて期日までに提出してください。さらに、発表会を設けて研究成果をプレゼンテーションします。</p>
<p>担当教員からのメッセージ</p> <p>看護学研究の流れ、論文の書き方、提出方法等については、4月のガイダンスにおいて「看護学研究の手引き」をお渡ししますので、各自よく読んでそれにしたがって進めてください。また、論文の提出や発表会については、改めてオリエンテーションを行います。進め方について、あるいは論文の執筆方法、提出方法、発表のしかたについて、質問のある方は、科目責任教員や担当教員にお尋ねください。</p> <p>また、看護学研究を進めるにあたって、困ったことが生じたときには、必要時は科目責任教員や担当教員にもご相談ください。</p> <p>2年次の看護研究方法をよく復習しておきましょう。随時、必要なオリエンテーションを入れながら進めていきます。オリエンテーションには必ず参加してください。</p>
<p>実務経験のある教員等による授業科目（実務経験と当該授業科目との関連）</p> <p>該当なし</p>

【専門教育科目】

授業科目名	授業科目コード	配当年次時期	履修方法	単位数 時間数	授業形態	開講曜日 時限
看護管理論	604	4前	必	2単位 30時間	講義	木3～5
担当教員（○印＝科目責任教員）						
○内山明子（UCHIYAMA, Akiko） a-uchiyama●saku.ac.jp（研究室 5号館2階208） 齋藤順子（SAITOU, Yoriko）						
オフィスアワー／連絡先と連絡方法						
内山：授業終了後に教室で受け付けます。オフィスアワー以外の面談の予約はメールで可能。						
授業の概要						
この授業は、看護活動を効果的に進めるための管理的視点を修得します。医療制度の中で看護が担う役割を理解し、看護ケアを効果的に提供するためのシステムやケアの経済的効果などについての理解を深めます。また、看護活動を組織、運営していくために必要な組織論、リーダーシップ論、チームワークのあり方などについて理解し、リスク感性についての理解と技術についても学修し、最終的に看護管理にかかわる今日的課題について考察していきます。						
到達目標						
この科目では、以下の4つを目指します。 1. 良質な看護サービスの提供を保証するために必要な管理の役割・機能を理解することができる。 2. 医療チームの一員として良好な人間関係を構築するために必要な知識・スキルについて説明することができる。 3. 近年の保健医療福祉政策の動向を踏まえた看護政策や看護経営のありかたを理解することができる。 4. 事例検討を通して既習の知識を統合し、自らの看護管理的視点を説明することができる。						
卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連						
この授業は、これまでの授業・実習を通して身につけてきた知識・スキル・態度の統合をする科目となっています。これまでの「豊かな人間性と幅広い教養」「学問を深め真理を探究していく態度・能力」「命の大切さを深く理解し、擁護する能力」「看護実践能力の基盤」「多様な健康のレベルと個性に対応できる看護実践能力」の学びをふりかえり、効果的・効率的および高品質な看護サービスを提供するために必要なマネジメントについて理解を深め、「様々な領域の専門家と連携し、協働できる能力」を学修する授業科目となっています。						
授業計画						
回数	授業内容	授業方法	担当教員			
1	オリエンテーション、人々の生活と看護①：看護の役割と看護活動の場	講義	内山			
2	人々の生活と看護②：保健医療システムと看護	講義	齋藤			
3	看護組織と看護サービス	講義	齋藤			
4	看護管理過程と看護部門の運営①：看護管理過程	講義	齋藤			
5	看護管理過程と看護部門の運営②：看護部門の運営	講義	齋藤			
6	看護の質と看護管理スキル①：看護の質保証と看護管理	講義	齋藤			
7	看護の質と看護管理スキル②：看護管理のスキル	講義	齋藤			
8	看護を取り巻く法律と制度	講義	内山			
9	看護と経営	講義	内山			
10	近年の保健医療福祉と看護の動き	講義	内山			
11	看護職と生涯学習①：看護職の教育	講義	内山			
12	看護職と生涯学習②：キャリア開発	講義	内山			
13-15	看護における課題解決 看護の場における管理課題と対策について、講義で学んだ知識やスキルを効果的に活用して、課題に取り組む。	演習	内山 齋藤			

<p>授業時間外学修（準備学習を含む）の具体的な内容及びそれに必要な時間</p> <p>1. 事前レポート提出 これまでの実習をふりかえり、「私が実習中に体験した看護管理とそこからの学び」と題して、レポートA4・1枚(表紙不要)を提出してください。課題名と学籍番号、氏名はヘッダーに記載してください。レポートは授業初日に提出してください。</p> <p>2. 授業開始後 近年の保健医療福祉政策は激しく変化しています。各自で、どのような変化があるのか、それは何ゆえか、そして今後どのような課題が発生する可能性があるのかを、新聞やニュースで考察しておいてください。また、これまでの既習学習や既習実習で気づいた看護管理に関する疑問をノートにまとめておいてください。授業中に活発に発言することを期待しています。 毎回の授業のあとで、「復習シート」を提供します。授業内容とテキストを活用し、理解を深めてください。テキストは毎回単元に合わせた内容部分を読解し、復習してください。(毎回30～60分)</p>
<p>テキスト及び参考書、参考文献・参考URL等</p> <p>テキスト：ナーシング・グラフィカ『看護管理 第4版』メディカ出版, 2018 参考文献：必要時プリント配布</p>
<p>成績評価の方法・基準</p> <p>下記の基準を参考にしてください。</p> <p>1. 授業参加状況（20%） ①毎回、教師から投げかけられる問いに対して誠実に向き合える。また活発に発言する。 ②グループワークでは積極的に提案をする。グループをまとめる行動をとることができる。 ③グループワークの発表では積極的に課題をまとめる。 ④20分以上の欠席や早退は欠席とする。</p> <p>2. 筆記試験（70%） 期末試験においては70%の換算をする。</p> <p>3. レポート（10%） 初回のレポートが期限内に提出でき、内容が課題に沿っている。</p>
<p>課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法</p> <p>1. 初回レポートについては教員が確認後に各自に返却します。それをグループワークで活用してください。 2. 復習シートは各自テキストを活用して記入してください。また友人とも相談しあってください。疑問な点があれば教員に質問してください。 3. グループワークの発表に対しては、その場で教員から評価を伝えます。</p>
<p>担当教員からのメッセージ</p> <p>看護管理は、看護師が対象者に最適・最良の看護が提供できるように資源を効果的に活用し、成果を出すよう調整を図ります。そのためには、まず皆さんが「看護とは何か」を明確にしておく必要がありますので、文章化しておくことで授業が理解しやすくなります。 そして自分たちが目指す看護をどのようにすれば、効果的かつ効率的に達成できるのかを主体的に発言してください。一緒に考えていきましょう。</p>
<p>実務経験のある教員等による授業科目（実務経験と当該授業科目との関連）</p> <p>該当なし</p>

【専門教育科目】

授業科目名	授業科目コード	配当年次時期	履修方法	単位数 時間数	授業 形態	開講曜日 時限
看護リスクマネジメント	605	4後	必	1単位 15時間	講義	火2
担当教員（○印＝科目責任教員）						
○内山明子／UCHIYAMA, Akiko a-uchiyama●saku.ac.jp 研究室：5号館2階208						
オフィスアワー／連絡先と連絡方法						
内山：授業終了後、教室で質問を受けます。 質問はメールでも可能です。オフィスアワー以外の面談はメールで予約してください。						
授業の概要						
ヒューマンエラーの定義を学び、人がなぜ間違いを犯すのかを理解し医療安全を学ぶことの意義を認識する。「安全」については、患者の安全と同時に医療を提供する者や施設を利用する人全ての安全について理解する。また、事故防止の考え方を学ぶために、リスクの回避方法の原則について理解を深め、医療現場で起きている事故事例から看護におけるリスクマネジメントについて考察する。						
到達目標						
1. 医療安全とリスクマネジメントの歴史と動向を理解することができる。 2. 医療におけるリスクマネジメントの方針と国・組織の安全対策を理解することができる。 3. ヒューマンエラーとマネジメントの考え方を理解することができる。 4. 看護業務における事故対策について説明することができる。 5. 医療事故後の対応と紛争化の防止対策について理解することができる。 6. 事例をもとに医療事故を分析し、発生要因と防止対策を述べるすることができる。						
卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連						
本科目は、「豊かな人間性と幅広い教養」「命の大切さを深く理解し、擁護する能力」「看護実践能力の基盤」「多様な健康レベルと個性に対応できる看護実践能力」を統合し、臨床で活用する「様々な領域の専門家と連携し、協働できる能力」を養うための必修科目である。						
授業計画						
回数	授業内容	授業方法	担当教員			
1	コースガイダンス：科目の概要と授業の進め方 医療安全とリスクマネジメントの歴史と動向を学ぶ。 1) 法律と医療安全 2) 国内における医療事故の概要	講義	内山			
2	医療におけるリスクマネジメントの方針と国・組織の安全対策を学ぶ。 1) 医療安全に関する国の取り組み ① 国の医療安全における取り組みの経緯 ② 医療安全対策の考え方 2) 医療機関における安全管理体制 ① 医療安全対策の法的義務付けと実際 ② 診療報酬における医療安全対策の評価 ③ 全員参加の医療安全	講義	内山			
3	ヒューマンエラーとマネジメントを学ぶ。 1) 医療事故発生のメカニズム ① ヒューマンエラーと人間特性 ② ヒューマンファクター工学のモデル 2) 医療事故対策の考え方 ① リスク低減の考え方 ② エラーブーフ ③ リスクマネジメント	講義	内山			
4	看護業務における事故対策を学ぶ。 1) 看護業務と医療事故発生要因 2) 医療事故の種類、分析と対策 3) 在宅における医療事故と安全対策 4) 専門職としての個々の備え（看護職賠償責任保険制度）	講義	内山			

5	医療事故後の対応と紛争化の防止対策を学ぶ。 1) 医療事故の報告制度 ①医療法における報告体制 ②医療事故情報収集等事業 2) 医療事故調査制度 3) 医療事故紛争化の防止 ①コンクリフトマネジメント ②ADR（裁判外紛争処理）とメディエーション	講義	内山
6	危険予知力を身につける。 1) KYTとは 2) イラストを使用したリスクセンストレーニング（個人ワーク） 3) 動画を用いたKYT（グループワーク）	講義・演習	内山
7-8	事事故例の分析を学ぶ。 1) 事故分析方法の特徴 ①事故発生後の原因分析（SHEL, 4M-4E, RCA） ②危険箇所の特定と事故発生予防分析（FMEA）	講義・グループワーク	内山

授業時間外学修（準備学習を含む）の具体的な内容及びそれに必要な時間

【予習】

1. 授業開始前に新聞報道や文献を参考に、近年の医療事故について概観しておく。(30分程度)
 2. テキストの関連箇所を読み、理解できない箇所には付箋等を付けておき、授業中に解決できるようにしましょう。(30分程度)
- また、日ごろから新聞やニュース等で、医療事故などに関心を持ちましょう。

【復習】

授業で配布した資料と、テキストの関連箇所を読み直して、理解できているかどうかを確認してください。(30分程度)
国家試験の過去問を解いてみるなどして、知識の定着を確認してください。

テキスト及び参考書、参考文献・参考URL等

【テキスト】

松下由美子, 杉山良子, 小林美雪編(2018). ナーシング・グラフィカ 看護の統合と実践② 医療安全 第3版. メディカ出版

【参考文献】

相馬孝博著(2016). 医療安全BOOKS2 ねころんで読めるWHO患者安全カリキュラムガイド. メディカ出版

成績評価の方法・基準

1. 筆記試験 (80%)
授業終了後試験1回で評価します。全範囲から出題します。
2. 授業参加状況 (10%)
グループワーク参加度、成果の発表、発表の仕方を評価します。
3. レポート (10%)
課題レポートを評価対象とします。**全国の医療機関で起きた医療事故の『状況、要因、対策』について最低1事例をまとめ、初回授業に提出してください。(表紙不要、A4・1枚程度)**

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

事前課題レポートは、提出後評価し7,8回の授業までに返却をします。(返却したレポートは、7,8回のグループワークに活用します。)

担当教員からのメッセージ

医療安全の基本は「できていて当たり前」でありながら、「当たり前のことを当たり前にする」ことほど難しいものはありません。医療者は「ミスをしたらどうしよう」「どこまで確認すれば大丈夫なのだろう」などの不安や疑問を感じながら、現場で「患者の安全」を守るために日々取り組んでいます。この授業を通して、医療安全がどのように確立されてきたのか、現場ではどのようなエラーがおこっているのか、またその対策はどのように施されているのか、プロフェッショナルとしてどのような力を修得していかなければならぬのかなど、「安全に医療を提供するための当たり前のこと」を学ぶ機会としていきたいと思えます。

「どんな人間でも、間違いからは逃れられない」ことを意識して、真剣に学習を進めていきましょう。

実務経験のある教員等による授業科目（実務経験と当該授業科目との関連）

該当なし

【専門教育科目】

授業科目名	授業科目コード	配当年次時期	履修方法	単位数 時間数	授業 形態	開講曜日 時限
災害看護論	606	4前	必	1単位 30時間	講義	火4,火5 集中
担当教員（○印＝科目責任教員）						
○小原真理子（OHARA, Mariko） 喜多村定子（KITAMURA, Sadako） 石坂俊也（ISHIZAKA, Toshiya）		岩崎弘子（IWASAKI, Hiroko） 藤井千里（FUJII, Chisato） 佐藤紀子（SATO, Noriko）		川口桂嗣（KAWAGUCHI, Keiji） 阿藤幸子（ATO, Sachiko）		
オフィスアワー／連絡先と連絡方法						
授業終了後に教室で質問を受け付ける。						
授業の概要						
災害が人々の健康と生活へ及ぼす影響について学ぶ。更に災害サイクルに伴い変化する、看護職が果たす役割、医療チームにおける他職種との連携についても学ぶ。具体的には、災害直後・初期に発生する被災者の健康・生活上の問題と対応する看護実践の理解、更に被災者にもたらす中・長期的な身体的、心理的、社会的な影響と看護の役割について学ぶ。また災害への備えとして、防災の視点から自助、共助、公助、地域防災についても学ぶ。						
到達目標						
<ul style="list-style-type: none"> ・災害時に発生する人々のニーズと健康問題を理解し、災害サイクルに伴い被災者にもたらす急性期、中・長期固有の身体的、心理的、社会的な影響と看護職が果たす役割について説明できる。 ・災害への備えとして、自助・共助（地域防災を含む）・公助の意味と具体策について説明できる。 						
卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連						
「多様な健康レベルと個性に対応できる看護実践能力、他職種との連携のあり方」を身につける授業科目であり、急性期の実践能力として、START式トリアージのスキル等を習得することをねらいとしている。						
授業計画						
回数	授業内容	授業方法	担当教員			
1-3	災害の基本 災害看護とは、災害に関する法律、災害の種類と疾病構造、感染症とパンデミック、災害関連死、災害サイクルと活動の場、災害看護とその役割 災害発生時における病棟看護職の情報・判断・行動（映像シミュレーション）	講義/演習	小原			
4	被災者特性と看護 要配慮者とは、要配慮者への支援、災害関連死					
5	災害時の心理的影響とケア 被災者や援助者に生じる心理的影響、こころのケアとは コミュニケーションスキル					
6-7	避難生活の課題とその対策（千曲川氾濫による水害） 避難所や車中避難における健康・生活上の課題とその対策 中長期支援活動の拠点である仮設住宅、災害復興住宅における看護活動					
8	要配慮者トリアージ、避難所におけるケア					
9	災害への備えと看護の役割 自助・共助・公助との関連、地域防災					
10	災害と倫理 災害における倫理とはなにか、被災者との関係、他職種連携から					
11	災害時のトリアージ			演習	岩崎	

12	病院における防災対策と災害発生時の体系的対応	講義	岩崎
13	平常時の保健活動と災害対策 地域における災害に備えた保健活動の展開	講義	川口
14-15	避難所における看護支援の実施 避難所生活者への看護活動と役割	演習	喜多村他
授業時間外学修（準備学習を含む）の具体的な内容及びそれに必要な時間			
テキスト及び講義資料を用いて、学習したことを整理し、復習しておくこと。 1回の授業について、1時間程度復習を行うこと。			
テキスト及び参考書、参考文献・参考URL等			
テキスト：『災害看護学 心得ておきたい基本的な知識』第3版、南山堂			
成績評価の方法・基準			
筆記試験（80%） 演習参加状況（20%）			
課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法			
授業時に説明する。			
担当教員からのメッセージ			
演習時の服装・持ち物については、授業内で周知する。			
実務経験のある教員等による授業科目（実務経験と当該授業科目との関連）			
該当なし			

【専門教育科目】

授業科目名	授業科目コード	配当年次時期	履修方法	単位数 時間数	授業形態	開講曜日 時限
看護教育論	609	4前	選	1単位 15時間	講義	水3, 水4
担当教員（○印＝科目責任教員）						
○吉田文子 / Fumiko Yoshida fy200●saku.ac.jp (5号館306)						
オフィスアワー／連絡先と連絡方法						
授業後～19時（直接研究室306へ訪問可）						
授業の概要						
看護教育の基本となる教育の目的と役割、看護教育の変遷、看護教育制度、教育課程、学習方法やその意義、効果、評価の方法等について理解し、看護教育の現状と課題について考察する。生涯学習が必要な看護の専門性についての理解を深める。						
到達目標						
以下の5つのCourse outcomesを目標とします。 1. 看護職者における継続教育の意義を述べることができる。 2. これまでの大学生活をふりかえり、自己教育力を高める方法を実践することができる。 3. 将来のキャリア開発に役立つキャリアビジョンを描くことができる。 4. 新人看護師・保健師教育の実態と課題・展望についてディスカッションをすることができる。 5. 4年間で各自が抱えてきた課題を明らかにし、それについてプレゼンテーションをすることができる。						
卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連						
(学生便覧参照のこと) 教育目標7つのうちの、「Ⅱ群 学問を深め真理を探究していく態度・能力」を培う科目として位置づけられている。特に出口教育となる卒業期の選択科目であり、受講生それぞれにとって「学問への真理探究的姿勢」をより身につけたいと思う人へ提供したい科目である。授業終了後には、授業前には味わえなかった知的満足度が味わえることであろう。						
授業計画						
回数	授業内容	授業方法	担当教員			
1	授業目的と学修動機の確認からプロジェクトを考える	講義	吉田			
2	自身が受けている教育：カリキュラムの変遷を通して考える					
3	人はなぜ学ぶのか：教育と学習の観点から考える					
4	キャリア開発1：対象理解と自己理解を作業を通して知覚する					
5	キャリア開発2：看護職者の学習ニーズを学び、自身のありかたを考える					
6	新人看護師への教育：複数の医療施設教育プログラムから自身の将来をイメージ化する					
7・8	まとめ：各自が身につけた力の披露としてのプレゼンテーション					
授業時間外学修（準備学習を含む）の具体的な内容及びそれに必要な時間						
授業での疑問をもとにしたアサインメント（宿題）を課しますので、事前学習が必要です。その詳細は初回授業で提示します。						
テキスト及び参考書、参考文献・参考URL等						
テキスト：指定なし 参考文献：授業内で提示する						

成績評価の方法・基準
<ul style="list-style-type: none">■ アサインメント（20%） アサインメントシートを配付します。■ プレゼンテーション（40%） 科目独自の評価票を用いて相互評価をします。■ ポートフォリオ（40%） 課題に沿って作成していきます。
課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
全ての評価は、成績とともにアドバイザー一覧表で返却します。 <ul style="list-style-type: none">■ アサインメント（20%） アサインメントシート内にアドバイスします。■ プレゼンテーション（40%） 科目独自の評価票の中でアドバイスします。■ ポートフォリオ（40%） 今後の学習・キャリアへのアドバイスを含めたフィードバックをシートに記載し返却します。
担当教員からのメッセージ
<p>この授業では、自身が受けてきた看護学教育をふりかえり、そこで課題を見出し、解決できることを目標としています。例：なぜグループワークは必要かなど教育方法に関すること、大卒看護師と専門学校卒看護師との違いなど教育課程に関すること。</p> <p>この授業で扱うことを通して、新人看護師・保健師など入職1年目の不安の解消にもなるかもしれません。受講するか迷った場合は、受講されることをお勧めできます。</p>
実務経験のある教員等による授業科目（実務経験と当該授業科目との関連）
該当なし

【専門教育科目】

授業科目名	授業科目コード	配当年次時期	履修方法	単位数 時間数	授業形態	開講曜日 時限
国際看護論	610	4前	選	2単位 60時間	演習	月5 集中
担当教員（○印＝科目責任教員）						
○東田吉子（TUKADA, Yoshiko） 櫻井真智子（SAKURAI, Machiko）						
オフィスアワー／連絡先と連絡方法						
事前連絡による予約制：研究室に在室時、又はメールで事前に連絡してください。個別に対応します。 E-mail：y-tsukada@saku.ac.jp						
授業の概要						
国際的視点での健康状況の把握や看護の状況について理解する。諸外国の社会・経済、教育や文化などに起因する健康問題とそれに対応する看護活動のあり方を学ぶ。多様な状況下、多様な価値観や習慣、伝統のあるところで、看護援助をどのように効果的に進めるべきかを考察し、国際的な看護協力のあり方を理解する。国際的な視野で看護活動のあり方を学習することにより、地球上の人々の健康問題に対する看護の貢献について視野を広げる。						
到達目標						
事前学習の到達目標： 1. 日本の看護教育システムについて、説明できる。 2. 日本の社会の特徴である少子高齢化社会の課題について、グループ学習を通して理解を深める。 3. タイの文化、保健医療、看護教育システムについて文献により理解する。 現地での講義・演習による到達目標： 1. 日本とタイの相違点、および類似点について、事前学習および現地で演習した範囲において説明できる。 2. 現地での学習・交流を通してコミュニケーション能力を高め、国際的な視野を広げる。						
卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連						
「Ⅵ. 国内外の地域特性と文化的多様性を理解し、健康課題を捉える能力」を身につける授業科目である。						
授業計画						
回数	授業内容	授業方法	担当教員			
1	オリエンテーション：全体の流れについて説明する。 1) 事前学習について：4月・5月・6月に月1回の事前学習を行う。 （8月までにブラパ大学学部生の来日に合わせて、事前情報交換会を計画） 2) 現地での生活、および講義、施設見学について説明する。 3) 帰国後のレポート提出について説明する。	講義	東田			
2	日本の看護教育、佐久大学の状況、日本の文化について再確認し、自国の状況について、ブラパ大学の学生と情報交換できるように準備する。―5月	グループ学習、 発表	東田			
3	日本社会の特徴である少子高齢化社会、10大疾病、10大死因など、日本の保健医療について学び、タイとの比較ができるようにまとめる。―6月	グループ学習、 発表	東田			
4, 5	タイの文化、保健医療、看護教育等について文献を通して学習する。―7月	グループ学習、 発表	東田			
6-11	タイの学生との討議テーマについて集中的に準備をする。―渡航前	グループ学習	東田			
12-30	現地集中講義・演習：2020年8月18日（火）出発～27日（木）帰国 ブラパ大学での講義、近隣の第一次医療施設～第三次医療施設の見学、高齢者、および母子の家庭訪問、高齢者施設、HIV/AIDS関連施設を見学する。講義は、ブラパ大学の教員が担当する。必要に応じて佐久大学の担当教員が通訳をする。	講義・演習	東田他			
授業時間外学修（準備学習を含む）の具体的な内容及びそれに必要な時間						
グループ学習、発表の準備：日本の看護教育・病院の状況、日本の高齢者ケア、母子保健等についてタイと比較できるように準備しておくことが必要であり、1年次から学んできた日本の状況についてグループの中で、各人が分担し、まとめる時間が必要となります。						

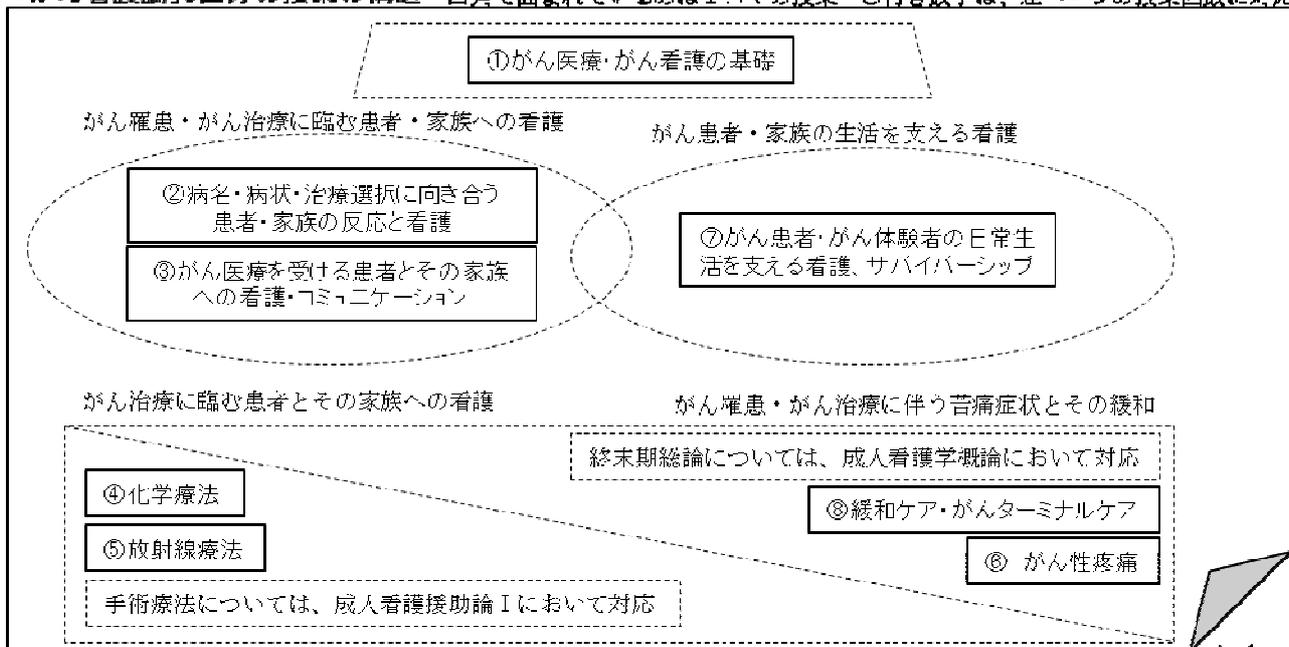
テキスト及び参考書、参考文献・参考URL等
随時、資料を配布します。
成績評価の方法・基準
事前学習、現地での学習に対する参加状況（50%） レポート提出（50%）
課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
課題提出前にタイ国において、疑問点などを確認するための振り返りのミーティングを持つ。 国際看護論は前期科目のため、帰国後、9月の中旬をめぐりにレポートの提出となります。担当教員がレポートに対し、メールでコメントを述べます。
担当教員からのメッセージ
世界の情報が容易に入手できる時代ではありますが、「百聞は一見に如かず」と言われるように、海外の看護大学の様子、看護事情を実際に見て、感じ、その場で学習することは得難い機会であり、その経験を通して、日本の看護についても気づかされる点が見つかります。視野が広がり、学習への取り組み、自身の看護観、キャリア形成の考え方に刺激を受けます。本学ならではの国際看護論をより多くの学生が履修することを望んでいます。
実務経験のある教員等による授業科目（実務経験と当該授業科目との関連）
該当なし

【専門教育科目】

授業科目名	授業科目コード	配当年次時期	履修方法	単位数 時間数	授業 形態	開講曜日 時限
がん看護論	611	4前	選	1単位 15時間	講義	月4
担当教員（○印＝科目責任教員）						
○水野照美 MIZUNO, Terumi 吉岡 恵 YOSHIOKA, Megumi						
オフィスアワー／連絡先と連絡方法						
講義の後、教室で質問を受けます / 別途面談希望の場合は、対面またはメールで日程調整をします。 水野（5号館2階203）：t-mizuno、吉岡（5号館2階210）：m-yoshioka メールアドレスは、上記の後ろに、●saku.ac.jp						
授業の概要						
がんの予防から診断法と最新の治療法、さらに終末期における対象と家族を取り巻く状況について看護の役割を理解する。痛みの緩和法、症状コントロール、化学療法を含めたがんの治療法を知り、対象の心身両面の苦痛を和らげる緩和ケアについて学習し、がん看護に関する看護の専門性を理解する。						
到達目標						
<ol style="list-style-type: none"> 1. がん患者とその家族のおかれた状況を多面的（身体的・心理社会的・経済的等）に説明できる 2. 癌の特徴、がん治療の特徴、がん罹患とがん治療に伴う苦痛症状の特徴、がん患者の生活状況の特徴等の理解を通して、必要な看護の内容及方法について考えを述べることができる 3. 既習の看護学実習や講義・演習科目などを統合してがん看護における関心領域を探究し、将来の看護実践における課題について述べるができる 						
卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連						
「看護の発展と探究」区分の最後に置かれている、統合的な科目です。カリキュラムマップにおいては、「Ⅴ 多様な健康レベルと個性に対応できる看護実践能力」の項に配置されており、この内容に最も関わります。臨床における看護実践と強いつながりがあります。この科目は、「がん」という疾患を切り口にして、年代・健康レベル（急性・慢性・回復・終末など）・治療方法の多様性に触れることから、「Ⅳ 看護実践能力の基盤」の確認につながります。加えて、「がん」という病いを通して、「Ⅲ 命の大切さを深く理解し、擁護する能力」「Ⅶ 多様な領域の専門家と連携し、協働できる能力」にも関わります。この科目のレポートに取り組むことで、「Ⅱ 学問を深め真理を探究していく態度・能力」の訓練になります。						
授業計画						
回数	授業内容	授業方法	担当教員			
1	オリエンテーション がん医療・がん看護の基礎	講義	水野			
2	病名・病状・治療選択に向き合う患者・家族の反応と看護	講義・演習	吉岡			
3	がん医療を受ける患者とその家族への看護・コミュニケーション	講義・演習	水野			
4	がん治療に臨む患者とその家族への看護 1 化学療法	講義	特別講師			
5	がん治療に臨む患者とその家族への看護 2 放射線療法	講義	特別講師			
6	がん罹患・がん治療に伴う苦痛症状とその緩和 がん性疼痛	講義	水野			
7	がん患者・がん体験者の日常生活を支える看護、サバイバーシップ	講義・演習	水野			
8	がん患者への緩和ケア、ターミナルケア	講義	水野			
8回分の授業の構造は、右ページの図						
授業時間外学修（準備学習を含む）の具体的な内容及びそれに必要な時間						
<ul style="list-style-type: none"> ・ 授業資料や参考文献を確認して、複数回の時間外学習課題に取り組む（14時間） ・ 既習の講義や実習記録の振り返り、読書・TV視聴などを通して、がん看護における関心事をつかむ（5時間） ・ がん看護における関心事について詳しく調べ、がん看護の役割について論述する。推敲・修正する。（11時間） 						

<p>テキスト及び参考書、参考文献・参考URL等</p> <p>テキスト：指定しない（積極的に学びたい場合、下記がお勧めです）</p> <p>参考文献：小松浩子（2017）. 系統看護学講座 別巻 がん看護学 第2版. 医学書院 ほか、授業内で紹介</p>
<p>成績評価の方法・基準</p> <p>■ 筆記試験（40%） 到達目標 1, 2に該当 授業時間外の学修として、課題を複数回課す予定です</p> <p>■ レポート（50%） 到達目標 2, 3に該当 講義終了後に期日を定めて提出する最終レポートです 課題は複数提示しますので、関心のあるものを選ぶことができます</p> <p>評価基準 1：形式が整っている（例 期限内提出、課された課題への応答、文献の引用、など）</p> <p>評価基準 2：丁寧に論述している（例 導入部がある、文章が分かり良い、論理的な展開、剽窃がない）</p> <p>評価基準 3：がん看護について探究している（例 探究した結果がある、結果に基づく考察である、多面的に考察している、看護の役割が述べられている、トピックに独創性がある）</p> <p>■ 授業参加状況（10%）</p>
<p>課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法</p> <p>・ 時間外学修課題は、内容によってコメントをつけて返却します 解説が必要な場合は、専任教員の担当時間内に行います</p> <p>・ レポートは、コメントをつけて返却します</p>
<p>担当教員からのメッセージ</p> <p>・ 日程と学習の順序は初回授業にて説明します</p> <p>・ 「看護総合実習」において、がん患者さんと接する可能性のある方はぜひ受講しましょう</p> <p>・ 「看護学研究」において、がん患者さんやそのご家族に関するテーマに取り組む場合、ヒントを得ることができます</p> <p>・ 看護師国家試験では、領域を超えて広く「がん看護」が出題されますので、準備につながります</p> <p>・ 将来、ほとんどの方が、がん患者さんやそのご家族とかかわりをもつと思いますのでぜひどうぞ</p>
<p>実務経験のある教員等による授業科目（実務経験と当該授業科目との関連）</p> <p>該当なし</p>

「がん看護論」8回分の授業の構造 四角で囲まれているのは1コマの授業 ○付き数字は、左ページの授業回数に対応



看護総合実習 看護学研究
看護師国家試験 将来の臨床実践

2020年度

授業科目別シラバス

－ 専門教育科目 －
（ 実 習 ）

佐久大学看護学部

【専門教育科目】

授業科目名	授業科目コード	配当年次時期	履修方法	単位数 時間数	授業形態	開講曜日 時限
EBN (Evidence-Based Nursing) 実習 I	404	2前	必	1単位 45時間	実習	集中
担当教員 (○印=科目責任教員)						
○宮原香里 MIYAHARA, Kaori	吉田文子 YOSHIDA, Fumiko	八尋道子 YAHIRO, Michiko				
武田貴美子 TAKEDA, Kimiko	内山明子 UCHIYAMA, Akiko	二神真理子 FUTAGAMI, Mariko				
柳澤佳代 YANAGISAWA, Kayo	森本 彩 MORIMOTO, Aya	柴田香菜子 SHIBATA, Kanako				
オフィスアワー／連絡先と連絡方法						
宮原香里 / k-miyahara@saku.ac.jp 実習開始前のオリエンテーション終了後に教室で質問を受け付ける。随時メールで質問を受け付ける。						
授業の概要						
本実習は最初の看護学実習となるため、臨地実習における学修の仕方の習得をめざす。具体的には対象者を中心とした看護について、事前学修をもとにテーマを決めて新たな自身の学修課題を明確にし追求する。臨地では、医療施設や介護サービス施設において、さまざまな健康課題をもつ人々や看護職および関連職員と実際に接し対話力を高めながら、看護について理解を深め、EBNについて考察する。						
到達目標						
<ol style="list-style-type: none"> 1. 臨地実習における学修の仕方を習得することができる。 自律性のある学修：経験のふりかえりから課題を出して、それを調べ、経験と統合させる。 その内容を相手に説明することができる。 2. 看護職の役割をチームメンバーと協働しながら追求することができる。 3. 健康課題を持つ人々や看護職と対話することができる。 4. 相手を尊重した適切な言葉遣いや態度をとることができる。 5. 自分の考えや思いを他者に表現することができる。 6. 課題に沿って実習をふりかえることができる。(reflection) 						
卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連						
看護実践能力の基盤に関連する。						
授業計画						
実習方法： 実習1日目 学内において、看護の定義をもとにEBNについて事前学修をし学修課題を明確にする。 実習2日目 医療施設において、病院長・看護部長の講義と病院見学を通して、看護の場を知る。 実習3～4日目 医療施設や介護サービス施設において、さまざまな健康課題をもつ人々や看護職および関連職員と実際に接し対話力を高めながら、看護職の役割について理解を深める。 実習5日目 学内において、提示されたクリティカルシンキングの課題について学びを共有する。 EBN実践に向けての課題を明らかにする。 実習期間： 2020年5月11日（月）～5月15日（金） 5日間 実習施設： 佐久市立国保浅間総合病院、JA長野厚生連佐久総合病院佐久医療センター シルバーランドみつい、シルバーランドきしの ※詳細は実習要項参照						
授業時間外学修（準備学習を含む）の具体的な内容及びそれに必要な時間						
本実習はチームで学修課題を明確にして実習に臨む。そのため、実習開始前までに「事前学修シート（個人）」を記載し、看護について知りたいこと、疑問に思ったことを書き出す。さらに、看護の定義をもとにEBNについて、チームと共有したい学修課題を明らかにする。詳細は、実習開始前のオリエンテーションで説明する。						
テキスト及び参考書、参考文献・参考URL等						
特になし						

成績評価の方法・基準
EBN I ルーブリックに従う
課題に対するフィードバックの方法
実習2～4日目の実習日誌はチームごとにまとめ、翌朝担当教員へ提出する。 最終レポートは原則コメントを書いて返却する。実習記録の返却日はmanabaで周知する。
担当教員からのメッセージ
実習開始前にオリエンテーションを行います。日程などの詳細はmanabaで確認してください。
実務経験のある教員等による授業科目（実務経験と当該授業科目との関連）
看護師・助産師として病院等での勤務経験のある教員が、その実務経験を活かした臨地実習指導を行います。 （宮原香里、吉田文子、八尋道子、武田貴美子、内山明子、二神真理子、柳澤佳代、森本 彩、柴田香菜子）

【専門教育科目】

授業科目名	授業科目コード	配当年次 時期	履修方法	単位数 時間数	授業 形態	開講曜日 時限
EBN (Evidence-Based Nursing) 実習Ⅱ	405	2通	必	2単位 90時間	実習	集中
担当教員 (○印=科目責任教員)						
○二神真理子 FUTAGAMI, Mariko	吉田文子 YOSHIDA, Fumiko	八尋道子 YAHIRO, Michiko				
武田貴美子 TAKEDA, Kimiko	内山明子 UCHIYAMA, Akiko	宮原香里 MIYAHARA, Kaori				
柳澤佳代 YANAGISAWA, Kayo	森本 彩 MORIMOTO, Aya	柴田香菜子 SHIBATA, Kanako				
オフィスアワー／連絡先と連絡方法						
二神真理子／m-futagami●saku.ac.jp						
・実習開始前のオリエンテーション終了後に教室で質問を受け付ける						
・随時メールで質問を受け付ける						
授業の概要						
実習病院において患者を一人担当し、患者とその家族から生活者としての視点で系統的に得た情報のもつ意味を追求し、その患者にとって最善のエビデンスを用いて看護を行う。より良い看護実践になるよう提示される「EBN実習用ルーブリック」を指標にしながら知識・技術・態度の統合をはかる。						
到達目標						
1. 患者に関心を持ち、相手の立場に立ってコミュニケーションをとることができる。						
2. 日常生活から気がかりを見出し、患者の個別性を配慮した看護計画が立案できる。						
3. 患者の反応をもとに言葉をかけながら援助することができる。						
4. 自身が実践した看護について、患者の反応をもとに分析・記録できる。						
5. 看護実践のふりかえりを通して、自己の行動特徴を洞察できる。						
6. 実習体験から看護の独自性や役割について意見を持つことができる。						
7. 必要な知識を探索し、記録上で活用することができる。						
卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連						
「看護実践能力の基盤」を身につける科目である。						
*先修科目：生活援助論Ⅰ・Ⅱ、EBN実習Ⅰ、フィジカルアセスメント						
授業計画						
1. 実習方法： 成人・老年期で日常生活援助（特に清潔の援助）を必要とする慢性期にある患者1名を担当する。						
2. 実習期間： EBN実習ⅡはEBN実習Ⅱ①とEBN実習Ⅱ②で構成され、①は6月の5日間、②は11月の5日間である。 学生は前半・後半に分かれる。6月に前半だった学生は実習時期の公平性を保つため、11月の実習では後半となる。						
EBN実習Ⅱ①前半 2020年 6月11日（木）～ 6月17日（水）の5日間						
①後半 2020年 6月18日（木）～ 6月24日（水）の5日間						
EBN実習Ⅱ②前半 2020年11月 5日（木）～11月11日（水）の5日間						
②後半 2020年11月12日（木）～11月18日（水）の5日間						
3. 実習施設： 佐久市立国保浅間総合病院、JA長野厚生連浅間南麓こもろ医療センター、東御市民病院、 特定医療法人丸山会丸子中央病院、日本赤十字社川西赤十字病院						
※詳細は実習要項参照						
授業時間外学修（準備学習を含む）の具体的な内容及びそれに必要な時間						
実習前までに、フィジカルアセスメントおよび生活援助論Ⅰの看護技術について患者に実践できるレベルまで練習しておく。また、看護展開論で学んだ内容についても十分復習しておく。学生配置発表後は、実習病棟の特徴に合わせた事前学修をすすめておく。						
実習中は、担当患者の主な疾病に関する形態機能、病態生理、主要症状・検査・治療とその一般的な看護について学習するとともに、患者にとっての最善のエビデンスを調べ、計画を立てる（毎日1～2時間程度）。						
実習後は、提出期限までに文献を用いて最終レポートをまとめる。実習で明らかとなった自身の課題に対し、目標を定め、計画的に行動をする。						

テキスト及び参考書、参考文献・参考URL等
特になし
成績評価の方法・基準
EBNⅡルーブリックに従う（EBN実習Ⅱ①とEBN実習Ⅱ②の配点が異なるため、必ず確認すること）
課題に対するフィードバックの方法
学生は日々の実習計画を立案し、指導者や実習担当教員が毎朝内容を確認しその場でフィードバックをする。毎日提出する実習日誌への教員からのフィードバックは、口頭もしくは記録上へのコメント、面接等で行う。そのため、毎日の実習日誌は、当日の実習開始時に教員へ提出すること。
担当教員からのメッセージ
実習開始前にオリエンテーションを行います。詳細はmanabaで確認してください。
実務経験のある教員等による授業科目（実務経験と当該授業科目との関連）
看護師・助産師として病院等での勤務経験のある教員が、その実務経験を活かした臨地実習指導を行います。 （二神真理子、吉田文子、八尋道子、武田貴美子、内山明子、宮原香里、柳澤佳代、森本 彩、柴田香菜子）

【専門教育科目】

授業科目名	授業科目コード	配当年次時期	履修方法	単位数 時間数	授業 形態	開講曜日 時限
成人看護学実習Ⅰ（急性期）	504	3後	必	3単位 135時間	実習	集中
担当教員（○印＝科目責任教員）						
○塩入とも子 SHIOIRI, Tomoko、水野照美 MIZUNO, Terumi、 喜多村定子 KITAMURA, Sadako、櫻井真智子 SAKURAI, Machiko						
オフィスアワー／連絡先と連絡方法						
実習終了後および学内日またはメールやmanabaで予約 塩入とも子 t-shioiri●saku.ac.jp 5号館2階（助手室） 水野照美 t-mizuno●saku.ac.jp 5号館2階203研究室 喜多村定子 s-kitamura●saku.ac.jp 1号館1階1106研究室 櫻井真智子 m-sakurai●saku.ac.jp 5号館2階（助手室）						
授業の概要						
成人期（急性期）にある対象を科学的視点でアセスメントする能力を習得し、個々の対象の健康レベルに応じた援助を実践するため、学習した知識や技術を用いて看護過程を展開する能力を養う。						
到達目標						
急性期にある成人患者とその家族に必要な看護を理解し、看護過程を用いて対象の病状や経過に合った看護を実践する以下の基本5つを習得する。 1. 急性期にある患者とその家族の理解に基づく看護 2. 急性期の患者を中心とした人間関係の構築に基づく看護 3. 医療チームの一員である自覚 4. 急性期患者の受け持ち看護学生として相応しい倫理・態度 5. 健康状態が急激に変化する患者とその家族の看護を探求する態度						
卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連						
「命の大切さを深く理解し、擁護する能力」と「看護実践能力の基盤」での学び、さらに「多様な健康レベルと個性に対応できる看護実践能力」として成人看護援助論等で修得した知識・技術を実践に生かしていく実習科目である。 先修科目：EBN実習Ⅱ、成人看護学概論、成人看護学援助論Ⅰ・Ⅱ						
授業計画						
実習方法：急性期（主に周手術期）の患者を受け持ち、看護過程を用いて看護を実践する カンファレンスを活用し、相互に学ぶ 一般病棟、手術室、術後集中管理病棟等において看護の継続性を学ぶ 原則として、実習期間中は受け持ち患者1名を決める 継続して受け持つことができない場合は、複数名の患者を受け持つこともある 実習期間：3週間 実習施設：佐久医療センター、浅間総合病院、浅間南麓こもる医療センター ※詳細は実習要項参照						
授業時間外学修（準備学習を含む）の具体的な内容及びそれに必要な時間						
既習科目（形態機能学、健康障害と治療、フィジカルアセスメント、成人看護学概論等）、特に成人看護援助論Ⅰでの学習、成人看護援助論Ⅱでの周手術期演習が実習内容に直結します。 受け持ち患者決定から手術までの期間が非常に短いため受け持ち患者が決まってからの準備では間に合わないこと、さらに成人看護援助論Ⅰが2年次後期の開講科目であったことも踏まえて必ず準備学習を早期から行うこと（領域別実習開始前、すなわち夏季休暇中にある程度の準備をしておくこと）。						
テキスト及び参考書、参考文献・参考URL等						
参考文献：成人看護学概論、成人看護援助論Ⅰ・Ⅱ等で活用した文献、資料 鎌倉やよい（2011）. 周術期の臨床判断を磨く. 医学書院 竹内登美子（2019）. 周手術期看護1～3、5 第3版. 医歯薬出版株式会社 倉橋順子（2010）. はじめての手術看護. メディカ出版						

成績評価の方法・基準
実習要項に記載する方法・基準による
課題に対するフィードバックの方法
事前課題に関しては、オリエンテーションの中で確認を行う予定です。 実習中は、指導者・教員からの助言、実習記録やカンファレンスでのやり取り等を通して、気づいたことや必要なことは都度伝えたいと思います。
担当教員からのメッセージ
本実習は、急性期にある患者が、学生実習を受け入れてくださることで初めて成り立つものです。 急性期で状態が目まぐるしく変化する患者のためになる看護を実施するには、実習開始前からの知識・技術の入念な準備が必要となります。成人看護学援助論Ⅰの講義と周手術期演習をもとに、急性期の看護に必要な基本的知識を整理・理解しておいてください。 3週間の実習の中で、病棟、手術室、術後集中管理病棟と様々な場所で実習を行います。実習を最後まで行うために、自身の心身両面の健康管理と、集中して臨める環境を整えてください。
実務経験のある教員等による授業科目（実務経験と当該授業科目との関連）
看護師として、病棟・手術室などで様々な臨床経験のある教員が、その実務経験を活かした臨地実習指導を行います。 (塩入とも子、水野照美、喜多村定子、櫻井真智子)

【専門教育科目】

授業科目名	授業科目コード	配当年次時期	履修方法	単位数 時間数	授業形態	開講曜日 時限
成人看護学実習Ⅱ（回復・慢性期）	505	3後	必	3単位 135時間	実習	集中
担当教員（○印＝科目責任教員）						
○吉岡 恵 YOSHIOKA, Megumi、水野照美 MIZUNO, Terumi、阿藤幸子 ATO, Sachiko、喜多村定子 KITAMURA, Sadako、塩入とも子 SHIOIRI, Tomoko、櫻井真智子 SAKURAI, Machiko						
オフィスアワー／連絡先と連絡方法						
実習終了後および学内日またはメール 吉岡：5号館2階210 m-yoshioka、水野：5号館2階203 t-mizuno、阿藤：5号館2階209 s-ato、喜多村：1号館1階1106 s-kitamura、メールアドレスは、上記の後ろに、●saku.ac.jp						
授業の概要						
成人期にある人の特性を理解し、受け持ち患者の病態や症状・徴候、経過、治療法などを学び、健康状態に応じた適切な看護ケアを提供できる基礎的知識、技術、態度を養う。また、保健医療チームの機能や役割、看護職としての機能や役割について学ぶ。						
到達目標						
治療を受ける成人患者とその家族に必要な看護を理解し、看護過程を用いて対象の健康状態や生活に合った看護を実践する以下の基本5つを習得する。 1. 治療を受ける患者とその家族の理解に基づく看護 2. 治療を受ける患者を中心とした人間関係の構築に基づく看護 3. 医療チームの一員である自覚 4. 治療を受ける患者の受け持ち看護学生として相応しい倫理・態度 5. 健康状態の変化に伴う生活の調整を必要とする患者とその家族の看護						
卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連						
看護の基本で学んだことを踏まえ看護の展開をしていく実習科目であり、また「多様な健康のレベルと個別性に対応できる看護実践能力」に関連している。 先行して履修すべき科目（EBN実習Ⅱ、成人看護学概論、成人看護援助論Ⅰ・Ⅱ）を修得、あるいは修得見込みの者が受講できる。						
授業計画						
実習方法：成人期の患者を受け持ち、看護過程を用いて看護を実践する。 カンファレンスを活用し、相互に学ぶ。 病棟・外来・リハビリテーション部門において看護の継続性を学ぶ。 原則として、実習期間中は受け持ち患者を決める。患者1名に学生1名。 継続して受け持つことができない場合は、複数名の患者を受け持つこともある。 実習期間：3週間 実習施設：浅間総合病院、佐久総合病院、佐久医療センター、浅間南麓こもろ医療センター ※詳細は実習要項参照						
授業時間外学修（準備学習を含む）の具体的な内容及びそれに必要な時間						
事前：患者を受け持って看護過程が展開ができるよう担当教員からオリエンテーションを受け、事前学習を行い実習に臨みましょう。（既習科目の形態機能学・健康障害と治療・フィジカルアセスメント・生活援助論Ⅰ・Ⅱ・成人看護学概論・成人看護援助論Ⅰ・Ⅱ等で学んだことを復習する） 事後：受け持ち患者に行った看護を実習記録に整理し理解を深め、対象にふさわしい看護を検討していきます。						
テキスト及び参考書、参考文献・参考URL等						
テキスト：指定しない 参考文献：成人看護学概論、成人看護援助論Ⅰ・Ⅱ等で活用した文献・資料						

成績評価の方法・基準
その他（実習要項に記載する方法・基準による）
課題に対するフィードバックの方法
実習中は指導者・教員からの助言や実習記録のコメントを受けながら、受け持ち患者の看護過程を展開し実践していきます。
担当教員からのメッセージ
1. 患者を受け持って看護学実習を行うため、実習に集中できる環境を整えておきましょう 2. 3週間、医療施設にて実習を行うため、十分な健康管理をしましょう
実務経験のある教員等による授業科目（実務経験と当該授業科目との関連）
看護師として病院での実務経験のある教員が、臨地実習指導を担当します。 （吉岡 恵、水野照美、阿藤幸子、喜多村定子）

【専門教育科目】

授業科目名	授業科目コード	配当年次時期	履修方法	単位数 時間数	授業形態	開講曜日 時限
老年看護学実習	513	3後	必	2単位 90時間	実習	集中
担当教員（○印＝科目責任教員）						
○小野美香子 ONO, Mikako 1号館3階311 安川揚子 YASUKAWA, Yoko 5号館3階302 井坂 恵 ISAKA, Megumi 2号館2階助手室 大淵律子 ObUCHI, Ritsuko 1号館1階1100						
オフィスアワー／連絡先と連絡方法						
実習の学内日および個別にメールで対応する。						
授業の概要						
老年期にある対象の特性を理解し、受け持ち高齢者における必要なニーズを見出して、今まで学習してきた知識、技術を実際の場面を通じて統合し、適切に看護過程を展開できる技術・能力・態度を養う。						
到達目標						
1. 加齢変化や疾病に伴う健康課題をもつ高齢者の看護過程を展開できる。 2. 保健医療福祉チームの中で高齢者とその家族への看護の役割を説明できる。 3. 自己の洞察を深め、課題を明確にする。						
卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連						
老年看護学実習は、「多様な健康のレベルと個性に対応できる」に位置付けられている科目だが、学位授与の方針のすべてに関わる学びをする。 *先修科目：EBN実習Ⅱ、老年看護学概論、老年看護援助論						
授業計画						
実習方法： ・施設に入所、または病院に入院している高齢者を受け持ち、看護過程を展開する。 ・多くの高齢者と関わり、アクティビティ（個別・集団）に参加する。 ・カンファレンスを通じて、高齢者とその家族への看護についての見識をひろげる。 実習期間：2週間 実習施設：4施設のうち1施設で実習する ・佐久総合病院老人保健施設 ・佐久総合病院老人保健施設こうみ ・老人保健施設こまくさ ・鹿教湯三才山リハビリテーションセンター鹿教湯病院 ※詳細は実習要項参照						
授業時間外学修（準備学習を含む）の具体的な内容及びそれに必要な時間						
事前学習： テキスト・授業資料等をもとに、実習施設の設置基準・特徴について調べる。 病態、症状、疾患による日常生活への影響、加齢変化について調べ、ノート等にまとめる。 ※詳細は実習要項参照						
テキスト及び参考書、参考文献・参考URL等						
老年看護学概論、老年看護援助論で使用したテキストや資料等。						
成績評価の方法・基準						
実習要項に記載する方法・基準による。						

課題に対するフィードバックの方法
実習中、口頭あるいは実習記録へのコメントにより指導する。 また、実習終了後に個別面談をする。
担当教員からのメッセージ
保健医療福祉チームの一員であるという認識を持ち、メンバーと協力することで、対象理解とより良いケアの実践につなげていきましょう。
実務経験のある教員等による授業科目（実務経験と当該授業科目との関連）
看護師として総合病院・介護老人保健施設等に勤務経験のある教員が、その実務経験を活かした臨地実習指導を行う。 (小野美香子、安川揚子、井坂 恵、大淵律子)

【専門教育科目】

授業科目名	授業科目コード	配当年次時期	履修方法	単位数 時間数	授業 形態	開講曜日 時限
精神看護学実習	523	3後	必	2単位 90時間	実習	集中
担当教員（○印＝科目責任教員）						
○柿澤美奈子（KAKIZAWA, Minako） 坂江千寿子（SAKAE, Chizuko） 井手段幸樹（ITEDAN, Kouki） 篠崎一栄（SHINOZAKI, Kazue） 林 裕枝（HAYASHI, Hiroe）						
オフィスアワー／連絡先と連絡方法						
原則、実習期間内の学内日および実習終了後 オフィスアワー以外の面談予約はメールで可能である。 柿澤 : m-kakizawa●saku.ac.jp 5号館2階207 坂江 : chi-sakae●saku.ac.jp 5号館3階309 井手段 : k-itedan●saku.ac.jp 1号館3階1312 篠崎 : k-shinozaki●saku.ac.jp 5号館2階助手室 林 : hiro-hayashi●saku.ac.jp 1号館2階非常勤助手室						
授業の概要						
精神看護の特性と看護ケアの特殊性を理解し、適切に看護を展開するための知識、技術、態度を統合する。治療的コミュニケーションの技法やその他の精神療法について理解を深め、精神疾患をもつ方への看護援助の実際を学ぶ。						
到達目標						
1. 患者－看護師関係の成立過程を理解し、治療的コミュニケーションの基礎的能力を身につけることができる。 2. 急性期・回復期あるいは慢性期にある患者を受け持ち、精神症状によって影響されているセルフケア能力や生活上の困難に視点をあて、看護過程を用いて対象に応じた看護の実践ができる。 3. 社会復帰に関する諸活動に参加して、現在の精神障がい者の置かれている立場を理解し、保健医療福祉チームの一員として、果たすべき役割を論述することができる。 4. 看護場面で生じる倫理的な課題を患者中心の視点から認識し、自己の倫理観を育成することができる。						
卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連						
「豊かな人間性と幅広い教養」「命の大切さを深く理解し、養護する能力」「看護実践能力の基盤」を基に、「多様な健康レベルと個性性に対応できる看護実践能力」を身につける授業科目であり全て実習という授業形態である。「様々な領域の専門家と連携し協働できる能力」の行動の基盤となる。 *先修科目：EBN実習Ⅱ、精神看護学概論、精神看護援助論						
授業計画						
実習方法： 〈病棟〉 1. 看護過程を用いて受け持ち患者の看護を実践する。 2. 治療プログラムに参加し働きかけの実際を学ぶ。 3. 看護場面の再構成を記述し、コミュニケーションの傾向を自己評価する。 4. 看護場面における倫理的な課題をとりあげアサーションを意識しながら検討する。 〈精神科デイケアまたは就労継続支援B型事業所〉 1. 精神科デイケア等のプログラムに参加し、当事者が地域生活を維持するための支援や課題を考察する。 実習期間：2週間 実習施設： 〈病棟〉 北アルプス医療センターこころのホスピタル、小諸高原病院、佐久総合病院、千曲荘病院 〈精神科デイケアおよび就労継続支援B型事業所〉 各病院精神科デイケア 佐久の泉共同作業センター ワークポート野岸の丘、等 ※詳細は実習要項参照						

授業時間外学修（準備学習を含む）の具体的な内容及びそれに必要な時間
効果的に実習ができるよう事前学習を十分しておく。 日々の実習をよくふりかえり、自己の成長につなげる努力をする。
テキスト及び参考書、参考文献・参考URL等
テキスト： 岩崎弥生, 渡邊博幸編(2015). 精神看護学① 精神看護学概論 精神保健. メヂカルフレンド社. 渡邊博幸, 岩崎弥生 編(2016). 精神看護学② 精神障害をもつ人の看護. メヂカルフレンド社. 参考文献： 精神看護学概論、精神看護援助論で使用した資料等
成績評価の方法・基準
実習要項に記載する方法・基準による。
課題に対するフィードバックの方法
実習中は、カンファレンスを含め、口頭で指導者・教員から助言する。また、実習記録へコメントする。 事前課題やレポート、記録等は実習評価後、コメントして返却する。
担当教員からのメッセージ
医療にかかわるものとしての自覚と責任を持って実習に臨みましょう。臨地指導の方々や教員を活用しながら、精神看護について、感じ考え学び合ひましょう。
実務経験のある教員等による授業科目（実務経験と当該授業科目との関連）
看護師として精神科に勤務経験のある教員が、その実務経験を活かした臨地実習指導を行います。 (柿澤美奈子、坂江千寿子、井手段幸樹、篠崎一栄、林 裕枝)

【専門教育科目】

授業科目名	授業科目コード	配当年次時期	履修方法	単位数 時間数	授業 形態	開講曜日 時限
小児看護学実習	533	3後	必	2単位 90時間	実習	集中
担当教員（○印＝科目責任教員）						
○小林 睦 KOBAYASHI, Mutsumi 5号館2階207 橋本佳美 HASHIMOTO, Yoshimi 5号館3階308 鈴木千衣 SUZUKI, Chie 5号館3階307 石坂俊也 ISHIZAKA, Toshiya 1号館3階1320						
オフィスアワー／連絡先と連絡方法						
実習期間内の学内日 相談があるときは実習要項のアドレスを参照ください。						
授業の概要						
健康や発達に生じた障害が子どもと家族に及ぼす影響を理解し、子どもの成長発達段階及び健康段階に応じた小児看護実践に必要な基礎的能力を養う。						
到達目標						
1. 子どもの日常生活を理解し、健やかな成長発達への支援を考える。 2. 子ども(対象者)との相互作用を通して、個々の子ども(対象者)の理解を深める。 3. 子ども(対象者)の健康障害や医療が子どもと家族の生活におよぼす影響を理解する。 4. 健康障害をもつ子ども(対象者)や家族に必要なケアを表現できる。 5. 子ども(対象者)や家族を取り巻く人々(支援者)の役割を理解する。 6. 子どもや家族の看護を倫理的視点で考察し、必要な援助を考える。						
卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連						
「看護実践能力の基盤」を基に、「多様な健康のレベルと個別性に対応できる看護実践能力」に関連する。 *先修科目：E B N実習Ⅱ、小児看護学概論、小児看護援助論						
授業計画						
【幼稚園・保育園実習】 実習方法：各クラスの保育活動に参加し、子どもたちと積極的にコミュニケーションをとりながら、子どもや保育士の関わりを観察し、理解を深める。 実習期間：2020年8月31日（月）～9月1日（火） 実習施設：佐久幼稚園 佐久南幼稚園 小雀保育園						
【病棟実習、小児科外来・クリニック実習、特別支援学校実習】 実習方法：病棟実習では、一人の子ども（対象者）を受け持ち看護過程を展開しながら、成長発達・健康レベルに応じた看護を指導を受けながら実践する。 小児科外来・クリニックでは、外来受診する子ども・家族の看護課題に対し、指導を受けながら看護を実践する。 特別支援学校では、児童生徒の学校生活を観察したり、指導を受けながら関わる。 実習期間：2週間 実習施設：佐久総合病院本院小児科外来 佐久中央医院 佐久医療センター小児科外来 吉田子ども医院 浅間総合病院小児科外来 三才山病院 3・5病棟 信州上田医療センター小児科外来 東長野病院 のぞみA・B病棟 小諸養護学校						
※詳細は実習要項参照						
授業時間外学修（準備学習を含む）の具体的な内容及びそれに必要な時間						
実習オリエンテーションを聞き、各自が必要と考える事前学習をする。 実習中は日々の振りかえりを行い、教員の助言を受けて翌日の計画につなげる。						

テキスト及び参考書、参考文献・参考URL等
小児看護学概論・小児看護援助論で使用したテキスト 授業で配付した資料、その他、適宜提示します。
成績評価の方法・基準
実習要項に記載する方法・基準による。
課題に対するフィードバックの方法
実習中、口頭あるいは実習記録への適宜コメントにより指導する。また実習評価終了後、課題レポート・実習記録にコメントをつけて返却する。
担当教員からのメッセージ
<ul style="list-style-type: none">・実習目標を明確にして実習に臨んでください。・不明点等は速やかに教員と相談して解決しましょう。・感染症に罹患しないように、体調管理・清潔行動をきちんととってください。
実務経験のある教員等による授業科目（実務経験と当該授業科目との関連）
総合病院の小児病棟や小児専門病院等での勤務経験のある教員が、その経験を活かして、実践に即した臨地実習指導をします。（小林 睦、橋本佳美、鈴木千衣、石坂俊也）

【専門教育科目】

授業科目名	授業科目コード	配当年次時期	履修方法	単位数 時間数	授業形態	開講曜日 時限
母性看護学実習	543	3後	必	2単位 90時間	実習	集中
担当教員（○印＝科目責任教員）						
○中田覚子 NAKATA, Satoko 櫻井綾香 SAKURAI, Ayaka 湯本敦子 YUMOTO, Atsuko 他						
オフィスアワー／連絡先と連絡方法						
実習期間中の学内日および実習終了後（その他の時間についてはメールで相談） 中田覚子：s-nakata●saku.ac.jp（1号館1階1106） 櫻井綾香：a-sakurai●saku.ac.jp（1号館2階1214） 湯本敦子：a-yumoto●saku.ac.jp（5号館3階301）						
授業の概要						
母性の特性と看護ケアの特殊性を理解し、適切に看護を展開するために必要な知識、技術、態度の統合を図る。妊娠、分娩、産褥期、新生児期にある母子と家族への援助方法を学ぶとともに、次代を育む家族機能と支援について学ぶ。						
到達目標						
<ol style="list-style-type: none"> 1. 妊娠期・分娩期・産褥期・新生児期にある対象とその家族の身体的・心理的・社会的特徴と生理的变化について理解し、アセスメントできる。 2. 妊娠期・分娩期・産褥期・新生児期にある対象とその家族に必要な看護を科学的根拠に基づき計画、実施、評価できる。 3. 妊娠期・分娩期・産褥期・新生児期にある対象とその家族に対する看護の実際から、看護者の姿勢・役割を考察することができる。 4. 看護学生として適切かつ責任のある行動をとり、積極的に学ぶ姿勢を身につけることができる。 5. 母性看護学実習をとおして、生命の尊さ・自己の親性観・自己の将来像について考察できる。 						
卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連						
妊娠期・分娩期・産褥期・新生児期にある対象と家族に対する看護実践を通じ、「多様な健康レベルと個別性に対応できる看護実践能力」を身につける科目である。 ＊先修科目：EBN実習Ⅱ、母性看護学概論、母性看護援助論						
授業計画						
実習方法：以下のとおりである <学内> 1. シミュレーション演習（褥婦の全身状態の観察、授乳時の観察 等） <施設> 1. 褥婦と新生児の一組を担当し、一連の看護過程を展開する 2. 妊婦健康診査の見学、一部実践、保健指導の見学を通して、妊娠期の看護を学ぶ 3. 助言を受けながら、分娩期にある対象と関わり、分娩期の看護を学ぶ 4. 出生直後の新生児の観察とケアを見学する 5. 保健指導（両親学級、助産師外来、沐浴指導、退院指導 等）の見学を通して、看護者の姿勢を学ぶ 実習期間：2週間 実習施設：浅間総合病院 佐久医療センター 上田市立産婦人科病院 北信総合病院 ※詳細は実習要項参照						
授業時間外学修（準備学習を含む）の具体的な内容及びそれに必要な時間						
・事前学習① 身近な人の妊娠・出産・育児体験談のインタビュー ・事前学習② 実習用マイノートの作成 ・事前学習③ 基礎的な母性看護技術の修得に向けた自己練習 ※詳細は事前学習の手引き参照（母性看護援助論で説明予定）						
テキスト及び参考書、参考文献・参考URL等						
母性看護学概論・母性看護援助論で使用したテキストおよび講義資料						

成績評価の方法・基準
母性看護学実習評価表に基づき評価する（母性看護学実習評価表は実習オリエンテーション時に配付予定）
課題に対するフィードバックの方法
実習期間内に随時個別指導を行う
担当教員からのメッセージ
<ul style="list-style-type: none">・母性看護に関する看護技術の練習を十分に行い、基礎的看護技術を修得して実習に臨んでください。・健康管理に努め、健康上問題がある場合には早急に相談してください。・実習に関する諸連絡はmanabaで行います。必ず確認をしてください。・貴重なライフイベントの場面に関わらせて頂く実習となります。対象への感謝の気持ちを忘れず、積極的に学ぶ態度で実習に臨んでくれることを期待しています。
実務経験のある教員等による授業科目（実務経験と当該授業科目との関連）
助産師として産科病棟に5年以上勤務経験のある教員が、その実務経験を活かした臨地実習指導を行います。 （中田覚子、櫻井綾香、湯本敦子）

【専門教育科目】

授業科目名	授業科目コード	配当年次時期	履修方法	単位数 時間数	授業 形態	開講曜日 時限
在宅・地域看護学実習	556	3後	必	3単位 135時間	実習	集中
担当教員（○印＝科目責任教員）						
○鶴岡章子/TSURUOKA, Shoko、藤井千里/FUJII, Chisato、関本真奈美/SEKIMOTO, Manami、 佐藤美由紀/SATO, Miyuki、細谷たき子/HOSOYA, Takiko、川口桂嗣/KAWAGUCHI, Keiji、 佐藤紀子/SATO, Noriko、嶋崎八恵子/SHIMAZAKI, Yaeko 他						
オフィスアワー／連絡先と連絡方法						
学内日および実習終了後またはメール						
鶴岡：s-tsuruoka●saku.ac.jp	5号館3階305	佐藤（美）：m-sato●saku.ac.jp	5号館3階304			
藤井：c-fujii●saku.ac.jp	1号館3階1311	細谷：t-hosoya●saku.ac.jp	5号館2階204			
関本：m-sekimoto●saku.ac.jp	1号館1階1106	川口：k-kawaguchi●saku.ac.jp	1号館3階1312			
嶋崎：y-shimazaki●saku.ac.jp	1号館2階1221	佐藤（紀）：n-sato●saku.ac.jp	5号館2階助手室			
授業の概要						
療養者や障害者とその家族が、療養あるいは介護予防をしながら、在宅で希望する生活を継続するための健康支援の方法を、訪問看護ステーションと関連する保健医療福祉機関（施設）で実習する。在宅看護の対象の理解とヘルスアセスメントの基本知識と技術、効果的な看護を展開するための方法を、訪問看護師との同行訪問、同一事例への継続訪問を通して学ぶ。さらに、訪問看護師が病院や地域包括支援センターの保健師や看護師、多職種と連携してケアを提供し、あるいは地域ケアを充実させるために果たす役割について、ケアカンファレンス等への参加を通して理解する。						
到達目標						
<ol style="list-style-type: none"> 1. 在宅療養者とその家族の生活面から健康課題を把握し、看護過程を展開できる。 2. 訪問看護師と同行し、在宅療養者とその家族に個別性のある適切な看護援助ができる。 3. 在宅療養者の健康状態を維持するために、訪問看護師が、病院や地域の保健医療福祉の専門職と連携して行う看護活動を説明できる。 4. 地域で生活する人々の健康を維持し、生活を支える地域の保健活動やしきみ、看護職（保健師、看護師）の役割を説明できる。 5. 療養者とその家族を支える在宅ケアの質を高める看護職（保健師・看護師）のあり方を説明できる。 						
卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連						
<ul style="list-style-type: none"> ・多様な健康レベルと個性に対応できる看護実践能力・地域特性と文化的多様性を理解し、健康課題を捉える能力 ・他領域で学んだ看護技術を在宅に応用し看護過程を展開する ＊先修科目：EBN実習Ⅱ、地域看護学概論、地域看護援助論Ⅰ						
授業計画						
実習方法： <ul style="list-style-type: none"> ・訪問看護ステーション：訪問看護師に同行訪問し、様々な対象者への在宅看護の実際を学ぶ。 また、同一事例への継続訪問を通して看護過程を展開し、在宅における総合ケアの視点を明確に持ち、よりよい在宅ケアを推進させる看護の知識・技術・態度を養う。また、訪問診療等在宅ケアチームでの多職種連携の実際を体験し、そこでの看護職の機能と今後のあり方を考察する。 ・<u>デイサービス（通所介護）</u>：デイサービスのプログラムに参加し、利用者や家族にとっての意義と課題について考える。また、利用者の心身機能や興味・関心に基づく健康教室を実施し、利用者の健康意識を高め心身活性化をもたらす援助の方法を学ぶ。デイサービスにおける看護職・介護職の役割と連携のあり方を学ぶ。 ・<u>高齢者保健福祉事業への参加</u>：高齢者を主な対象として、療養生活を豊かにし、要介護状態への移行を予防し、あるいは健康な高齢者の生活機能を維持するための保健福祉事業に参加し、保健師の役割や多職種との協働の仕方を学ぶ。 ・<u>地域包括支援センター</u>：地域包括支援センターの組織や機能、在宅ケアとの連携、あるいは地域の高齢者が健康で尊厳のある生活を送るための活動を理解し、保健師あるいは看護師の役割と多職種との協働について学ぶ。 						
実習期間：3週間 実習施設：上述の関連施設（佐久市、佐久市内関連施設、小海町他）						
※詳細は実習要項参照						

授業時間外学修（準備学習を含む）の具体的な内容及びそれに必要な時間
関連科目の講義内容を復習するとともに、在宅・地域看護学実習の事前学習課題について、十分に学修しておくこと。
テキスト及び参考書、参考文献・参考URL等
地域看護援助論Ⅰ、地域看護学概論、保健衛生学で使用したテキストおよび資料
成績評価の方法・基準
実習要項に記載する方法・基準
課題に対するフィードバックの方法
1. 臨地での個別指導 2. 学内カンファレンスでの集団指導 3. 実習記録およびレポートにコメントを記入
担当教員からのメッセージ
この実習では、様々な健康状態やそれぞれの環境で生活する療養者とその家族に関わることで対象者を主体としたケアのあり方を学びましょう。また、在宅ケアを支えるケアシステムの理解と様々な保健医療福祉の場で活躍する看護職（保健師、看護師）と在宅ケアチームとの連携のあり方を、現場から積極的に学ぶ態度で実習に臨みましょう。
実務経験のある教員等による授業科目（実務経験と当該授業科目との関連）
行政保健師あるいは看護師として、市町村保健センター、保健所、総合病院、訪問看護ステーション、在宅介護支援センター等での勤務経験をもつ教員が、その実務経験を活かした臨地実習指導を行う。 （鶴岡章子、藤井千里、関本真奈美、佐藤美由紀、細谷たき子、川口桂嗣、佐藤紀子、嶋崎八恵子）

【専門教育科目】

授業科目名	授業科目コード	配当年次時期	履修方法	単位数 時間数	授業形態	開講曜日 時限
地域看護学実習	557	4後	自 (保) 必	3単位 135時間	実習	集中
担当教員 (○印=科目責任教員)		オフィスアワー／連絡先と連絡方法				
○佐藤美由紀/SATO Miyuki 細谷たき子/HOSOYA Takiko 川口桂嗣/KAWAGUCHI Keiji 佐藤紀子/SATO Noriko 中山松枝/NAKAYAMA Matue 峯村早苗/MINEMURA Sanae		学内日、実習終了後またはメール、manabaにて 佐藤美:5号館304、m-sato●saku.ac.jp 細谷:5号館204、t-hosoya●saku.ac.jp 川口:1号館1312、k-kawaguchi●saku.ac.jp 佐藤紀:5号館助手室、n-sato●saku.ac.jp				
授業の概要						
地域全体の健康レベルの把握・分析の方法、地域の健康ニーズと資源の明確化及びそれに基づいて住民、医療、福祉、教育機関等と連携して行う事業の展開の方法と保健師の役割を実践的に学ぶ。保健師が保健所・児童相談所等の広域的・専門的な機関と市町村とで役割分担しつつ、連携して効果的に活動するための方法を理解する。さらに、地域看護管理について実践的に学ぶ。						
到達目標						
<ol style="list-style-type: none"> 1. 保健所と管轄市町村との広域的な保健福祉システムおよびそこでの保健師の役割を説明できる。 2. 感染症、難病、災害等の健康危機の予防と対応等、専門的な対応が必要な健康課題について、保健所が国や市町村と連携して行う活動の内容と保健師の役割を説明できる。 3. 地域保健の根拠となる法律や制度を理解し、広域的な保健福祉事業の計画を読み、現状を知る。 4. 労働や学習の場である産業現場や学校における保健活動の特徴と、健康支援方法を理解する。 5. 管轄市町村において、総合実習で訪問した家庭の継続訪問を行い、対象と家族の健康課題の変化を把握し、必要な支援を考察することができる。 						
卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連						
<p>「国内外の地域特性と文化的多様性を理解し、健康課題をとらえる能力」を身につける授業科目であり、「多様な健康レベルと個別性に対応できる看護実践能力」「さまざまな領域の専門家と連携し協力できる能力」にも関連する。 *先修科目：看護総合実習</p>						
授業計画						
<p>実習方法：</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 保健所、児童相談所、精神保健福祉センターでの保健事業の参加・見学 2) 産業保健・学校保健の現場での実習・見学 3) 看護総合実習（市町村）での訪問事例の継続支援（支援計画の実施、保健指導の実施、保健指導の評価） <p>実習施設：</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 佐久保健所、上田保健所、長野保健所、北信保健所、長野市保健所、長野県中央児童相談所 長野県精神保健福祉センター 2) ミネベアミツミ軽井沢工場、佐久市内小中学校 3) 佐久市、小諸市、御代田町、小海町、上田市、東御市、長野市 <p>実習期間：8月31日～10月9日</p> <p>※詳細は実習要項参照</p>						
授業時間外学修（準備学習を含む）の具体的な内容及びそれに必要な時間						
<p>テキストや授業資料等により実習において実施する事業や保健活動について調べる。 実施後の評価及び復習。</p>						
テキスト及び参考書、参考文献・参考URL等						
<p>テキスト・参考文献：地域看護学概論、地域看護援助論Ⅱ・Ⅲ、保健衛生学、保健医療福祉行政論で使用したテキストや資料</p>						

成績評価の方法・基準
1. 実習における主体的な態度 35% 2. 実習記録 50% 3. 課題レポート 15%
課題に対するフィードバックの方法
実習中、気づいたことや必要なことを都度助言する。また、実習記録はコメントを記載して返却する。
担当教員からのメッセージ
保健師科目履修者であり、地域看護援助論Ⅲを履修中であること。 地域看護システム論、看護総合実習が履修済みであること。
実務経験のある教員等による授業科目（実務経験と当該授業科目との関連）
行政や結核研究所での保健師としての勤務経験を活かし、感染症、難病、精神保健等の保健活動、健康危機管理、広域的な保健福祉システム等の実習での学びを授業での知識と統合できるよう指導する。 （佐藤美由紀、細谷たき子、川口桂嗣、佐藤紀子、中山松枝、峯村早苗）

【専門教育科目】

授業科目名	授業科目コード	配当年次時期	履修方法	単位数 時間数	授業形態	開講曜日 時限
看護総合実習	591	4前	必	3単位 135時間	実習	集中
担当教員（○印＝科目責任教員）						
○吉岡 恵 (YOSHIOKA, Megumi)、他専任教員						
オフィスアワー／連絡先と連絡方法						
領域ごとのオリエンテーションでお知らせします。						
授業の概要						
EBN実習を含め、各領域の実習の集大成としての実習を行う。さまざまな状況下、さまざまな健康問題を持ち、健康レベルにある対象者について、今までの学習を応用して適切に、効果的に看護を展開する能力を養い、実践に必要な総合的実践能力を養う。						
到達目標						
<ol style="list-style-type: none"> 1. 対象者の安全を保証するために、状況に応じた適切な看護上の判断を行い、指導の下に看護実践できる。 2. 看護チームの一員として、複数の対象者に対するケアの優先度を判断し、指導の下にケアを計画・実施できる。 3. 臨地の看護状況の特徴を把握し、指導の下に問題解決に向けた看護が実践できる。 4. 看護実践の場において、各専門職と連携・協働して指導の下に看護を展開することができる。 5. 対象者の健康生活を総合的に支援するチームの一員として、地域の関係者と連携できる。 						
卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連						
<p>「命の大切さを深く理解し、擁護する能力」と「看護実践能力の基盤」、「多様な健康のレベルと個別性に対応できる看護実践能力」での学びをふまえ、「様々な領域の専門家と連携し、協働できる能力」を実践に生かしていく統合的な実習科目である</p> <p>*先修科目：成人看護学実習Ⅰ・Ⅱ、老年看護学実習、精神看護学実習、小児看護学実習、母性看護学実習、在宅・地域看護学実習</p> <p>地域看護学を選択した場合は上記科目に加え、地域看護援助論Ⅱ・Ⅲ、地域看護システム論</p>						
授業計画						
<p>実習方法： 基礎総合看護学、成人看護学、老年看護学、精神看護学、小児看護学、母性看護学、在宅看護学、地域看護学のいずれかの実践の場において、実習目標を総合的に達成する実習課題と実習計画を学生が主体的に設定して実習する。</p> <p>具体的には、3年次2月の看護総合実習全体オリエンテーションで、各領域から提示される実習要項をもとに、希望領域でどのような実習を行いたいかを考え、第4希望までを所定の用紙に記入し、期日までに提出する。学生の希望をもとに実習施設に関する配置等を決定し、4年次4月の前期ガイダンス時に各学生に実習領域を発表する。学生は配属になった領域担当教員と相談し、各自の実習計画に沿って主体的な学習をする。</p> <p>但し、保健師科目履修者は、地域看護学（市町村における地域健康支援実習）とする。</p> <p>実習期間：2020年6月29日～7月31日までの間で各領域が定める3週間</p> <p>実習施設：各看護学実習施設及び関連施設</p> <p>※詳細は看護総合実習全体オリエンテーションで配付される各領域の実習要項を参照のこと。</p>						
授業時間外学修（準備学習を含む）の具体的な内容及びそれに必要な時間						
<p>既習科目及び実習についてふりかえり、必要な知識や看護技術について十分復習しておくこと。</p> <p>実習する領域ごとに実習方法や実習期間が異なるので、事前に掲示される連絡事項や各領域の実習前オリエンテーションの内容には細心の注意をして実習準備をすること。</p>						
テキスト及び参考書、参考文献・参考URL等						
<p>テキスト：使用しない</p> <p>参考文献：領域の専任教員が紹介する。</p>						

成績評価の方法・基準
実習要項に記載する方法・基準による。
課題に対するフィードバックの方法
事前課題に関しては、領域ごとに実習開始前にオリエンテーションがあります。 実習中は、指導者・専任教員からの助言、実習記録やカンファレンスを通して伝えられます。
担当教員からのメッセージ
関心のあるテーマを選んで取り組む3週間の実習です。すでに学んだ知識や技術を統合して臨むことが求められるこの実習は、少人数のグループに分かれて実施します。看護に携わるプロフェッショナルとして社会に一步踏み出す前の実習として、担当教員に相談しながら、どのような実習にしたいか・何ができるか等、自分自身の看護に関する課題を具体的に考え、目的と目標を明確にして臨みましょう。
実務経験のある教員等による授業科目（実務経験と当該授業科目との関連）
看護師として臨地での実務経験のある教員が、実習指導を担当します。（全担当教員）